



家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

ENE・FARM type S
エネファーム

燃料電池発電ユニット

< 停電時自立発電モデル >

都市ガス 13A 192-AS11

LPガス 192-AS11

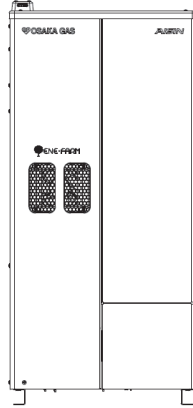
LPガス集中供給 192-AS13

< 標準モデル >

都市ガス 13A 192-AS12

LPガス 192-AS12

LPガス集中供給 192-AS14



大阪ガス 取扱説明書

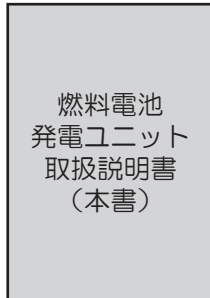
(保証書付き)



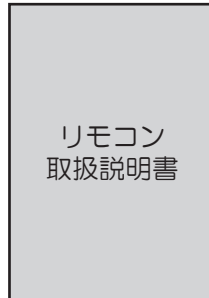
取扱説明書の見かた

エネファーム type Sの取扱説明書は下記3冊で構成されています。

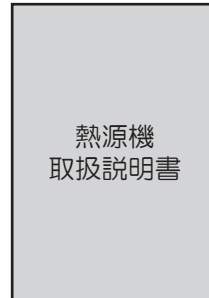
目的に合った取扱説明書をご確認ください。



燃料電池
発電ユニット
取扱説明書
(本書)



リモコン
取扱説明書



熱源機
取扱説明書

このたびは大阪ガスのエネファームtypeS燃料電池発電ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保管してください。

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 安全についての注意事項を記載しておりますので、必ずお守りください。
- お読みになった後、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、お使いになる方が変わる場合は、必ずこの取扱説明書をお渡してください。
この取扱説明書には、巻末に保証書がついています。大切に保管してください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■本機は各種熱源機とセットでご使用出来るように構成されています

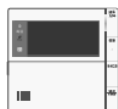
「発電」については、リモコンの種類ごとに記載していますので、
お客さまがお買い上げになられたリモコン記載ページをご覧ください。



リモコンA（138-N***シリーズ（138-N434は除く））・・・15ページを参照してください



リモコンB（138-T***シリーズ）・・・・・・27ページを参照してください



リモコンC（138-R***シリーズ）・・・・・・40ページを参照してください



発電リモコン（138-N434）・・・・・・53ページを参照してください

※お客さまがお買い上げになられたリモコンに、チェックを入れてご使用ください。

もくじ

ご使用の前に

エネファームについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 安全のため必ず守ってください・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 各部のなまえ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 ご使用前の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

お湯・お風呂・暖房

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

エネルギーの操作方法

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

無線LANの通信設定

熱源機の取扱説明書（リモコン編）をご覧ください

発電

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン	
リモコンについて	15	27	40	53	
発電について	17	29	42	55	
発電をする	19	31	44	57	
発電を止める	21	33	46	59	
停電時に電気を使う					
停電時自立発電	停電時自立発電機能の概要	22	35	48	60
	主な電気製品の消費電力	23	36	49	61
	停電発生時の対応	24	37	50	62
	過負荷時の復帰操作	24	37	50	62
	発電出力を上げる場合	26	39	52	63
停電時にお湯を使う	26	39	52	63	

■本書では、下記の呼びかたで説明をしています

- 燃料電池発電ユニットと熱源機を合わせたシステムを「エネファーム」
- 燃料電池発電ユニットを「発電ユニット」
- 発電ユニットと専用の熱源機を組み合わせた構成を「セット構成」
- 発電ユニットと専用ではない熱源機を組み合わせた構成を「後付構成」
- セット構成用台所リモコンを「台所リモコン」
- セット構成用浴室リモコンを「浴室リモコン」
- 後付構成用発電連係リモコンを「発電リモコン」
- ガスメーター（マイコンメーター）を「ガスマイコンメーター」

こんなときは

こんなときは

停電のときは	64
断水のときは	64
長期間使用しないときは	64
気温が-10℃を下回るときは	65
ガスの供給が途絶えたときは	65
ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは（ヒーター給湯モード）	66
工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは	70
災害時等緊急停止のときは	70
水抜きしたいときは	
発電ユニットの水を抜く	71
災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す	75

お手入れ

お手入れと周囲の確認	76
貯湯タンクの洗浄をする（1回/年以上）	
水抜き手順	77
水張り手順	79

困ったときに

故障・異常かな？とおもったら	81
エラー発生時の処置方法	83
エラー表示	85

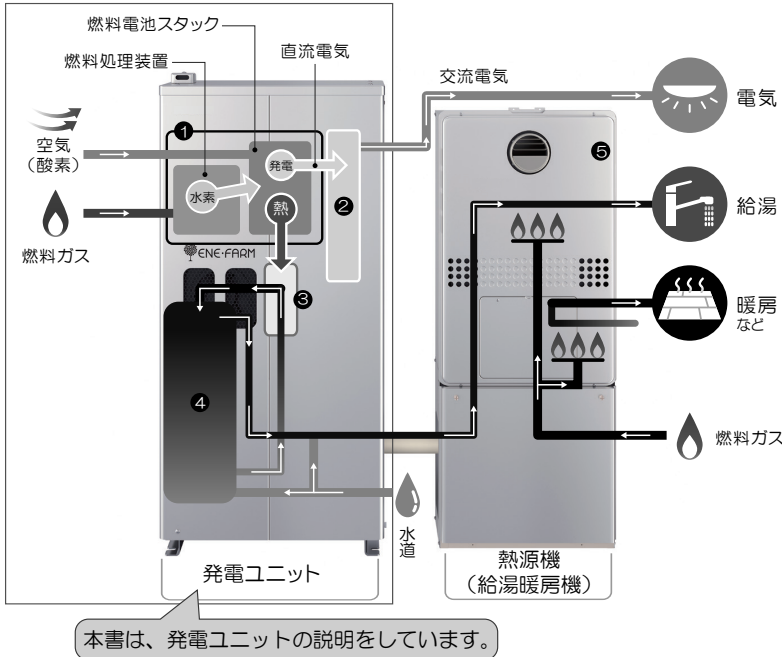
知っておいてください

点検について	87
おもな仕様	88
外形図	89
アフターサービスと保証について	90
保証書	91

エネファームについて

■エネファームtype Sのシステム構成イメージ

発電ユニットは、燃料ガスから水素を取り出し、その水素と空気中の酸素を反応させて、自宅で電気を作るシステムです。発電時に出る熱を利用してお湯も一緒につくるため、エネルギーを有効利用できます。



※左記はシステム構成イメージです。実際の構成とは異なります。

- ① **ホットモジュール**
燃料処理装置で燃料ガスと水蒸気を反応させ、水素を取り出します。取り出した水素を燃料電池スタックへ供給。空気中の酸素により電気（直流）を作ります。
ホットモジュールとは、燃料処理装置と燃料電池スタックを断熱材で覆い、高い温度に保たれる主要構成機器です。
- ② **パワーコンディショナー**
発電された直流電気を交流電気に変換し、商用電源に接続します。
- ③ **排熱回収装置**
排熱回収装置では排熱ガスから熱を回収します。
- ④ **貯湯タンク**
回収した熱を貯湯タンクへお湯としてためておき、給湯時に利用します。
- ⑤ **熱源機（給湯暖房機）**
貯湯タンクのお湯と水道水を混合した給湯予熱を、リモコンで設定した温度に加熱して、給湯をします。

本書は、発電ユニットの説明をしています。

■この機器は対応する熱源機と組み合わせて使用することで、電気および熱（お湯）を供給します

発電ユニットから発生する排熱により、水を最高約35℃に加熱し熱源機に供給します。その後熱源機にて設定温度に調整されて、給湯・お風呂に利用されます。

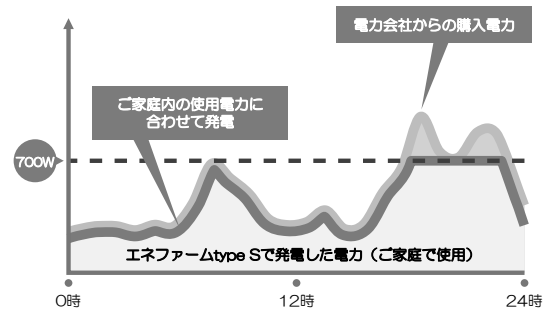
蛇口を少し開けたとき等、給湯流量が少ないときは、熱源機が燃焼しない場合でもお湯が出る可能性があります。

■発電ユニットは自動運転です

発電ユニットは24時間連続運転で、ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電します。（逆潮流なし運転）

※ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、26日間連続して発電した場合は、27日目に約7～9時間発電を停止します。

- ・発電ユニットで作られた電気を優先的に使用し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。
- ・発電ユニットで作られた電気は、ご家庭内（照明、テレビなど）で使用します。

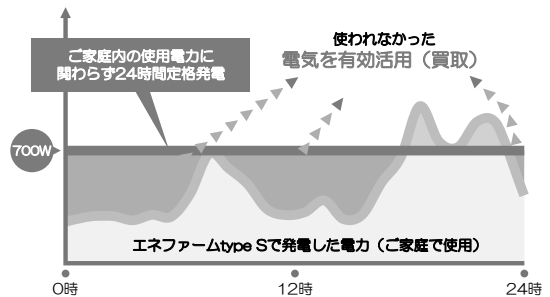


■逆潮流ありの設定を選択されたお客さまへ

◆逆潮流に関してのご説明

- ・逆潮流とは、発電ユニットにて発電された電気を電力システムを介して取引等を実施する仕組みです。
- ・逆潮流を実施する場合、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを行う事業者さまへの申込みが必要となります。

- ◆逆潮流ありの場合、発電ユニットはお客さまの消費電力以上で発電運転（最大約700W）を実施します。余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。



- ◆逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）

- ◆逆潮流に関する詳細は大阪ガスホームページ等をご覧ください。

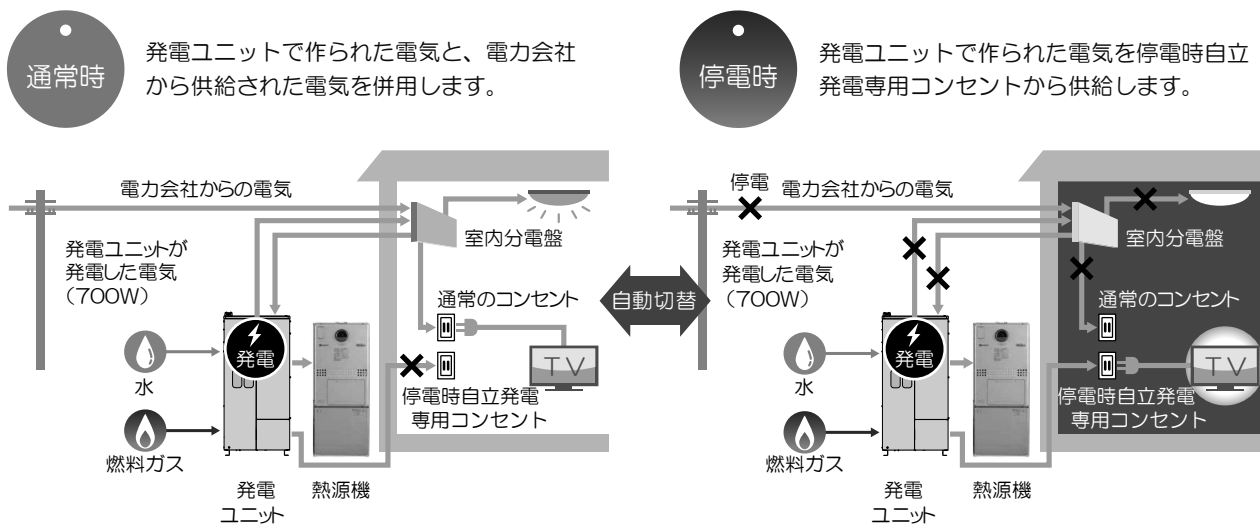
- ◆逆潮流のリモコン表示に関してはリモコンの取扱説明書をご覧ください。

エネファームについて

■ 停電時自立発電機能付きをお使いのお客さまへ

- 停電時自立発電機能付きは、発電中に停電が発生した場合も引き続き発電を続けます。したがって停電中でも発電した電気と熱源機のお湯を使うことができます。
※ 発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、地震等の災害などでガスの供給が停止している場合にも、発電することができません。

< 停電時自立発電時の電気の流れ >



- 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです。
※ セット構成の場合は熱源機で使用する電気の量を含みます。停電時自立発電専用コンセントでご使用できる電気の量は700Wよりも、少なくなります。
 - 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます。
※ 停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。
※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときだけ、ご使用ください。なお、停電が復旧すると自動的に停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、使用できません。
- ※ 停電時自立発電機能の詳細は22～26ページ、35～39ページ、48～52ページ、60～63ページをご覧ください。

■ その他

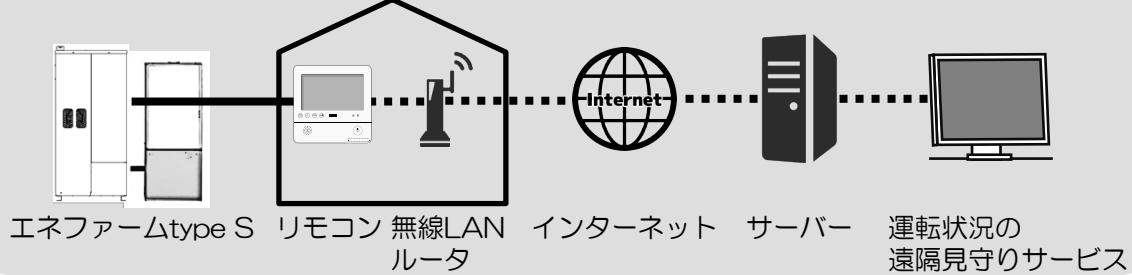
- 異常がある場合、リモコンにエラーを表示し、お知らせします。
- 断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯（水）を取り出して雑用水として利用できます。
- ガスの供給が途絶え熱源機が使用できない場合に温水が必要になったときは、ヒーター給湯モードにて、最高で40℃（発電ユニットの出口温度）の温水を供給することができます。

エネファームについて

■ネットワーク機能をお使いのお客さまへ

ネットワークに接続しますと、①運転状況の遠隔見守りサービス、②スマートフォンアプリがご利用できます。

<①運転状況の遠隔見守りサービスのイメージ>



<②スマートフォンアプリ利用のイメージ>

家でスマートフォンでエネルギー情報が見える！
お風呂のお湯張りが出来る！*1



外でもスマートフォンでエネルギー情報が見える！
お風呂のお湯張りが出来る！*1



*1 発電リモコンの場合、お風呂のお湯張りはできません。

① 運転状況の遠隔見守りサービス

エネファームが正常に運転しているかを大阪ガスが遠隔で見守ります。

② スマートフォンアプリ

お使いのスマートフォンにアプリをインストールすると、スマートフォンでエネルギー情報の見える化やガス機器の遠隔操作がご利用になります。スマートフォンアプリに関してはリモコン取扱説明書をご覧ください。



ネットワーク機能をお使いによる注意事項

- ・サービスのご利用には常時接続のインターネット環境と無線LAN環境が必要です。
- ・インターネット環境・無線LAN環境・スマートフォンはお客さまでご準備ください。
- ・無線LANルータは、WPA2/WPAの暗号化方式に対応したものがが必要です。
- ・ご使用の無線LANルータ、スマートフォン、通信環境によっては本サービスをご利用できない場合があります。
- ・エネファームリモコンが大阪ガスサーバと通信するため、インターネットの通信費がかかります。
- ・接続方法に関しては各リモコンの取扱説明書をご覧ください。







安全のため必ず守ってください

ご使用前に、この「安全のため必ず守ってください」をよくお読みいただき、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。

■表示の説明

 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が傷害を負う可能性や物的損害が想定される内容です。
お願い	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

■絵表示の説明

	必ず行うこと		接触禁止		一般的な禁止
	分解禁止		発火注意		火気禁止
	アース線を接続すること		高温注意		

異常のときは

警告

ガス漏れに気付いたら

◆ 屋内でガス臭がする場合は、次のことをしない。

引火し、爆発事故を起こすことがあります。

- ・火をつけない
- ・電気器具（換気扇・電灯など）のスイッチをON/OFFしない
- ・コンセントを抜き差ししない
- ・周辺で電話を使用しない



火気禁止



◆ 次の処置を行ってください。

① ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めると、エラーコード[AOFOO]がリモコンに表示されます。）

② 屋内でガス臭がするときは窓や扉をあける。

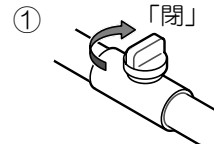
③ 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。

そのままにしておくと、火災や爆発の原因になります。

また、絶対に火を近づけたりしないでください。



確認



※ ガス漏れ異常（エラーコード[10F00]、[10F01]、[10F10]、[10F11]）は、リモコンでのエラー解除はできません。

異常時の処置

発電ユニットから異常な臭い（こげ臭い・ガス臭い）・発火・煙・異常に大きい音・振動があるときは、次の処置を行ってください。



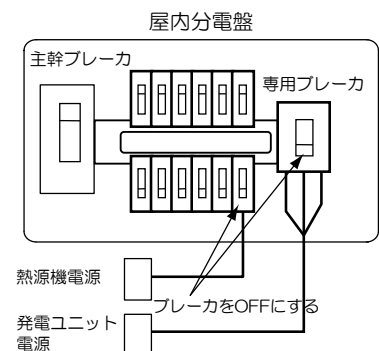
確認

① ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めるとエラーコード[AOFOO]がリモコンに表示されます。）

② 屋内分電盤の発電ユニットブレーカと熱源機ブレーカをOFFにする。

③ 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。

※ ブレーカ部は濡れた手で触れないでください。



安全のため必ず守ってください

設置のときは

⚠ 警告



確認

設置・付帯工事は販売店またはもよりの大阪ガスに依頼する

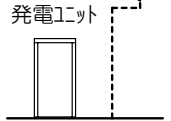
工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による中毒、火災の原因になりますので販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。
(設置・付帯工事は工事説明書に従い、有資格者が行います。)



禁止

屋内に設置しない

屋外設置据置型ですので、絶対に屋内に設置しないでください。
酸欠・一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



確認

離隔距離とメンテナンススペースの確認

周囲の可燃物に対して、防火上の離隔距離をとってください。

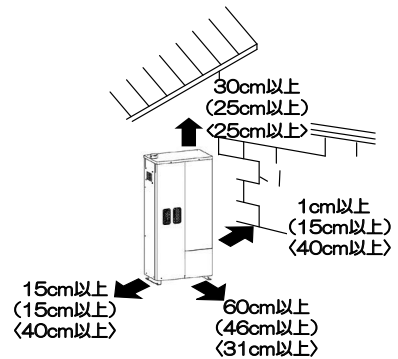
距離が不足すると火災の原因になります。この離隔距離に加えて、メンテナンススペースが必要です。スペース内には物を置かないでください。

上：防火上の離隔距離（前面排気の場合）

中：（幅が狭い場合のメンテナンススペース）

下：（奥行きが狭い場合のメンテナンススペース）

詳細は工事説明書16～17ページをご覧ください。



ご使用前は

⚠ 警告



アース

必ずアース工事を確認する

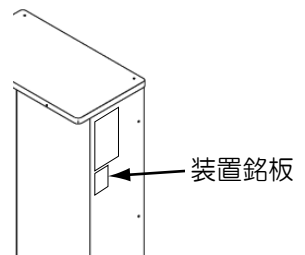
アース工事（D種接地工事）が不完全な場合は、感電・火災の原因となります。
アース線が、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続されていないことを確認してください。詳しくは工事説明書をご覧ください。



確認

ガスの種類・電源の確認

ガスの種類・電源が異なる場合、火災や感電の原因となります。
装置銘板に表示されている燃料種と使用するガスが一致していることを確認してください。また、電源が「単相3線式 100/200V」であることを確認してください。



ご使用中は

⚠ 警告



発火注意

燃えやすい物を周りに置かない

洗濯物・新聞紙・灯油など燃えやすい物を周りに置かないでください。火災の原因になります。



火気禁止

火気を近づけない

換気出口・排気口に火気を近づけないでください。
火災の原因になる場合があります。



発火注意

引火のおそれがある物を周りで使用しない

灯油・ガソリン・ベンジンなど引火のおそれがある物を機器の周りで使用しないでください。火災の原因になります。



発火注意

スプレー缶を周りに置かない、使用しない

スプレー缶を周りで使用したり、置かないでください。
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発・火災の原因になります。周りでスプレーを使用すると、スプレーに含まれる成分により、機器故障の原因となります。



禁止

LPガス容器を周りに置かない

所定の離隔距離が必要です。



安全のため必ず守ってください

ご使用中は

⚠ 警告



排気ガスを建物内に入れない

この機器の排気ガスが建物（自宅および隣家など）の吸排気口や窓などから建物内に入らないようにしてください。

排気ガスが建物内に流入すると、一酸化炭素中毒などの原因になります。



排気口の向きを無断で変更しない

火災の原因、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



排気口・換気出口に顔を近づけない

大量の排気ガスを吸い込むと、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



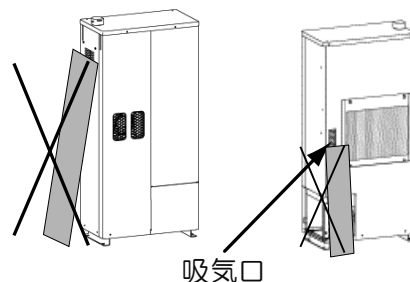
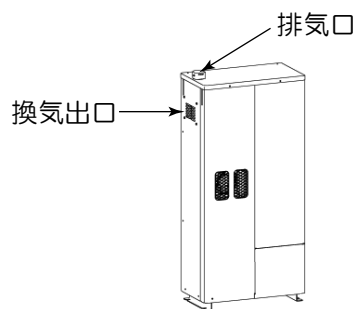
排気口付近で子供やペットを遊ばせない

一酸化炭素中毒のおそれがあります。



排気口・吸気口・換気出口を塞がない

空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。



こんなときは

⚠ 警告



地震・水害・火災の発生したときの処置

地震・水害・火災が発生したときは、ガス栓を閉め、屋内分電盤の専用ブレーカと防水コンセントに接続されたブレーカをOFFにしてください。おさまりましたら、機器が安全に使用できるかどうかの確認を販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



積雪時の点検・除雪

積雪時は、排気口・換気出口・吸気口が塞がれないように点検・除雪を行ってください。空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

増改築・移設時などのときは

⚠ 警告



囲いをしない

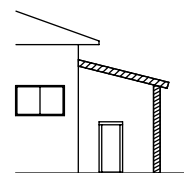
設置後、発電ユニットを波板やビニールなどで囲んで屋内状態にしないでください。火災や酸欠事故の原因となります。



外壁の塗装、増改築、屋内の修繕時などに、機器本体が養生シートで覆われた場合は機器を使用しない

不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因になります。

※ 機器故障原因となり、有償での修理対応が必要となります。



移設時の確認

増改築や引越しなどで移設する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による一酸化炭素中毒、火災の原因になります。（移設は工事説明書に従い、有資格者が行います。）

移設後は、電力会社への手続きが完了した後でないと運転することはできません。（手続きについては、販売店またはもよりの大阪ガスに確認してください。）



熱源機・リモコンを買い替える場合

・熱源機との組み合わせ、あるいはリモコンとの組み合わせによっては、安全・性能が担保できず、やけど等の事故が発生する可能性があります。

・熱源機・リモコンを買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

安全のため必ず守ってください

お手入れのときは



機器の吸気口がホコリ・ゴミなどで塞がっていないか確認する
不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

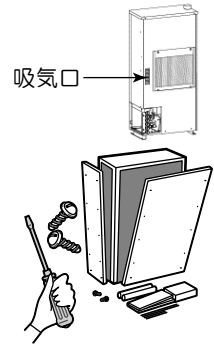


高水圧での、水洗いはしない
感電・火災の原因になることがあります。



分解禁止

分解・修理・改造をしない
分解・改造を行わないでください。感電・火災・水漏れの原因となります。
移設・付帯工事・修理をする場合は、必ず販売店またはもよりの大阪ガスに
依頼してください。



停電時自立発電のときは

(停電時自立発電機能付きのお客さまへ)



禁止

停電時自立発電専用コンセントには以下の製品をつながない

停電時自立発電専用コンセントには停電時にのみ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器は接続しないでください。

- ・全ての医療機器
- ・灯油を用いた暖房機器
- ・バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器
- ・炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器

消費電力が合計で700W以上になる機器は接続しないでください。

【注意】停電時自立発電機能で使用できる電気の量は最大約700Wです。

※セット構成の場合は、熱源機の消費電力*1も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

*1 冬季時の凍結予防など、熱源機の運転状態によって消費電力が大きく変わりますので、リモコンで消費電力を確認しながらお使いください。



禁止

停電時自立発電専用コンセントを商用電力線につながない

停電時自立発電専用コンセントと家庭内の普通のコンセントを延長ケーブルなどで絶対に接続しないでください。感電、発火などの事故になるおそれがあります。



強制

停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用する

停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用することができます。停電時以外に停電時自立発電専用コンセントに電気製品を接続しないでください。接続した機器に突然電流が流れ、機器を損傷したり、突然の動作による事故の原因になります。



禁止

停電していないときに停電時自立発電を行わない

思わぬ事故の原因になります。また、本来の機能が損なわれ、故障の原因となります。

エラーの処置は



禁止

お客さま自身で部品の点検・調整はしない

感電・火災・水漏れの原因となります。



強制

機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する

異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。

ヒーター給湯モードのときは



強制

発電リモコンの場合は、必ず熱源機の運転スイッチをOFFにする

OFFにしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。



強制

温水のご使用中は、温水の温度低下に注意する

ご使用状況や機器の状態等によっては、温水のご使用中に突然温度が下がることがあります。

安全のため必ず守ってください

設置のときは

⚠ 注意



排気ガス・換気ガスを動植物に当てない
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。

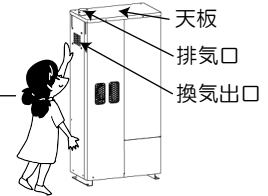


ご使用中は

⚠ 注意



排気口、換気出口、天板に触れない
高温になっており、やけどの原因になることがあります。



発電ユニットの上に乗らない、物を載せない
落下・転倒などにより、けがの原因になることがあります。



発電ユニットと熱源機間の配管の上に乗らない、物を載せない
けが・やけど・水漏れのおそれがあります



熱源機行き配管（高温側）に触れない
熱源機行き配管（高温側）は高温になることがあります。
やけどのおそれがあります。



排気口・換気出口・吸気口に指や棒など異物を入れない
けが・やけど、機器故障のおそれがあります。

給湯・お風呂のときは

⚠ 注意



機器や配管に長時間たまった水や朝一番のお湯は、雑用水として使用する
飲用したり調理に使用すると、健康を害するおそれがあります。



飲用する場合は、必ず沸騰させてから使用する。また必ず水道法に定められた飲用水の水質基準に適合した水道水を使用する
飲用すると、健康を害するおそれがあります。



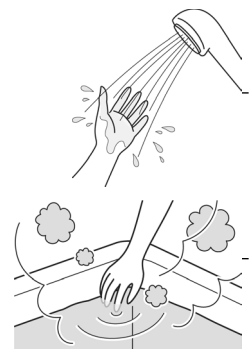
異物・変色・濁り・異臭があった場合は飲用しない
飲用すると、健康を害するおそれがあります。
※販売店またはもよりの大阪ガスへ点検を依頼してください。



シャワーなど、お湯の使用時に熱いお湯が出た場合は、すぐに使用を中止する
やけどのおそれがあります。機器の故障等により使い始めは正常でも、使用中にあつくなる場合もあります。

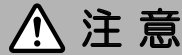


浴槽の湯温を手で確認してから入浴する
やけどのおそれがあります。



安全のため必ず守ってください

こんなときは



断水時には給水・給湯栓を開けない

発電ユニットより低い位置にある給湯栓は設定温度以上のお湯が出る場合があります。



水抜き時タンク排水配管や排出される湯には触れない

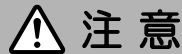
場合によっては熱いお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない

場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

お手入れのときは

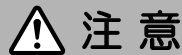


パネルを開けて、発電ユニット内部に触れない

けが・やけど・感電のおそれがあります。

停電時自立発電のときは

(停電時自立発電機能付きのお客さまへ)



停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。 ※セット構成のみ



ガスファンヒーターを使用すると過負荷で停電時自立発電が中断する場合は使用しない

過負荷が発生するとガスファンヒータの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面（エアフィルタ部や取っ手部分）が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。



停電時自立発電専用コンセントでガスファンヒータを使用中に異常を感じた場合は、使用を中止する

ただちにガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

廃棄のときは



お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしない

法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄をする必要があります。解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。 ※ご使用には、人体・周辺環境への影響はありません。

お願い

低温になる場所への設置について

気温が-10℃より低温になる場所に設置しないでください。設置すると、凍結により重大な破損が発生することがあります。

降雪地域での使用について

この機器を降雪地域で使用するとき、吸気口に雪などが固着する場合があります。固着が進むと、この機器は吸入不足になり正常に運転できません。雪などの固着物は、吸気口を塞がないよう取り除いてください。

お願い

地下水・井戸水・温泉水の使用禁止

給水は必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
地下水・井戸水・温泉水を使用すると、機器内配管の異物付着、腐食による水漏れ、機器の不具合が発生することがあります。

ドレン配管のつまりに注意する

ドレン配管の排出先は大気開放とし、泥や落ち葉などでつまりさせないでください。
故障の原因となることがあります。

家庭用で使用してください

この機器は家庭用です。業務用に使用しないでください。
業務用に使用して事故や故障が発生した場合、保証の対象外になります。

電源について

緊急の場合以外はブレーカーを「OFF」にしないでください。
凍結予防運転のために電気を使用しています。

配管バルブを閉めない

メンテナンス作業時以外は、配管に接続されているバルブを閉めないでください。
正常な動作が妨げられ、故障の原因になります。

知っておいてください

- ・雷や無線などのノイズが、この機器に悪影響を与えることがあります。
- ・ご自宅の電気工事などで、分電盤内の電流センサを外す場合は、事前に販売店またはもよりの大阪ガスへ連絡してください。（電流値の読み込み不良により、発電ができなくなる場合があります。）
- ・発電ユニットの吸気口から自動車の排気ガスが直接吸い込まれると、発電ユニットの故障・性能低下の原因になりますので、自動車の排気ガス出口から1.5m以上離してください。

長期間使用しない場合の処置

不在などで10日間以上連続で電気・お湯を使用しない場合は、不在停止を行ってください。
長期間(1か月以上)連続して使用しない場合、または1か月未満でも凍結の心配があるときにブレーカーを「OFF」にする場合、必ず水抜きを実施してください。

停電時の注意

停電時に約24時間以上、発電（アイドリング状態も含む）が停止した場合は、暗証番号の入力、現在時刻の設定を行ってください。

停電時自立発電専用コンセントが設けられていることを確認する（停電時自立発電機能付きのみ）

停電時に発電ユニットで発電した電気を使用するには、停電時自立発電専用コンセントが必要です。
「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、停電時自立発電専用コンセントです。

純正部品を使用してください

純正部品を使用しないと、故障の原因になります。

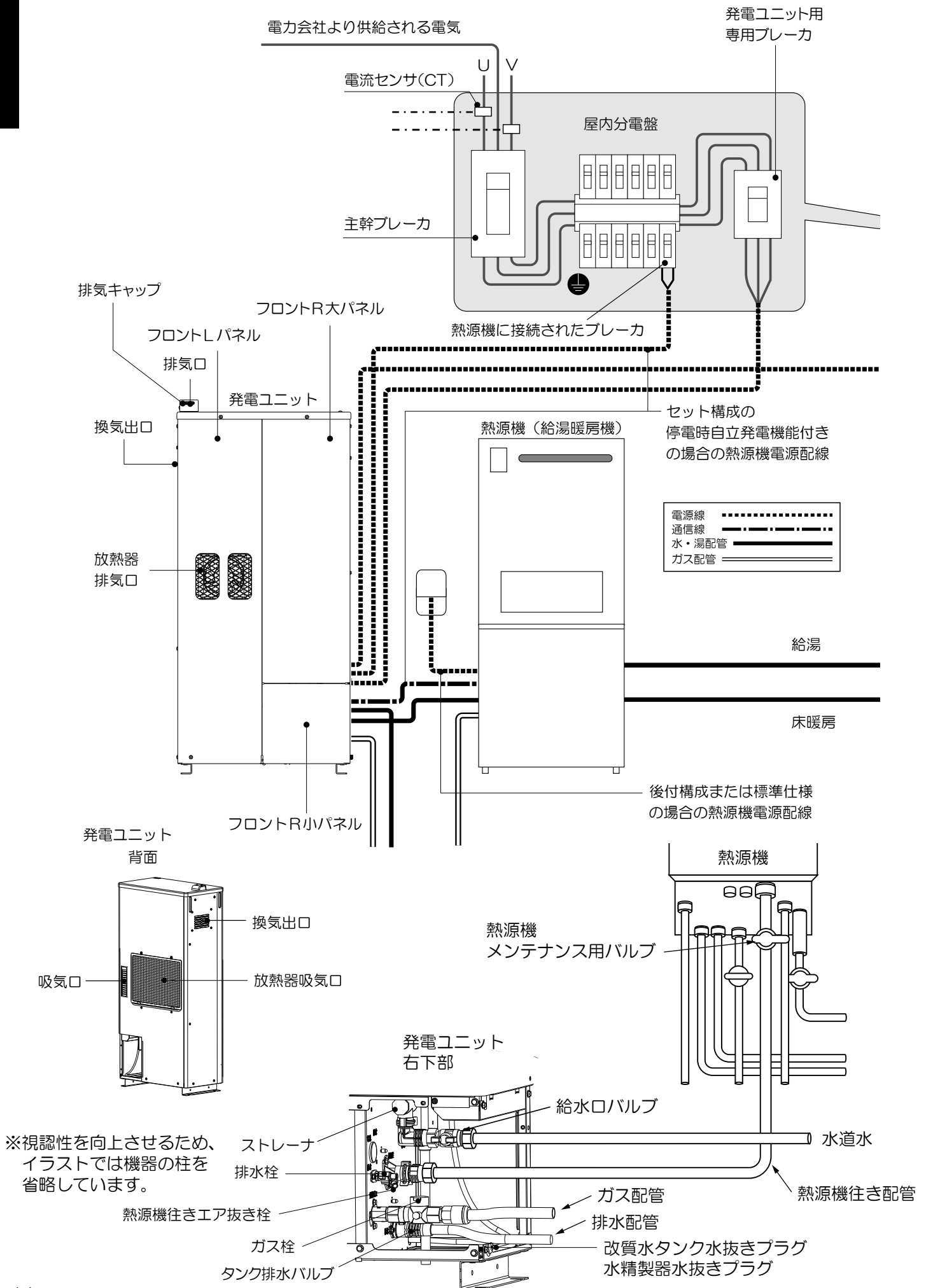
後付構成の給湯に関して

- ・熱源機が「給湯切」でも発電ユニットから最高で30℃の水が供給されます。
水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。
- ・熱源機が「給湯切」の状態でお湯を使用すると、お湯の温度が変動したり、湯切れで急に水になることがありますので、「給湯切」の状態ではシャワー等のご使用はお控えください。
- ・給湯切時もお湯の温度を確かめていただいてからお湯をお使いください。
- ・熱源機が給湯「切/入」にかかわらず、発電ユニットから最高で30℃の水が供給されますので、熱源機のふる「足し水」機能をご使用いただいても、お風呂がぬるくなくなりやすくなる場合があります。

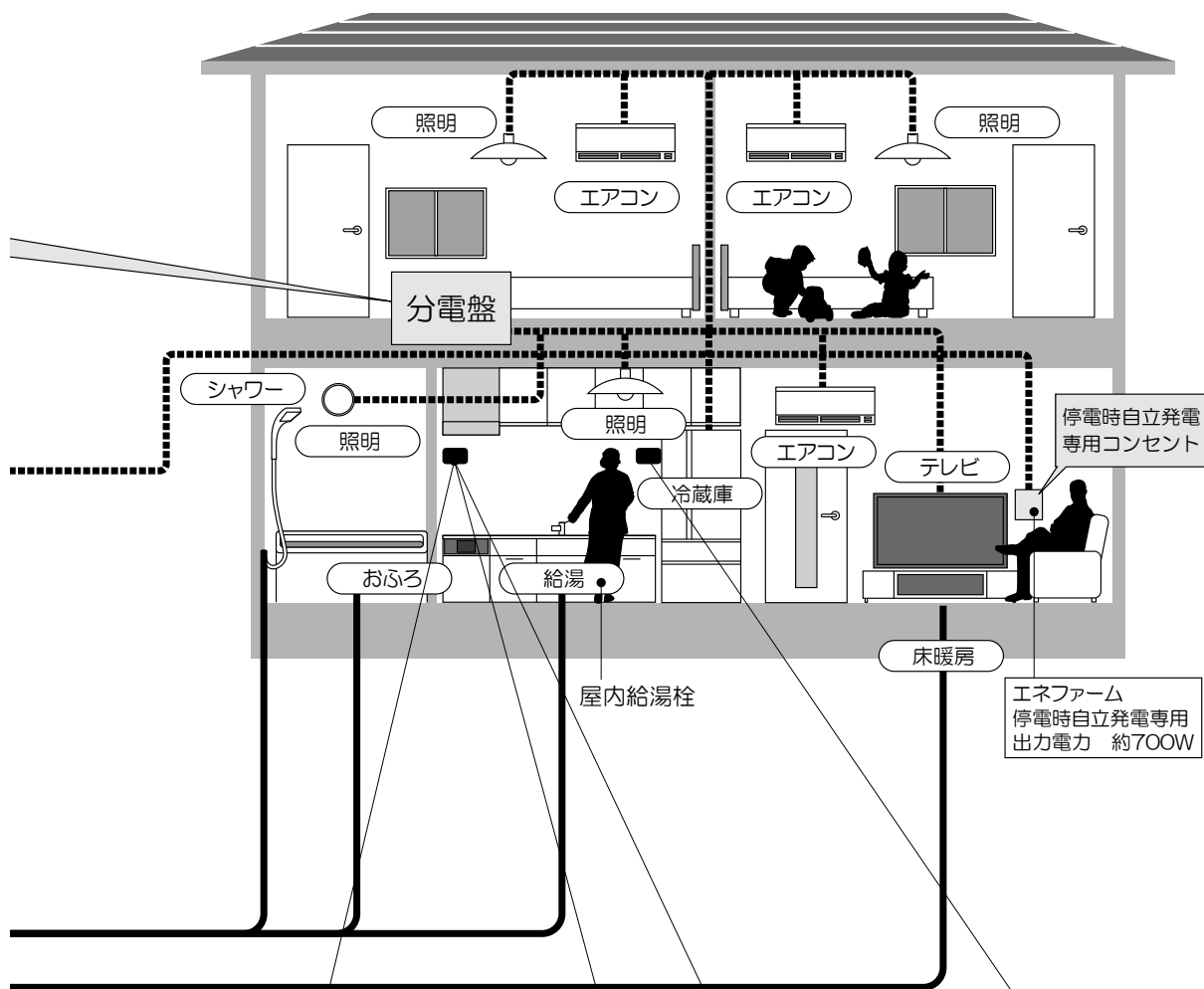
BL認定品について

BL認定品は「優良住宅部品」「瑕疵保障・賠償責任保険付」です。
一般財団法人ベターリビングお客さま相談室の電話番号は「03-5211-0680」です。

各部のなまえ



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。



• お湯、お風呂、暖房、エネロックなどの操作については、各リモコンの取扱説明書を参照願います。

各部のなまえ

安全ラベル

警告	
火災の恐れあり ・発電ユニットの裏に燃えやすい物を置かない。 ・発電ユニットの裏にスプレー缶を置かない。使用しない。 ・発電ユニットの裏に引火の恐れのある物を置かない。	
静電、中電の恐れあり ・発電ユニットを運搬などで開いて屋内運搬の状態にしない。 ・排気出口、排気入口、排気出口を塞がない。 ・排気出口付近で子供やペットを遊ばせない。	
感電の恐れあり ・発電ユニットを水濡ししない。 ・発電ユニットを分解・修理・改造しない。	
注意	
排気口のなまえあり ・排気出口、排気出口に離れない。 ・パネルを開けて、発電ユニット内部に離れない。	
けがの恐れあり ・発電ユニットの上に乗らない。 ・排気出口、排気入口、排気出口に指や物をかきこまない。	
お願い ・取扱説明書をよく読んで正しくご使用ください。 ・製品銘板に表示してある要領以外は使用しないでください。 ・お客様ご自身で解体・修理は絶対しないでください。 ・法規制の対象物が含まれます。解体、廃棄の際は必ずしては不要品を誤入されや漏れに気をつけてください。	
ガス機器防火性認定品 可燃物からの燃焼伝達(CFT)	
燃焼室形状図 	
一般財団法人日本ガス機器検査協会 (注)排気口が正面以外の燃焼伝達は施工取組書を参照ください。 (注)保守サービスに必要なスペースは施工取組書を参照ください。721684-10270	
燃料電池部社 総水質電機社 T B 2018 	

製造番号ラベル
(記載内容は一例です)

大阪ガス株式会社
(N)192-AS11
200411000001



装置銘板
(記載内容は一例です)

(N)192-AS11		
大阪ガス株式会社		
燃料電池発電ユニット		E
・種類	固体酸化物形	13A S 自
・型式	FOCS07C1NJ	
・原燃料種	都市ガス 13A/12A	QR コード
・定格原燃料消費量	1.0~2.5Nm ³	
・定格出力	0.7kW	
・定格電圧	100/200V	
・相数	単相3線式	
・周波数	50/60Hz	
・設置条件	屋外式 -10~43°C	
・質量	86kg	
・使用圧力/伝熱面積	0.48MPa以下/0.17m ²	
・機種	FOCS07C1NS-J	
・製造番号	200411000001	
・製造年月	2020-4	
・製造者	株式会社アイシン	

- ・この機器を安全に使用していただくために、機器には安全ラベルが貼ってあります。
- ・安全ラベルを全て読んでからご使用ください。
- ・ラベルは、はっきり見えるようにきれいにしておいてください。
- ・この機器に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡して新しいラベルに貼り替えてください。

ご使用前の確認

ご使用前に次の確認を行ってください。

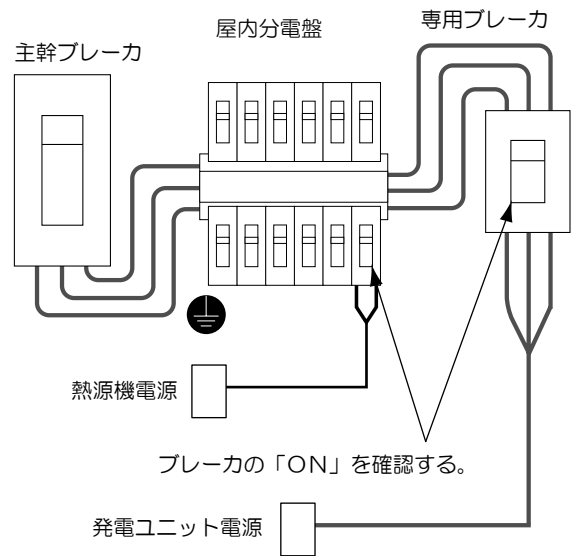
※長期間使用しない場合の水抜き後の起動は、専門のサービスマンによる試運転をご依頼ください。

■確認

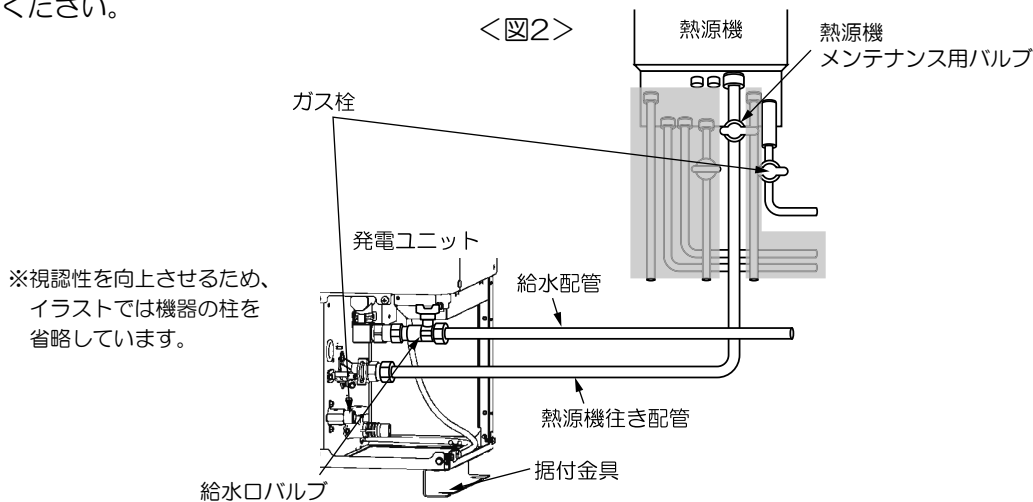
発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことを確認します。
 (「安全のため必ず守ってください」(4～10ページ)を参照します。)

- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認します。
 - 機器の排気口、吸気口・換気出口が塞がれていないことを確認します。
 - 据付金具が緩んでいないことを確認します。
 - 発電ユニットに接続された屋内分電盤の専用ブレーカと熱源機に接続された屋内分電盤のブレーカが「ON」になっていることを確認します。(図1参照。)
 - 台所リモコンまたは発電リモコンにて日時設定、暗証番号設定が完了していることを確認します。確認方法は各リモコンの取扱説明書を参照してください。
 - 図3を参照してフロントR小パネルを取り外し、ガス栓、給水口バルブ、熱源機メンテナンス用バルブが開いていることを確認します。(図2参照。)
- 確認後、図4を参照してフロントR小パネルを取り付けてください。

<図1>

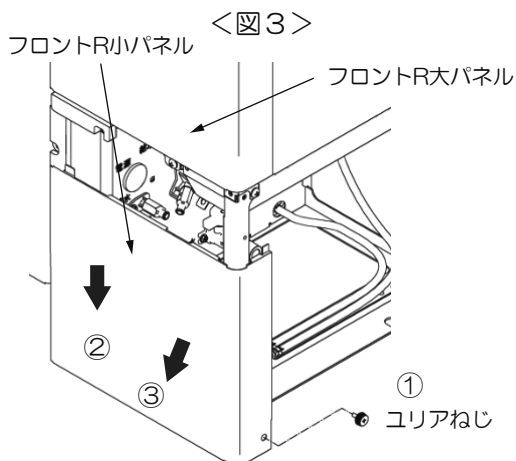


<図2>



■フロントR小パネルの取り外し方法

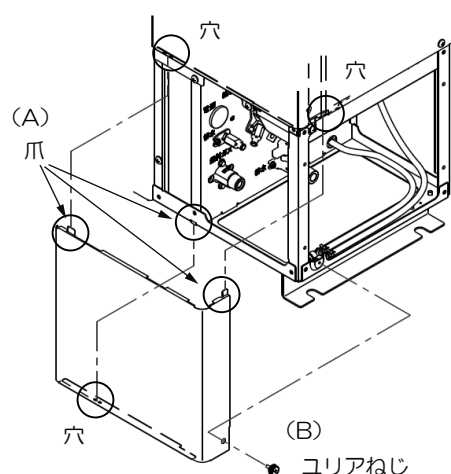
- ① フロントR小パネル右側面下のユリアねじを外します。
- ② フロントR小パネルを下に数mmスライドさせます。
- ③ フロントR小パネルの下端を手前に寄せながら下方向にスライドさせて取り外します。



■フロントR小パネルの取り付け方法

- (A) 3箇所の爪がそれぞれ対応する穴に差し込まれるようにフロントR小パネルを下から持ち上げます。
- (B) ユリアねじでフロントR小パネルを固定します。

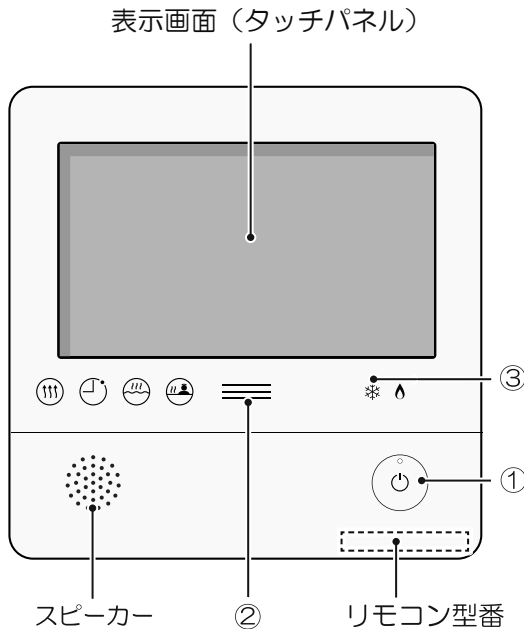
<図4>



リモコンについて

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。
 停電時自立発電中の排湯については台所リモコンでは対応できません。
 その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書（リモコン操作編）を参照してください。

■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
 ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。
 「入」でランプが点灯します。
 ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

②発電ランプ
 ・発電ユニットで発電中に点灯します。
 ・現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い

1.2kW	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。
0.7kW	青色	使用電力が少し増えて います。
少ない	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。

・逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

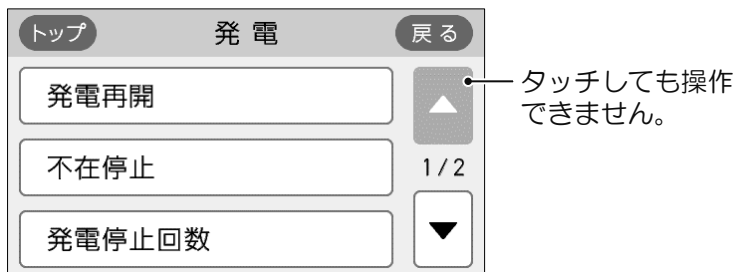
③凍結予防運転中マーク

凍結予防のために給湯機器のポンプが作動しているとき（熱源機の取扱説明書）や、発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯。

■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- ・このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- ・圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。
- ・「ON/OFF」スイッチや画面を押さないまま約10分（初期設定時間）経つと表示が消えます。

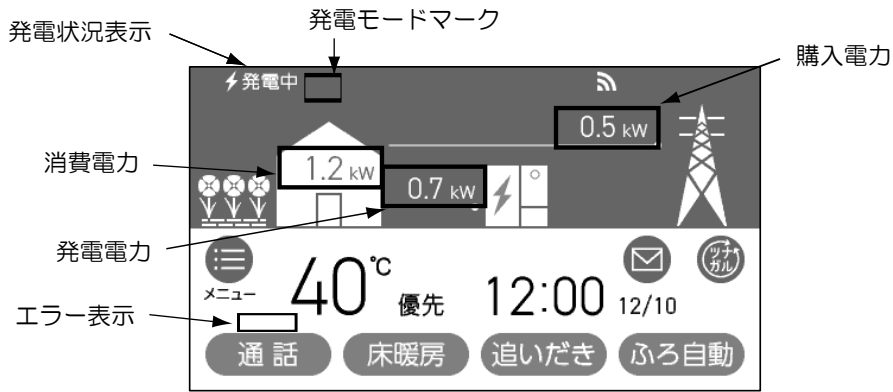
表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。

実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンについて



<トップ画面>

■発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ※1
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ※1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています	
起動中	起動中(発電準備中)です	
停止中	発電停止の動作中です	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています	
不在停止	発電を停止しています	
逆潮流の場合	電圧抑制 ※2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています
	売電中	発電した電力を売電しています
自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(26ページ)で停電時自立発電しています。

※2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■発電モードマークの見かた

↻	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> この表示が出ている間(約7~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。 この表示が出た場合、午前2時以降発電ユニットの起動開始(午前5時から7時の間)までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。 ※連続で70分間以上停止しただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
H	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

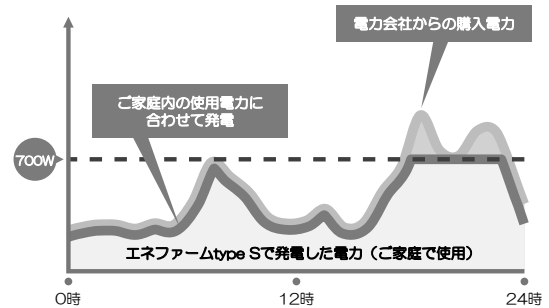
リモコンA
発電

■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

● 逆潮流なし運転

ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。

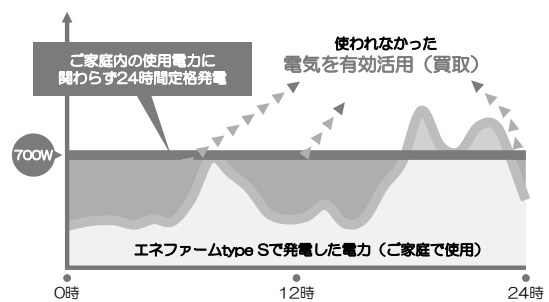
※ご家庭内の使用電力が85W未満のときは、発電出力が0Wのアイドル運転になります。



● 逆潮流あり運転

ご家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります。）



■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約7～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。

（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

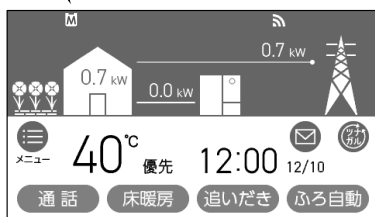
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）

Mマーク



発電について

発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

■ 機器保護運転停止をしているとき

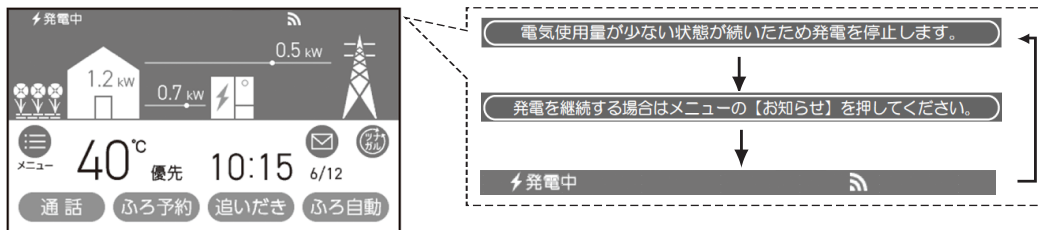
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（20ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（20ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご家庭の消費電力変動が著しく大きい状態が継続する場合、機器保護のため発電出力をOWに下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■ 経年劣化したとき

- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

発電をする

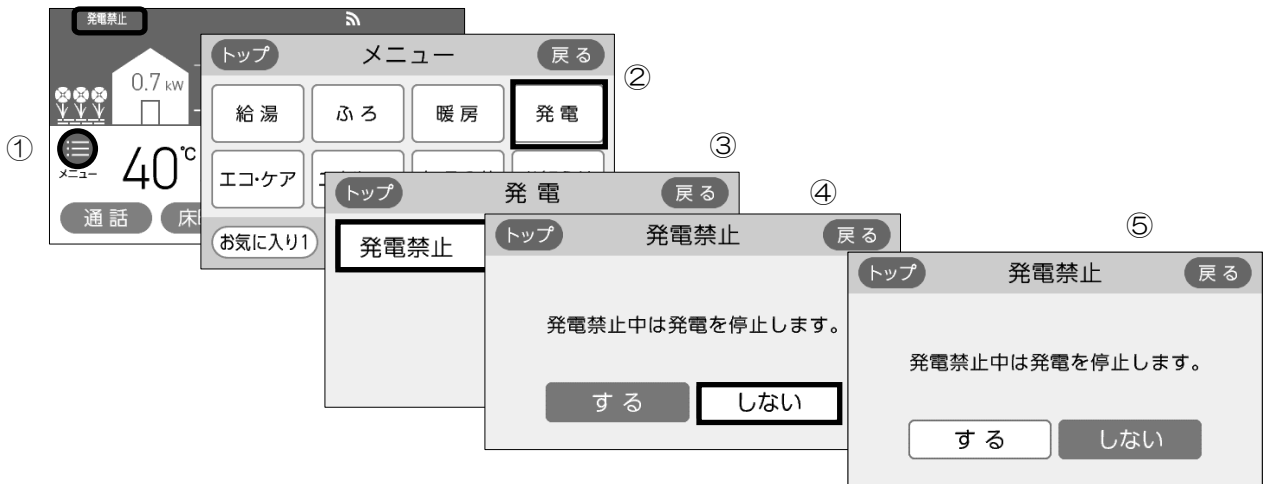
※ 起動には約4～5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）
停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作（約3～5時間）完了後に起動します。

■ 発電禁止を解除し発電をする ※画面左上に「発電禁止」が表示されている場合

「発電禁止」（21ページ）で停止しています。以下操作で「発電禁止」を解除してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。表示されていない場合は、▼でページを送ってください。
- ④ 発電禁止画面より[しない]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面が[しない]に変わります。

※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください



■ 不在停止を解除し発電をする ※画面をタッチしたとき、画面左上に「不在停止」が表示されている場合

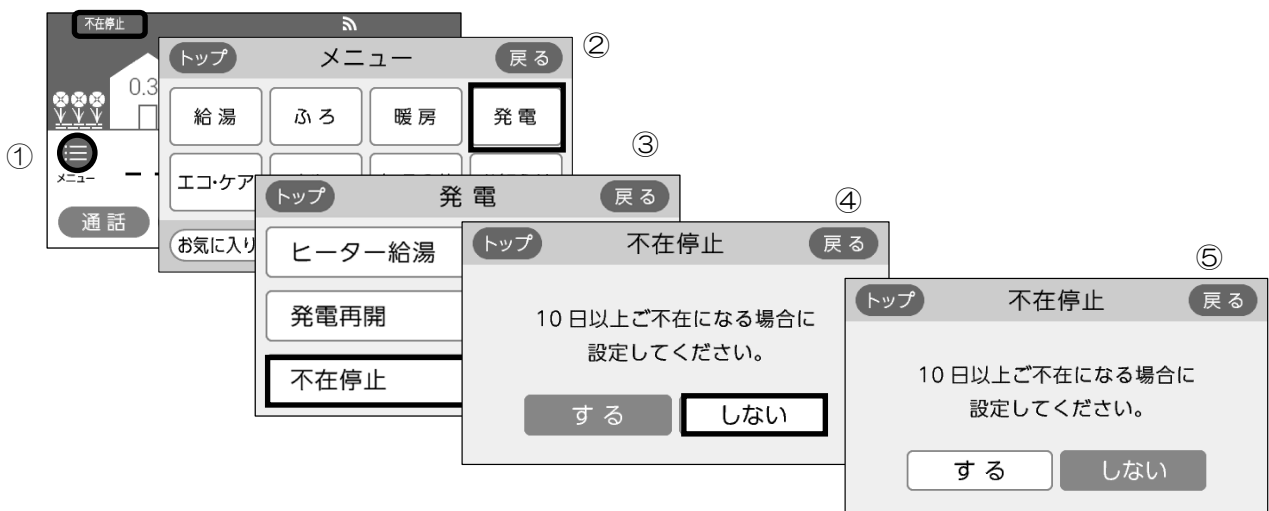
「不在停止」（21ページ）で停止しています。

リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

※以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- ・ 熱源機による暖房運転。
 - ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間以上のときの、リモコン表示画面タッチ。
 - ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間未満のときの、メニュー画面からの解除操作。
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
 - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
 - ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
 - ④ 不在停止画面より[しない]をタッチします。
 - ⑤ 不在停止画面が[しない]に変わります。

※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください



発電をする

■ 発電の再開をする ※画面左上に「↓」が表示されている場合

「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」（18ページ）で停止しています。以下操作で「発電再開」してください。

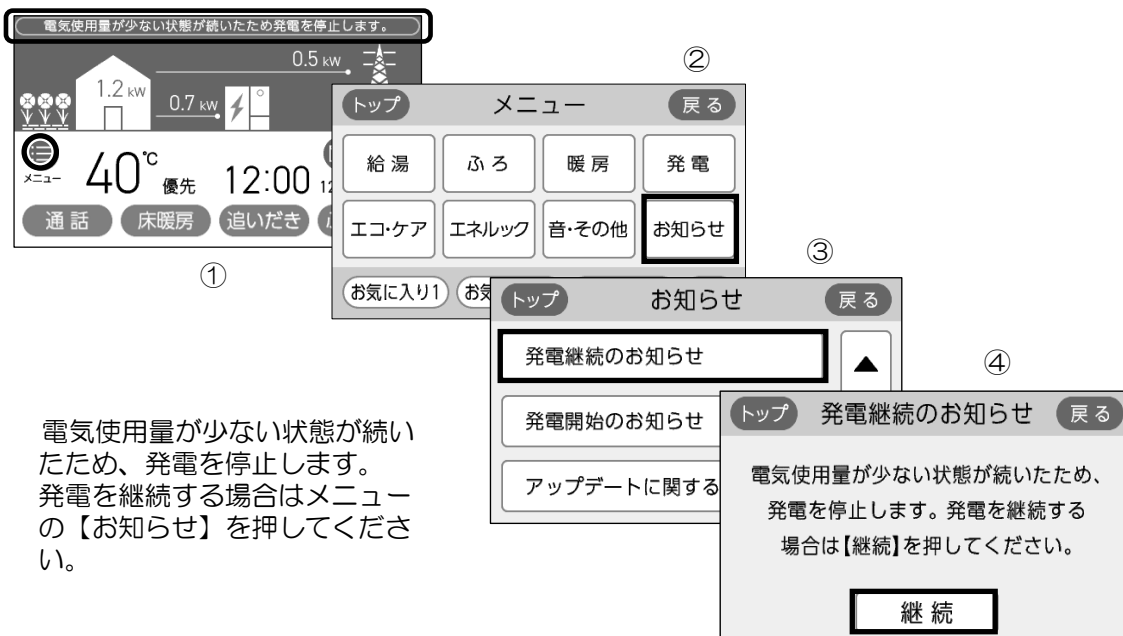
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 発電再開画面より[開始]をタッチします。
- ⑤ 「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。



■ 翌日も発電を継続する ※画面上部に「電気使用量が少ない状態が・・・」が表示されている場合

電気使用量が少ない状態が続いたため（18ページ）、もうすぐ発電を停止しようとしています。以下操作で発電を継続できます。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[お知らせ]をタッチします。
- ③ お知らせ画面より[発電継続のお知らせ]をタッチします。
- ④ 発電継続のお知らせ画面より[継続]をタッチします。画面は③に戻り翌日も発電が継続されます。



発電を止める

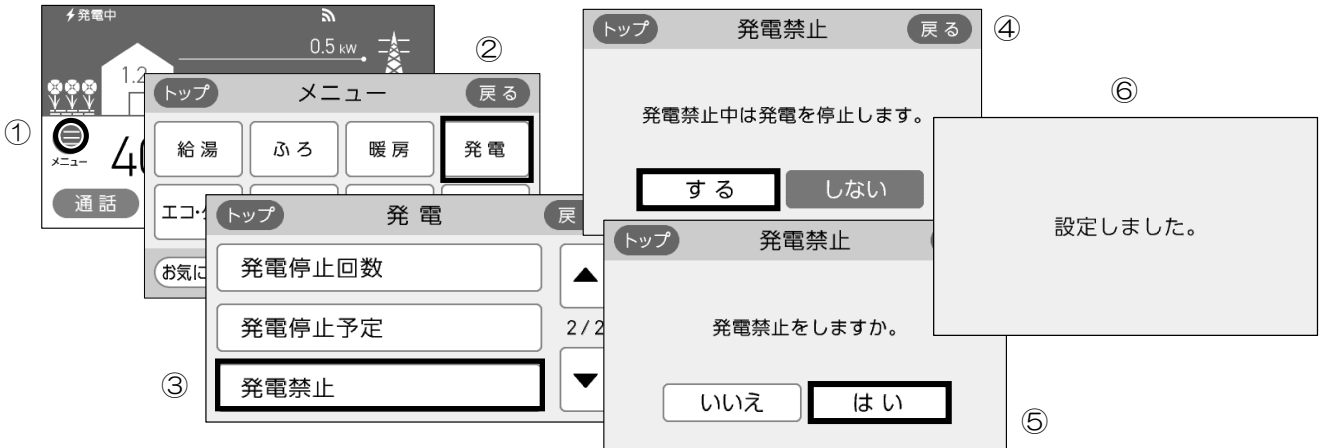
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。表示されていない場合は、▼でページを送ってください。
- ④ 発電禁止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ [設定しました。]と表示後、④の画面に戻ります。



■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 不在停止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



※不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※不在停止設定を[する]にした後、お風呂（お湯の使用）または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

停電時自立発電機能の概要

■発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

■停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

■停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

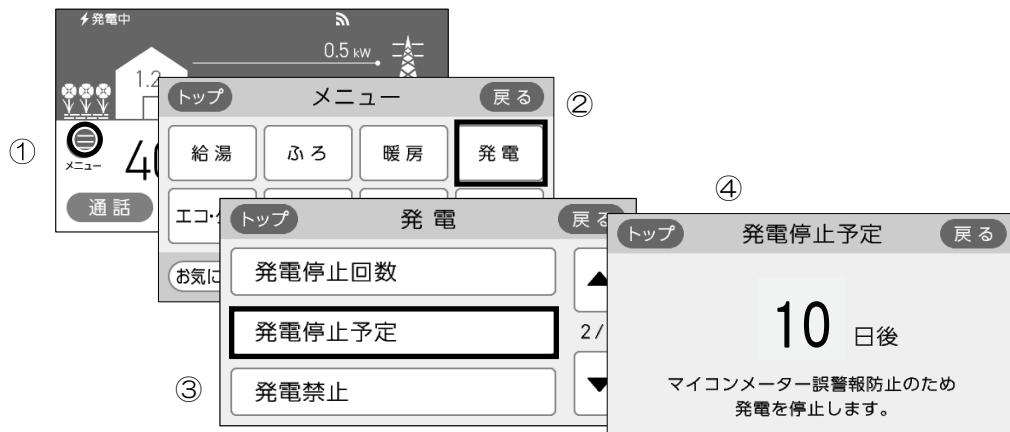
■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

※2世帯設定で使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。（詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」（17ページ）をご参照ください。）停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定]を押して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（21ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部の⚡が交互表示され、約3～5時間後⚡は消灯します。（発電状況表示については16ページを参照してください。））後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」（19ページ参照）の操作を実施してください。

■お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・断水状態（ご家庭への給水が停止している状態）時
※断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。
 - ・停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合

停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」(4～10ページ)を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話 (充電時)	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ (42型) ※1	85	冷蔵庫 ※2	200
熱源機の暖房運転 ※3	180	熱源機の凍結防止運転 ※3	250
熱源機の給湯運転 ※3	100		

※1 テレビをご覧になる場合は、電波の受信に関する機器への電力の供給が必要です。

消費電力の目安には、それら機器の消費電力は含まれていません。

※2 機種によっては使用できないことがあります。

※3 使用されている熱源機の消費電力は、リモコンの取扱説明書でご確認ください。

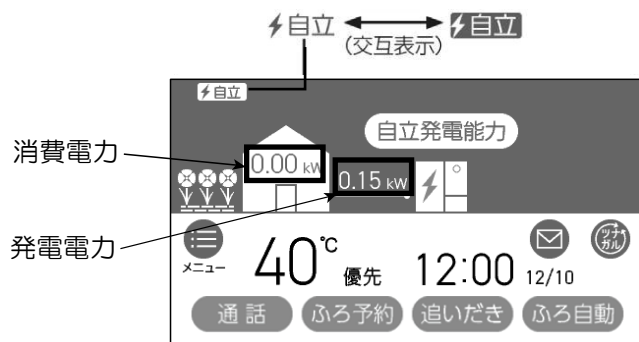
停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電発生時の対応

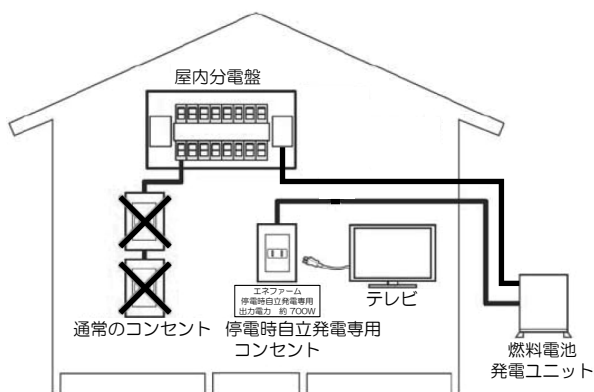
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- ・ 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- ・ 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（26ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- ・ お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約10分間）



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- ・ 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- ・ リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- ・ 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒～10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- ・ 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- ・ 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

③ 浴槽の排水栓を抜く

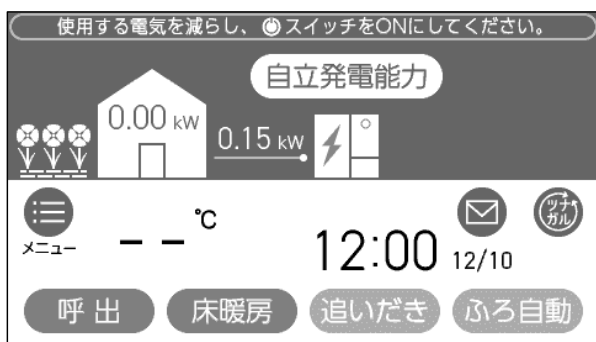
お願い

停電時発電継続時は浴槽の排水栓を抜く

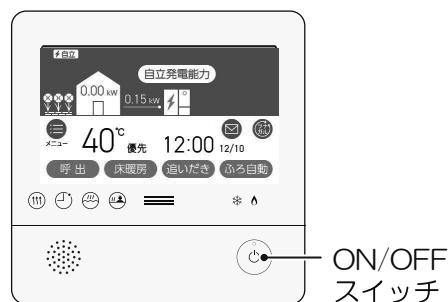
停電時発電継続中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



② 「ON/OFF」スイッチをONする。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

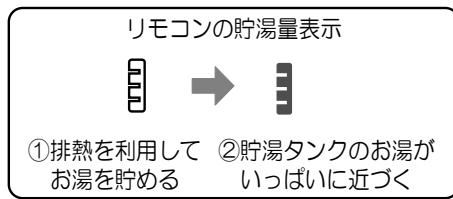
お願い

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。)
 停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
 浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

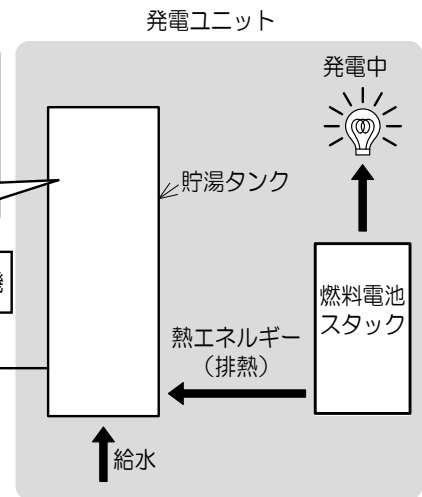
■ 自動排湯について

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
 * 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

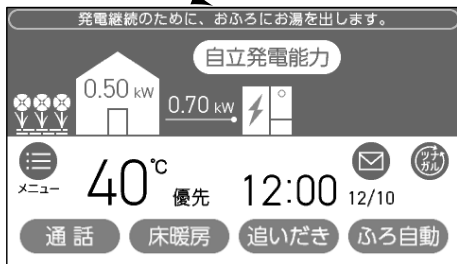
貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから [発電継続のためにお風呂にお湯を出します] 表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。
 ※状況により複数回お湯を出す場合があります。



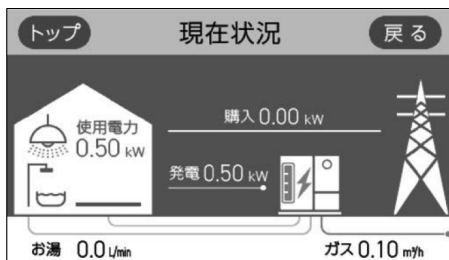
発電継続のためにお湯をお風呂に出します。



排湯メッセージ



- ・ 排湯アナウンス
リモコンから表示と音でお知らせ
- ・ 排湯中は、リモコンのON/OFFスイッチがON/OFFにかかわらずONになります。

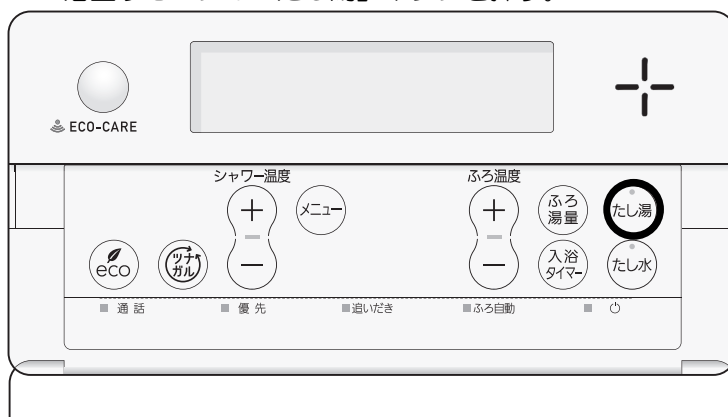


- ・ 貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面(一例)で確認ください。

■ お知らせ

- ◆ お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- ◆ 停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

・ 浴室リモコンの「たし湯」ボタンを押す。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

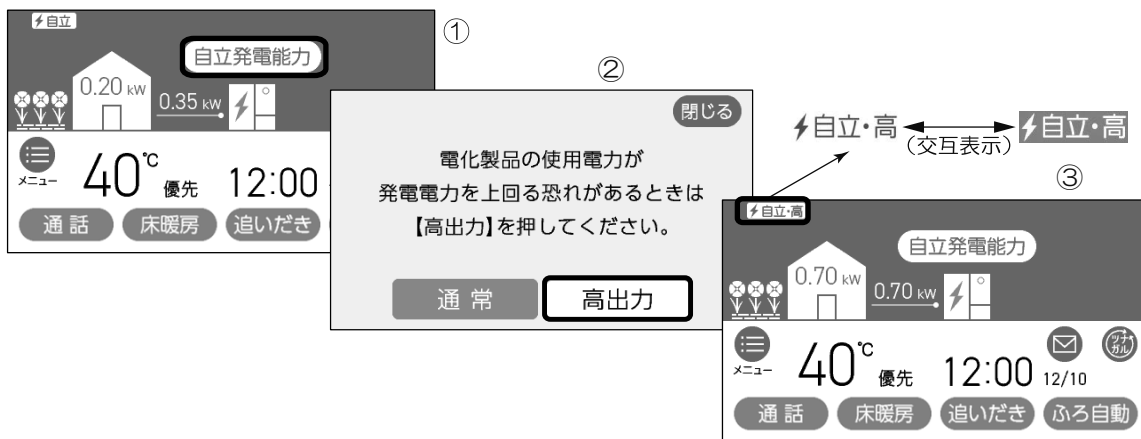
発電出力を上げる場合

■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

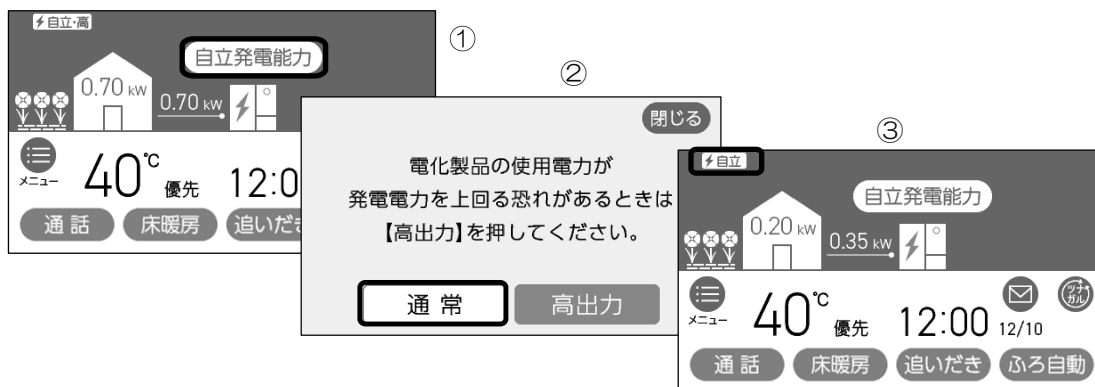
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]をタッチする。
([自立発電能力]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立発電能力画面で[高出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチする。
- ② 自立発電能力画面で[通常]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※ 消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。
熱源機からのお湯を使用することができます。

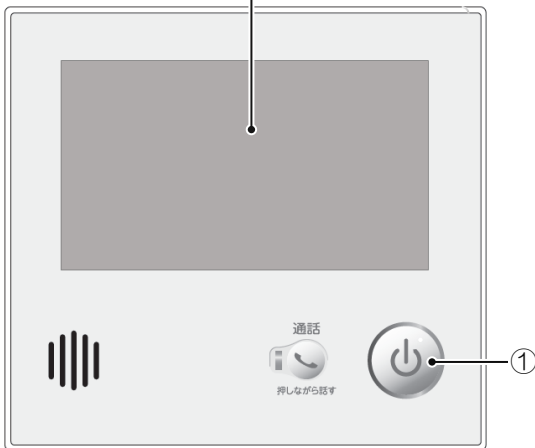
リモコンについて

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。浴室リモコンも台所リモコンと同様に発電ユニットを操作することができます。ただし停電時自立発電時の排湯については台所リモコンでは対応できません。

その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書を参照してください。

■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）

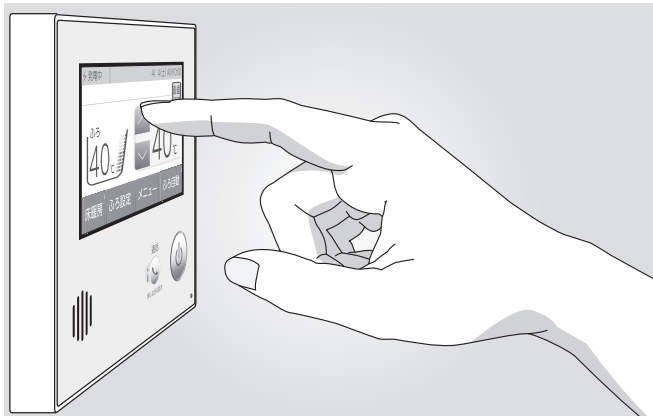
表示画面（タッチパネル）



- ①「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・給湯器の運転「入」「切」の操作に使用します。
 - ・「入」でランプが点灯します。
 - ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。

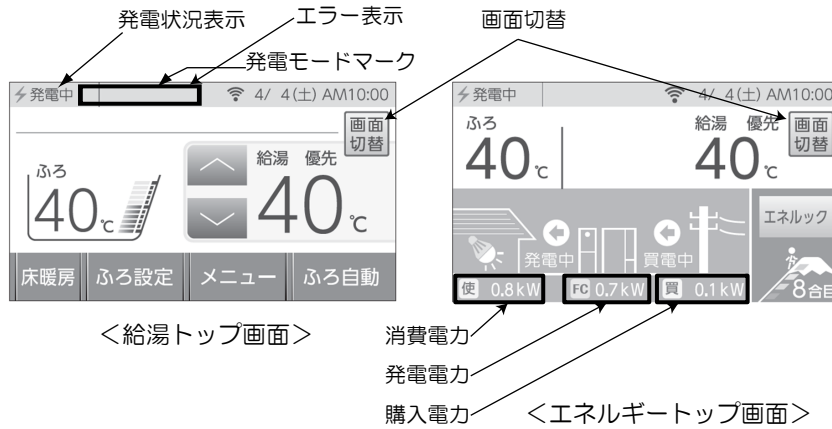
■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

- ・このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- ・圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンについて



■発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中

⚡ (点灯)	発電しています。
表示部が回転	起動中(発電準備中)です。
	発電停止の動作中です。
	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは発電停止の動作中または停止しています。*1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

*1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
⊘ 禁発電	発電を強制的に禁止しています。	
⊗ 発電	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています。	
逆流の場合	電圧抑制*2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立	停電時自立発電しています。
	自立・高	高出力設定(39ページ)で停電時自立発電しています。

*2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、

■発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> この表示が出ている間(約7~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。 この表示が出た場合、午前2時以降発電ユニットの起動開始(午前5時から7時の間)までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。 ※連続で70分間以上停止いただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
	凍結防止マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。
	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

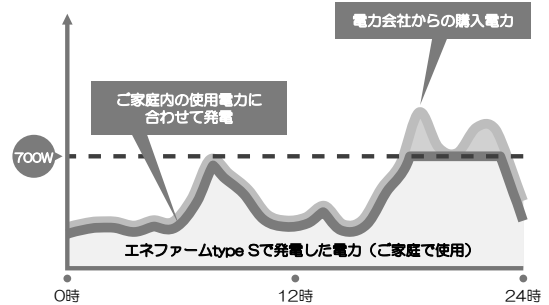
発電について

- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

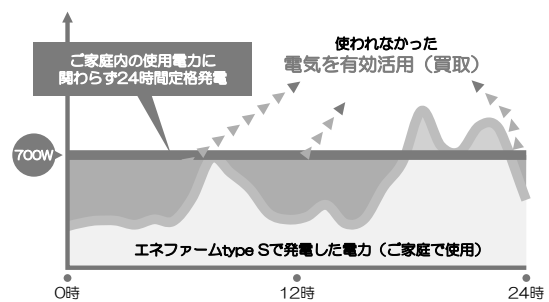
● 逆潮流なし運転

ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。
 ※ご家庭内の使用電力が85W未満のときは、発電出力が0Wのアイドル運転になります。



● 逆潮流あり運転

ご家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大約700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。
 ※逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります。）



■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約7～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※ 停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご利用されているお客さまは除く）

Mマーク



発電について

発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

■ 機器保護運転停止をしているとき

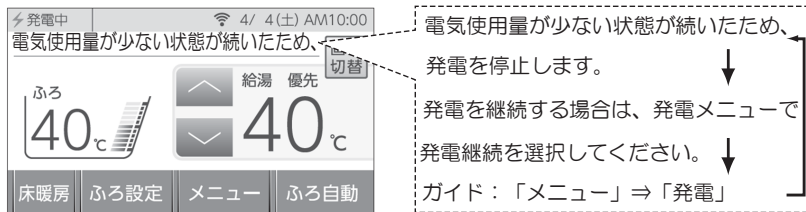
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）。

■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は発電メニューで発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（32ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（32ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご家庭の消費電力変動が著しく大きい状態が継続する場合、機器保護のため発電出力をOWに下げることがあります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■ 経年劣化したとき

- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

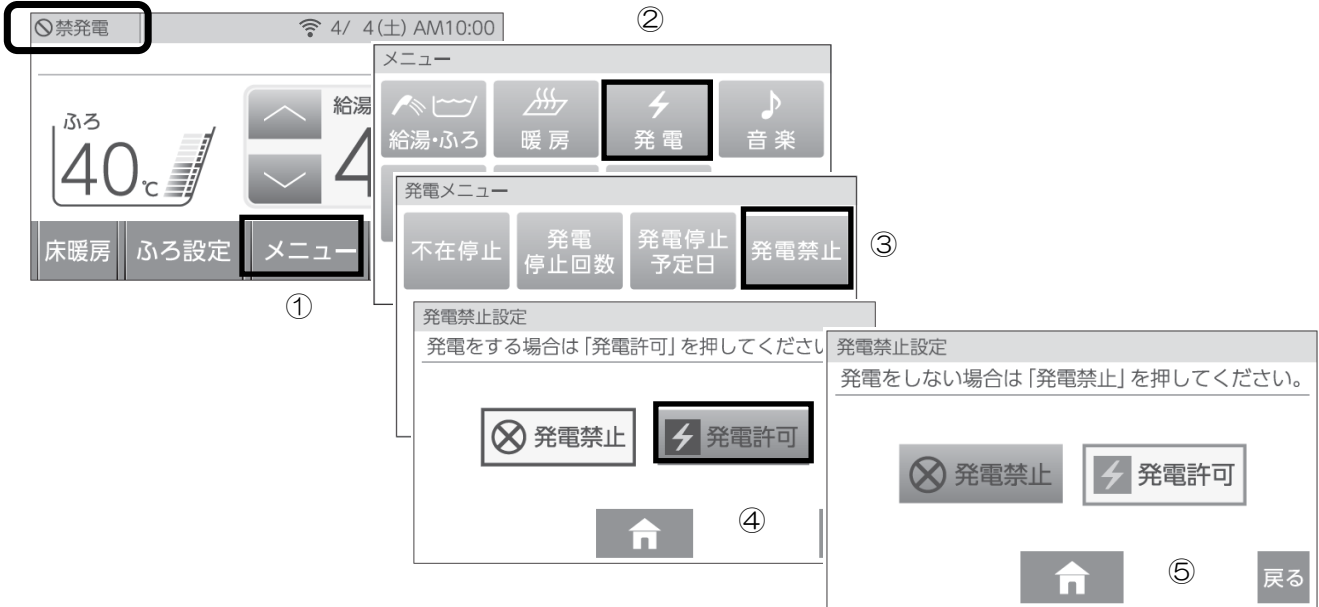
発電をする

※ 起動には約4～5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）
停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作（約3～5時間）完了後に起動します。

■ 発電禁止を解除し発電をする ※画面左上に「禁発電」が表示されている場合

「発電禁止」（33ページ）で停止しています。以下操作で「発電禁止」を解除してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止画面より[発電許可]をタッチします。
- ⑤ 表示が[発電許可]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



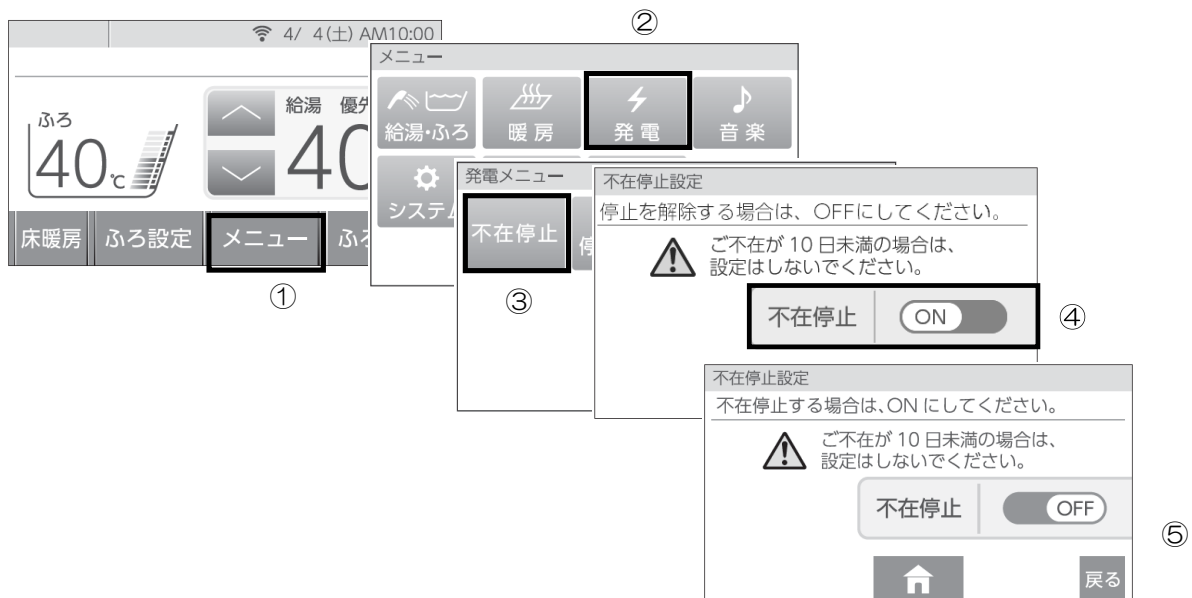
■ 不在停止を解除し発電をする ※不在停止（34ページ）で停止させた場合

リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

※ 以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- ・ 熱源機による暖房運転。
- ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間以上のときの、リモコン表示画面タッチ。
- ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間未満のときの、メニュー画面からの解除操作。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止設定画面より[ON]をタッチします。
- ⑤ 表示が[OFF]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。

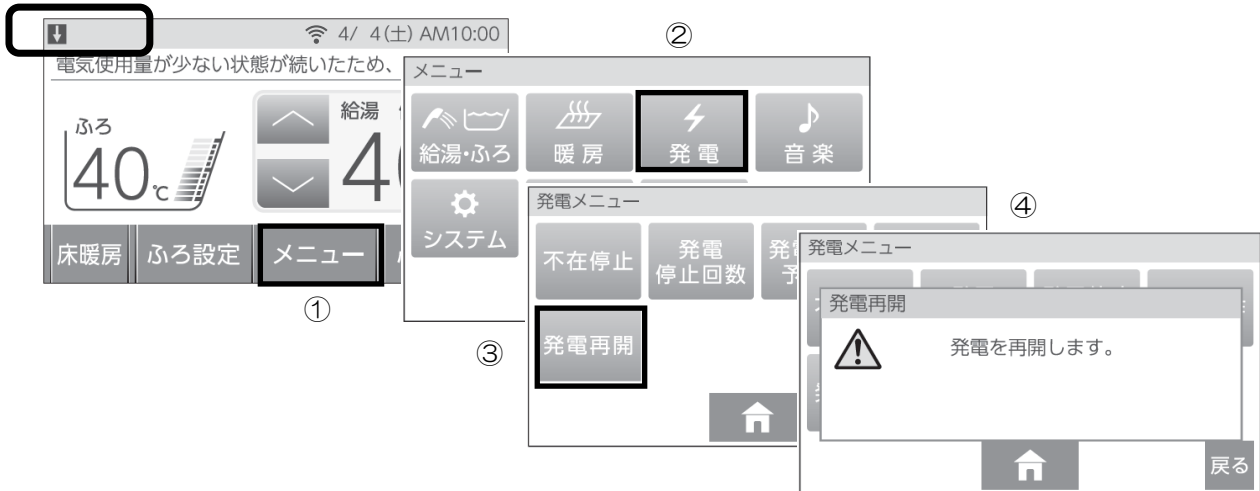


発電をする

■ 発電の再開をする ※画面左上に「↓」が表示されている場合

「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」（30ページ）で停止しています。以下操作で「発電再開」してください。

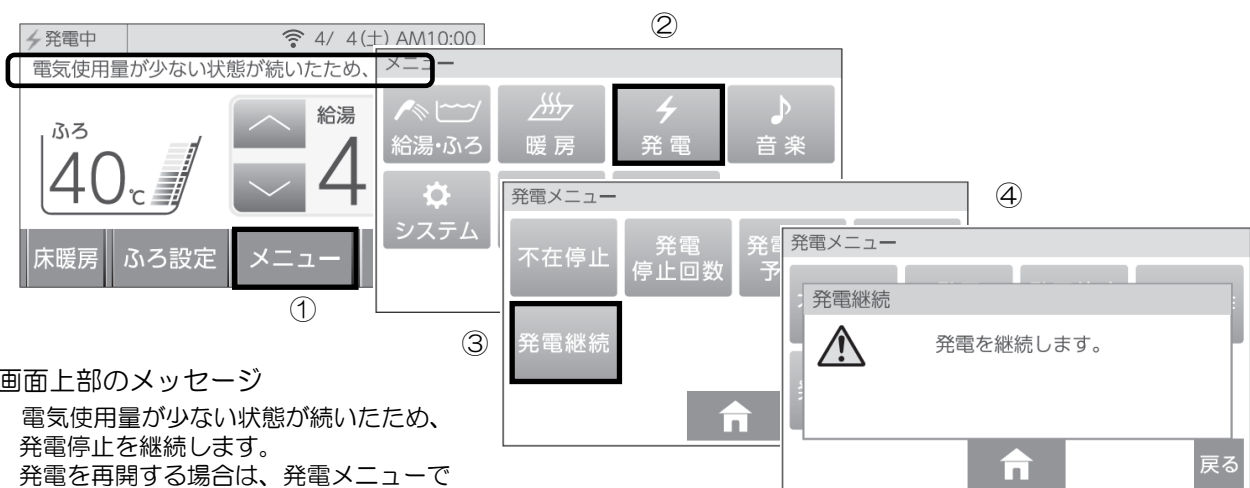
- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 「発電を再開します。」と画面に表示されます。（5秒程度）
- ⑤ トップ画面に移行し、発電ユニットが起動をはじめます。



■ 翌日も発電を継続する ※画面上部に「電気使用量が少ない状態が・・・」が表示されている場合

電気使用量が少ない状態が続いたため（30ページ）、もうすぐ発電を停止しようとしています。以下操作で発電を継続できます。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電継続]をタッチします。
- ④ 「発電を継続します。」と画面に表示されます。（5秒程度）
- ⑤ トップ画面に移行し、翌日も発電を継続します。



画面上部のメッセージ

電気使用量が少ない状態が続いたため、
発電停止を継続します。
発電を再開する場合は、発電メニューで
発電再開を選択してください。

発電を止める

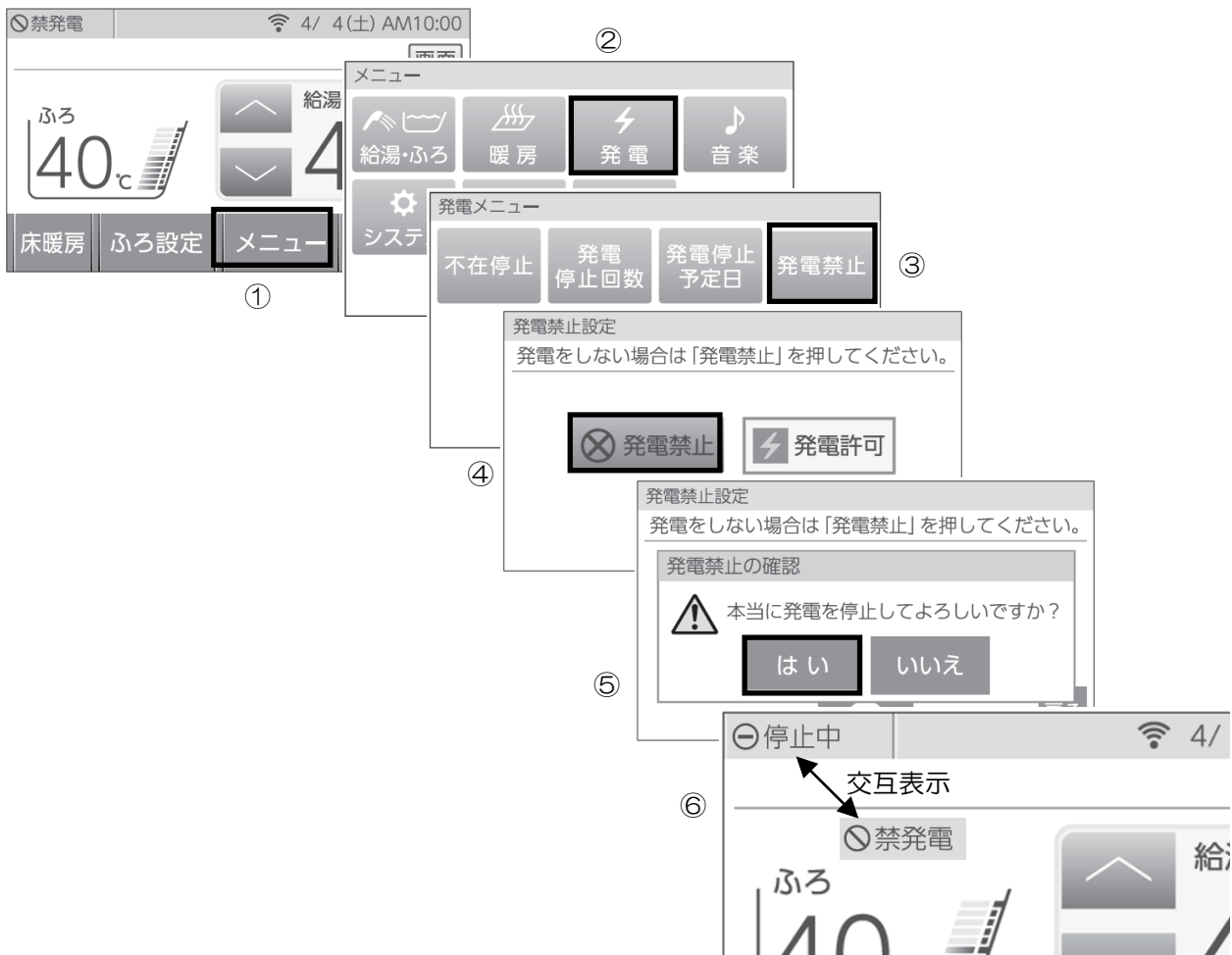
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[発電禁止]をタッチします。
- ④ 発電禁止設定画面より[発電禁止]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止の確認画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ リモコントップ画面の左上に[停止中]と[禁発電]が交互に表示され、約3～5時間後に[禁発電]の表示になります。



発電を止める

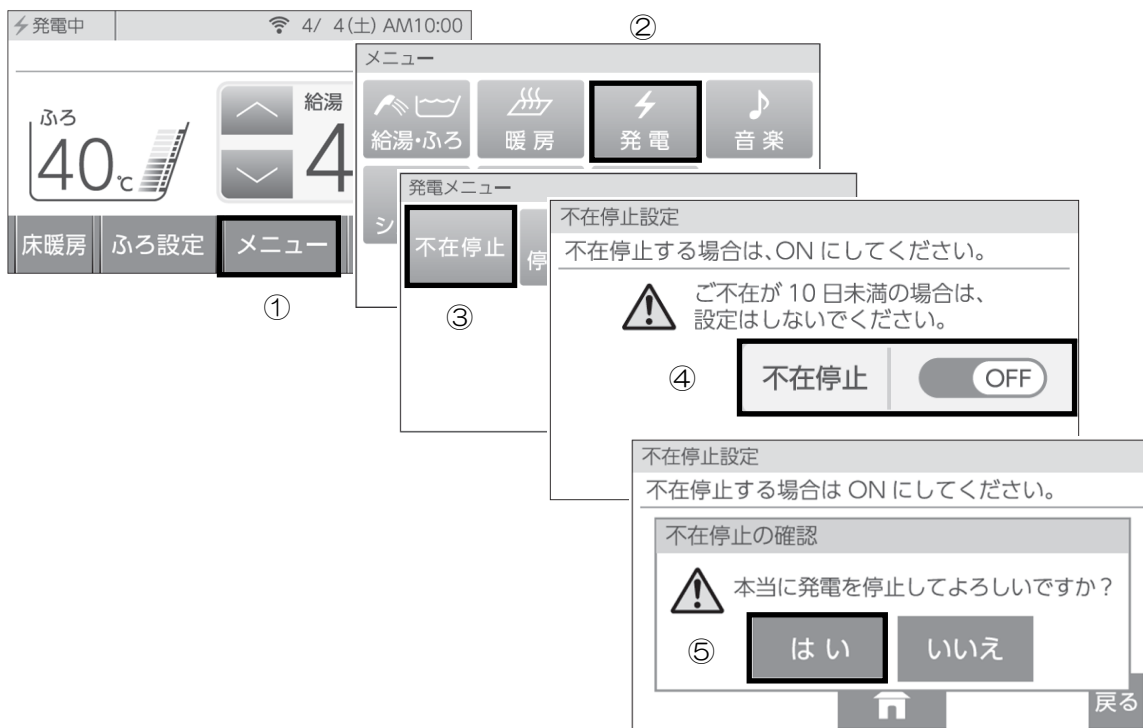
■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※ 1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電メニュー画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止設定画面より[OFF]をタッチします。
- ⑤ 不在停止の確認画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



※ 不在停止設定を[ON]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[ON]にした後、お風呂または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

停電時自立発電機能の概要

■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

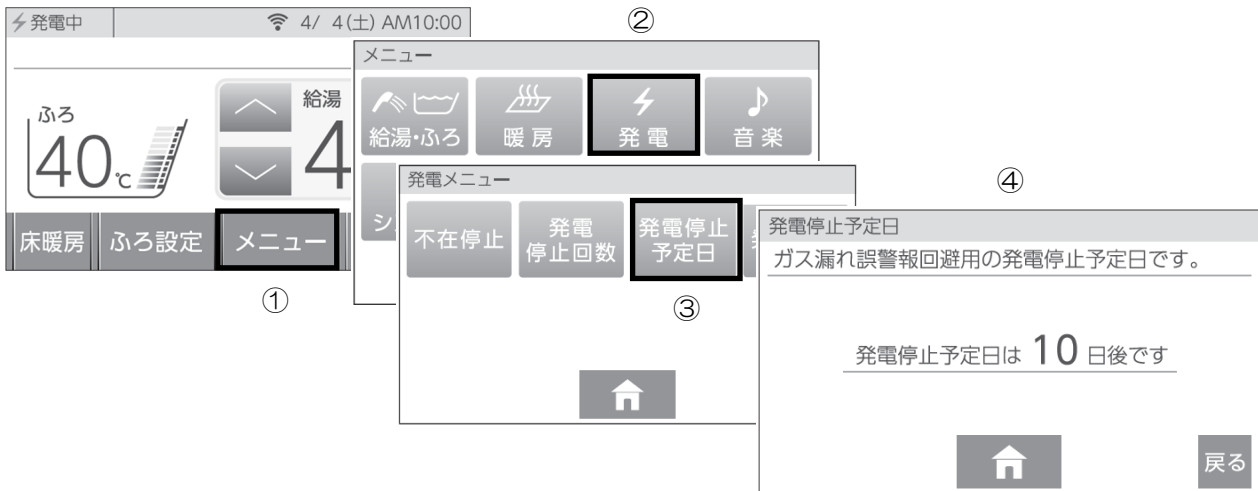
※ 2世帯設定でご利用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。

（詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」（29ページ）をご参照ください。）停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定日]を押して日数を確認してください。



- (2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（33ページ参照）により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了（発電状況表示部が[○停止中][○禁発電]の交互表示から、約3～5時間後[○禁発電]の固定表示になります。（発電状況表示については28ページを参照してください。））後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器（給湯・床暖房など）を連続で70分間以上停止させてください。
- (3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」（31ページ参照）の操作を実施してください。

■ お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合、利用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・断水状態（ご家庭への給水が停止している状態）時
 - ※断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。
 - ・停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合

停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）※1	85	冷蔵庫 ※2	200
熱源機の暖房運転 ※3	180	熱源機の凍結防止運転 ※3	250
熱源機の給湯運転 ※3	100		

※1 テレビをご覧になる場合は、電波の受信に関する機器への電力の供給が必要です。

消費電力の目安には、それら機器の消費電力は含まれていません。

※2 機種によっては使用できないことがあります。

※3 使用されている熱源機の消費電力は、リモコンの取扱説明書でご確認ください。

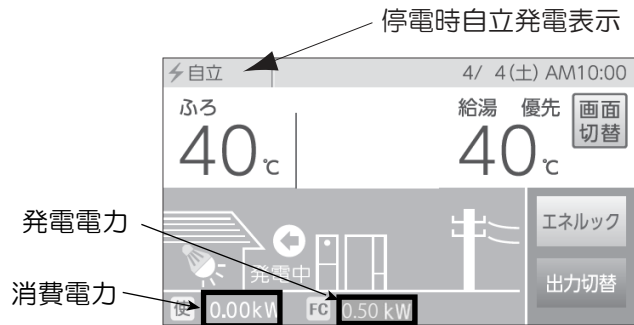
停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電発生時の対応

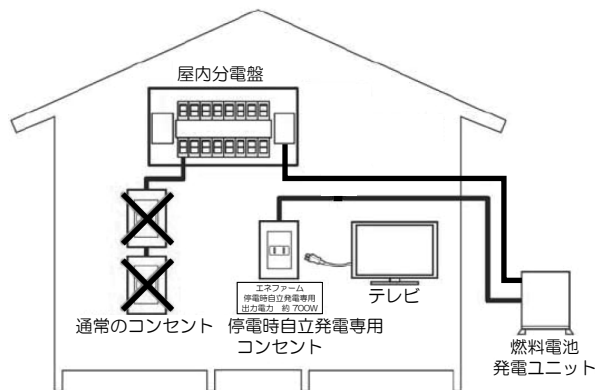
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字が表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定(39ページ参照)に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- お客様の電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約10分間)



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を上回る場合(過負荷)は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒~10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

③ 浴槽の排水栓を抜く

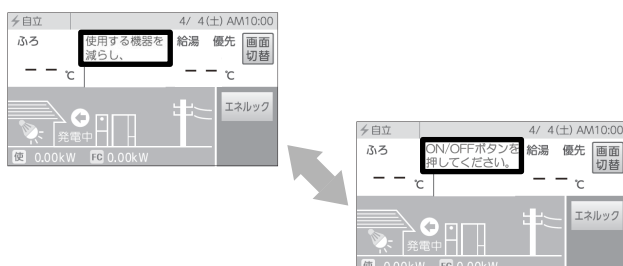
お願い

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く(入浴の際は浴槽の栓をしてください。)

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



② 「ON/OFF」スイッチをONする。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

お願い

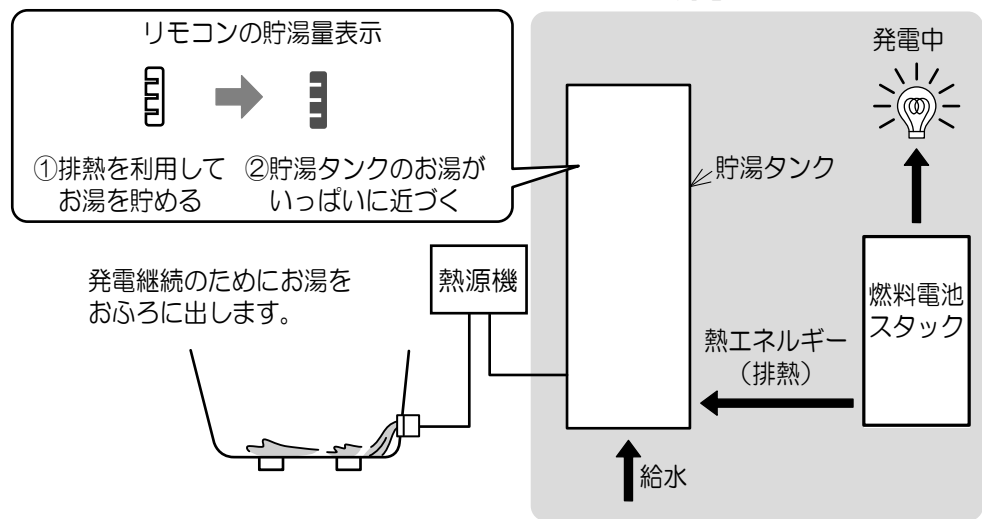
停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。)
停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

■自動排湯について

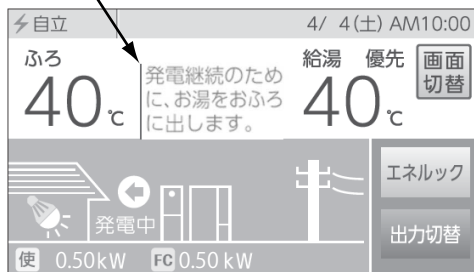
停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音声でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

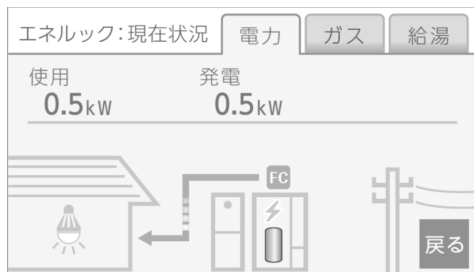
貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のために、お湯をお風呂に出します」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約24リットル出します。
※状況により複数回お湯を出す場合があります。



排湯メッセージ



・排湯アナウンス
リモコンから表示と音声でお知らせします。



・貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面(一例)で確認ください。

■お知らせ

お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。

停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

発電出力を上げる場合

■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[出力切替]をタッチする。
([出力切替]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② メッセージタイトル画面で[高出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチする。
- ② メッセージタイトル画面で[通常出力]をタッチする。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※ 消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

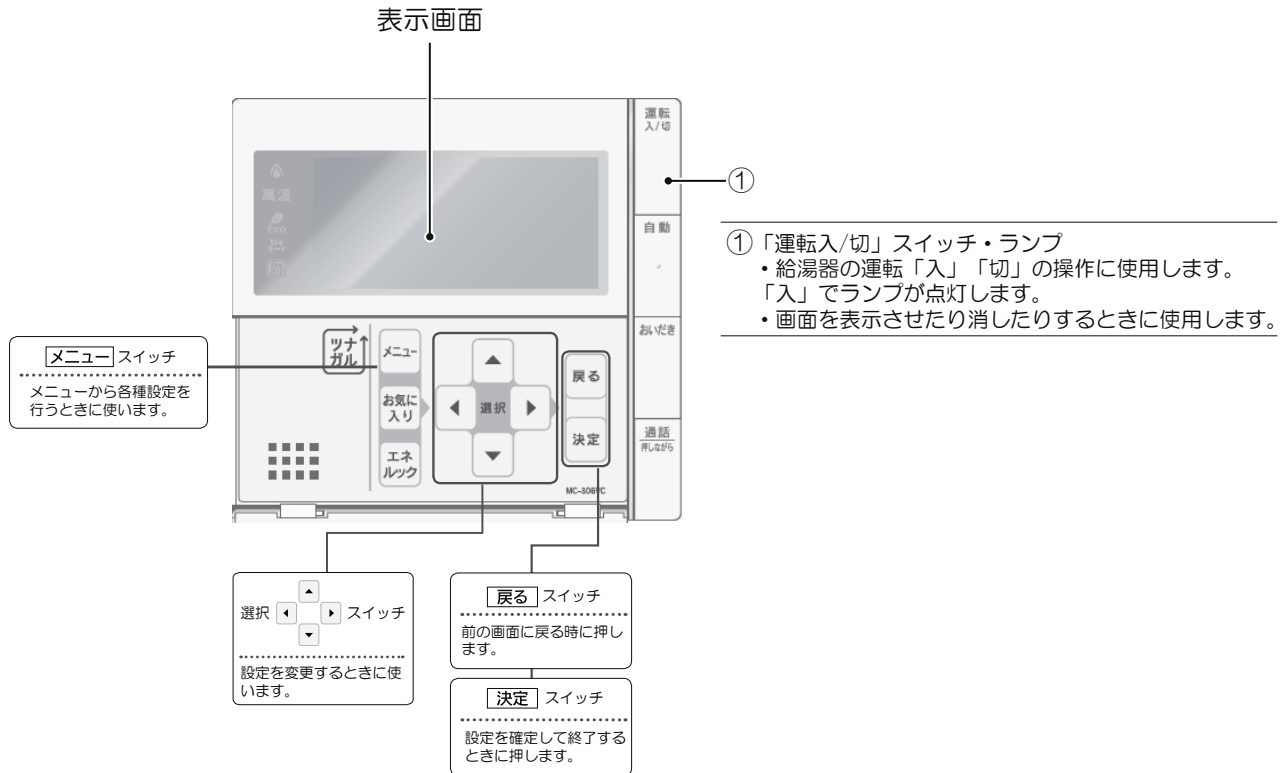
停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。
熱源機からのお湯を使用することができます。

リモコンについて

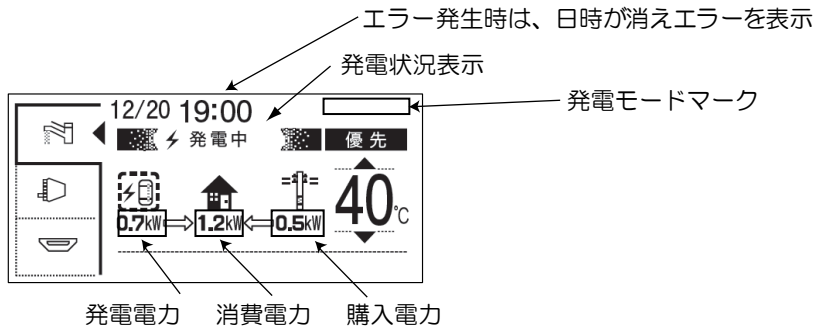
ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について台所リモコンで説明いたします。
停電時自立発電時の排湯については台所リモコンでは対応できません。
その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書を参照してください。

■各部のなまえとはたらき（台所リモコン）



※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンについて



■ 発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中

⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。*1
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。*1
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

*1: 電気使用量が少ない状態が続くと、
発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています。	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています。	
逆潮流の場合	電圧抑制*2	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
自立運転機能付の場合	自立 ↔ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています。
	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(52ページ)で停電時自立発電しています。

*2: 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、
発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、
発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、
この機能は自動的に解除されます。

■ 発電モードマークの見かた

	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> この表示が出ている間(約7~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。 この表示が出た場合、午前2時以降発電ユニットの起動開始(午前5時から7時の間)までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分間以上ご使用を停止してください。 ※連続で70分間以上停止いただけなかった場合は、リモコン上に「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて[01900]を表示し、停止を継続します。この場合は、「故障・異常かな?と思ったら」(81ページ)を参照し、処置を行ってください。
	凍結防止マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。

発電について

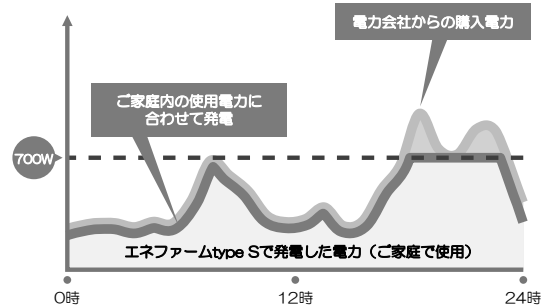
- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

● 逆潮流なし運転

ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。

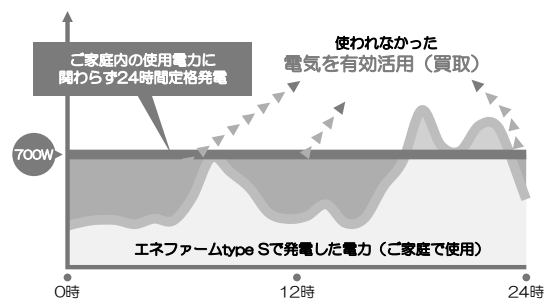
※ご家庭内の使用電力が85W未満のときは、発電出力が0Wのアイドル運転になります。



● 逆潮流あり運転

ご家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）

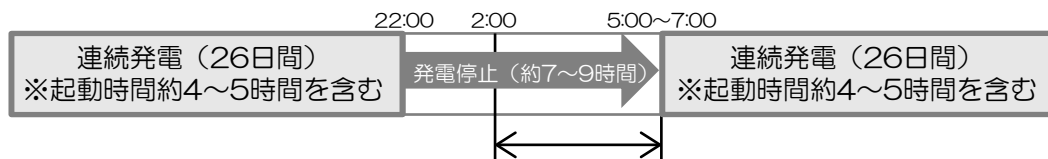


リモコン 発電

■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

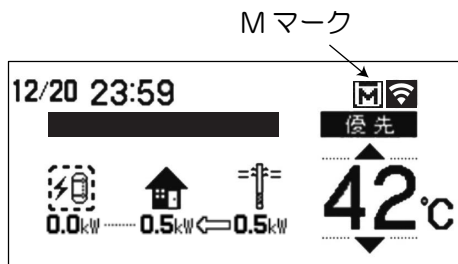
ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約7～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）



発電について

発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

■ 機器保護運転停止をしているとき

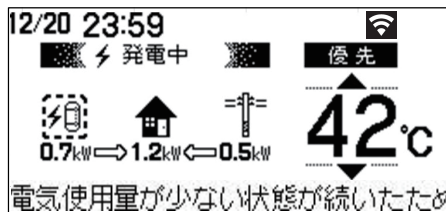
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのトップ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合は【メニュー】→【発電】より発電継続を選択してください。」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



←——— メッセージ表示部
(メッセージが右から左にながれる)

- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（45ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（45ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご家庭の消費電力変動が著しく大きい状態が継続する場合、機器保護のため発電出力をOWに下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながっている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■ 経年劣化したとき

- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

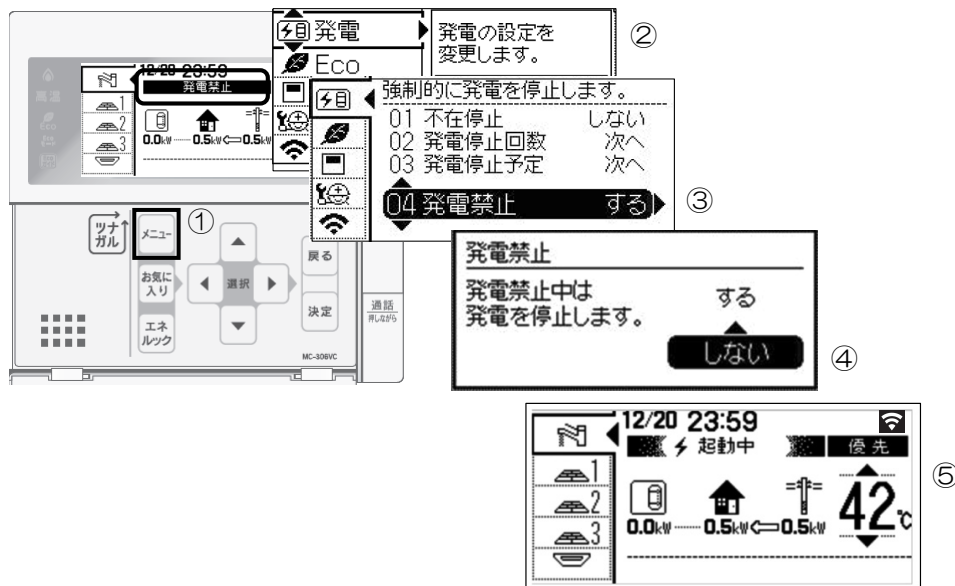
発電をする

※ 起動には約4～5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）
 停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作（約3～5時間）完了後に起動します。

■ 発電禁止を解除し発電をする ※画面に「発電禁止」が表示されている場合

「発電禁止」（46ページ）で停止しています。以下操作で「発電禁止」を解除してください。

- ① 「メニュー」ボタンを押します。
 - ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
 - ③ ▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押します。
 - ④ ▼を押し、「しない」を選択して「決定」を押します。
 - ⑤ トップ画面の発電状況表示部が[起動中]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。
- ※ 発電ユニットが停止動作完了後でなかった場合は、表示は[停止中]と表示します。この場合は停止動作完了後に[起動中]に切り替わります。



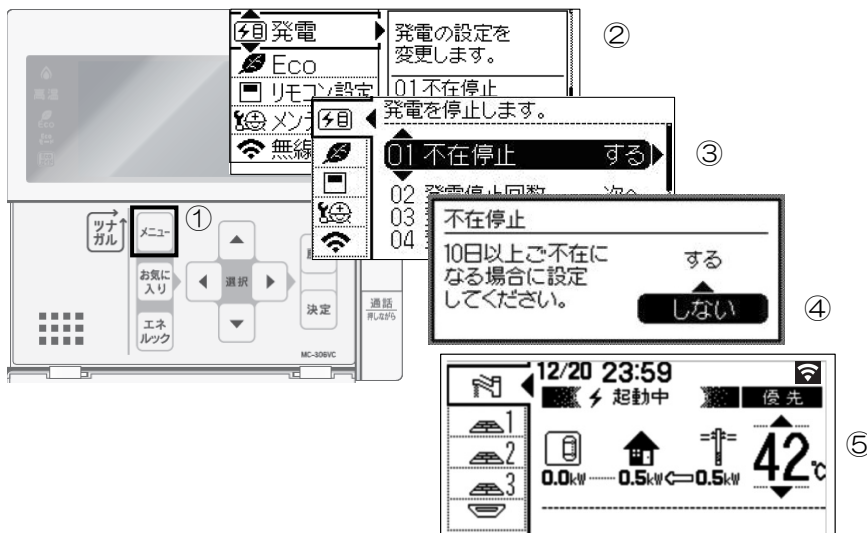
■ 不在停止を解除し発電をする ※不在停止（47ページ）で停止させた場合

リモコンの「入/切」スイッチの「入」操作で「不在停止」を解除してください。

※ 以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- ・ 熱源機による暖房運転。
- ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間以上のときの、リモコンのボタン（全てのボタンに対応）操作。
- ・ 不在停止設定後の経過時間が5時間未満のときの、メニュー画面からの解除操作。

- ① 「メニュー」ボタンを押します。
- ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③ ▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④ ▼を押し、「しない」を選択して「決定」を押します。
- ⑤ トップ画面の発電状況表示部が[起動中]となって点滅し、発電ユニットが起動をはじめます。

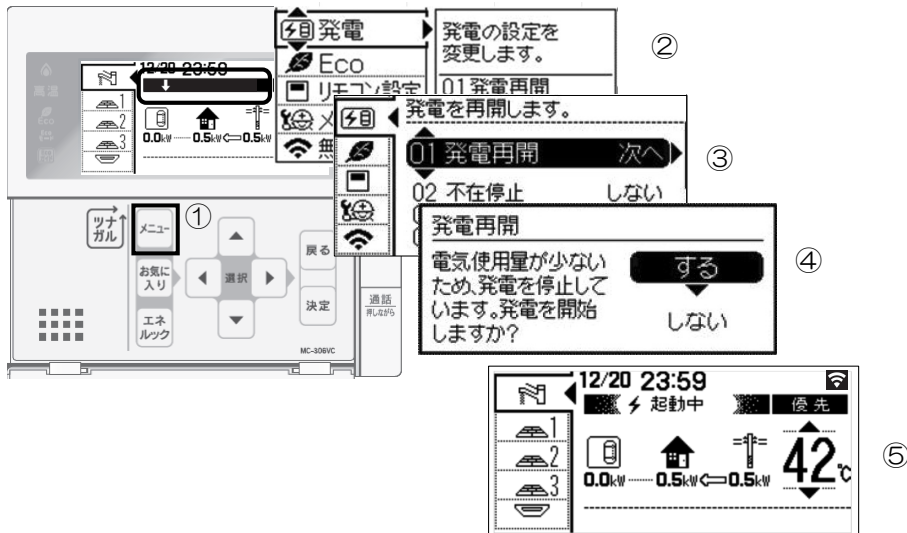


発電をする

■ 発電の再開をする ※画面に「↓」が表示されている場合

「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」（43ページ）で停止しています。以下操作で「発電再開」してください。

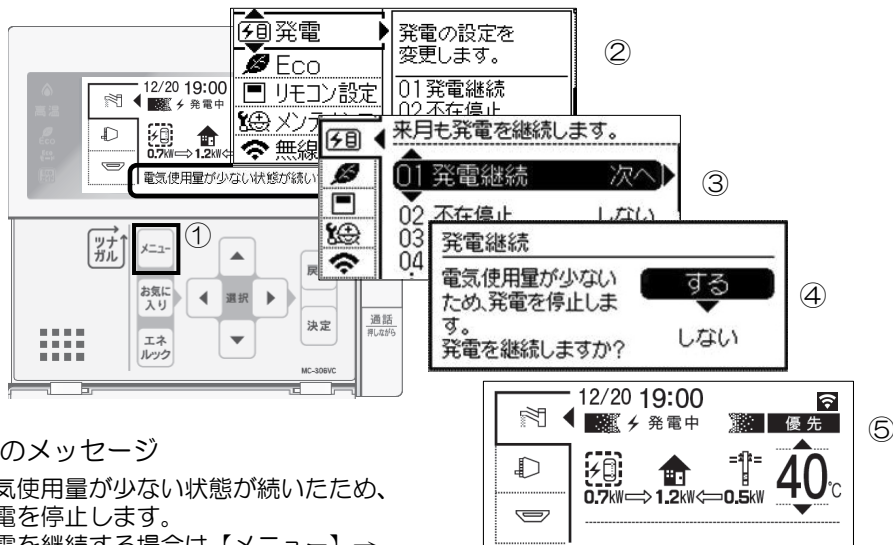
- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電再開]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤トップ画面の発電状況表示部が[起動中]に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



■ 翌月も発電を継続する ※画面に「電気使用量が少ない状態が・・・」が表示されている場合

電気使用量が少ない状態が続いたため（43ページ）、もうすぐ発電を停止しようとしています。以下操作で発電を継続できます。

- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電継続]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤トップ画面に移行し、メッセージ表示が消え翌月も発電を継続します。



画面のメッセージ

電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。
発電を継続する場合は【メニュー】→【発電】より発電継続を選択してください。

発電を止める

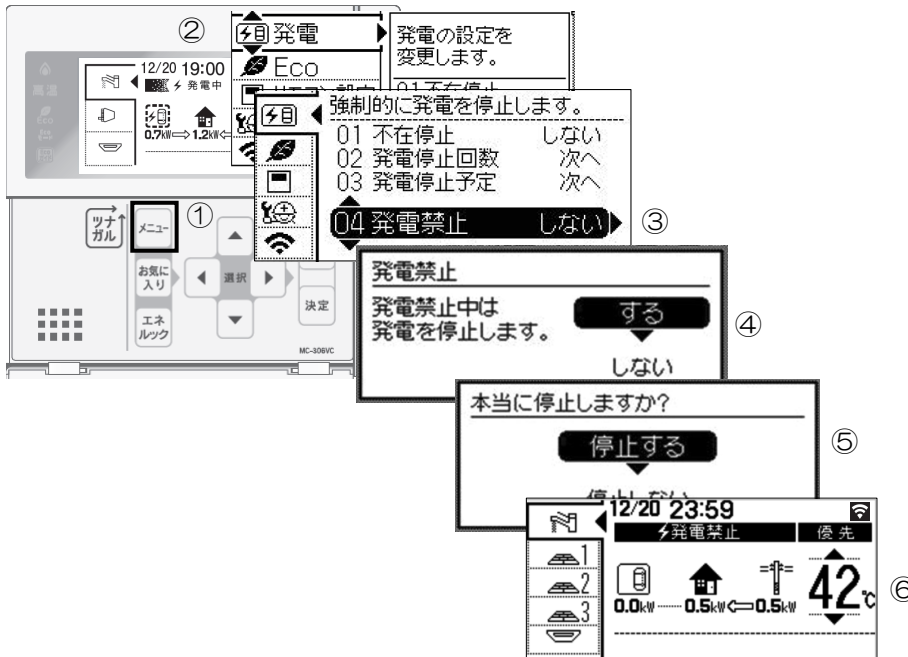
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※ お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ①「メニュー」ボタンを押します。
- ②▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③▲または▼で[発電禁止]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤▲を押し、「停止する」を選択して「決定」を押します。
- ⑥リモコントップ画面に[発電禁止]と表示され、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。



発電を止める

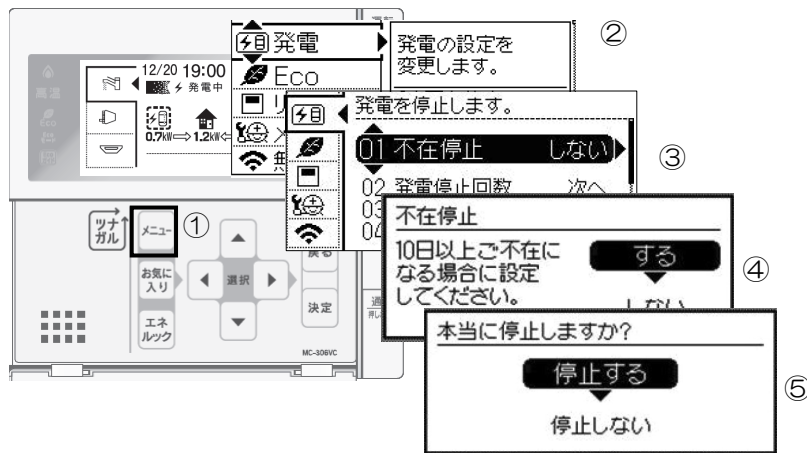
■ 10日以上家をあけるなど、全ての運転（発電・給湯・暖房など）をしばらく停止したいとき（不在停止）

※ 1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※ 給湯・暖房などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① 「メニュー」ボタンを押します。
- ② ▲または▼で[発電]を選択し▶または「決定」を押します。
- ③ ▲または▼で[不在停止]を選択し▶または「決定」を押します。
- ④ ▲を押し、「する」を選択して「決定」を押します。
- ⑤ ▲を押し、「停止する」を選択して「決定」を押します
- ⑥ 液晶画面が消え、「運転入/切」スイッチのランプが消灯します。



※ 不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「入/切」スイッチの「入」操作、または5時間経過後は、リモコンの操作ボタン（全てのボタンに対応）を押すと、不在停止が解除されます。

※ 不在停止設定を[する]にした後、お風呂、または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電時自立発電機能の概要

■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

※ 熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は700Wよりも少なくなります。

■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

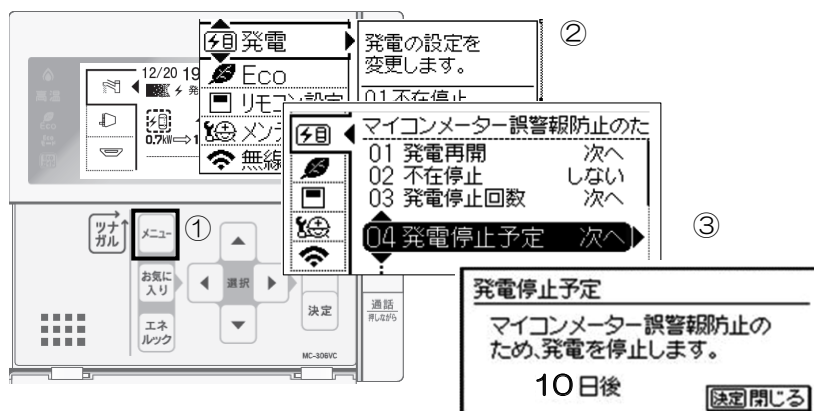
■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

※ 2世帯設定で使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(42ページ)をご参照ください。) 停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・「メニュー」[発電]を選択して[発電停止予定]を選択して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作(46ページ参照)により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了(発電状況表示部の*が交互表示され、約3～5時間後*は消灯します。(発電状況表示については41ページを参照してください。))後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止から発電をする」(44ページ参照)の操作を実施してください。

■ お知らせ

- ◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◆ 以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。
 - ・ 断水状態(ご家庭への給水が停止している状態)時
 - ※ 断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82FO1]等を表示し、運転を停止する場合があります。
 - ・ 停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合
 - ・ 発電ユニットの蓄熱量が多い場合

停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒーター	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）※1	85	冷蔵庫 ※2	200
熱源機の暖房運転 ※3	180	熱源機の凍結防止運転 ※3	250
熱源機の給湯運転 ※3	100		

※1 テレビをご覧になる場合は、電波の受信に関する機器への電力の供給が必要です。

消費電力の目安には、それら機器の消費電力は含まれていません。

※2 機種によっては使用できないことがあります。

※3 使用されている熱源機の消費電力は、リモコンの取扱説明書でご確認ください。

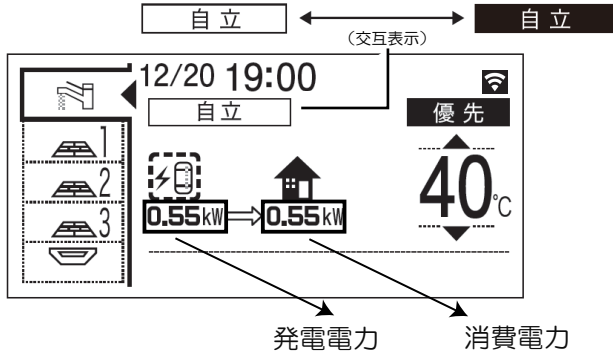
停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電発生時の対応

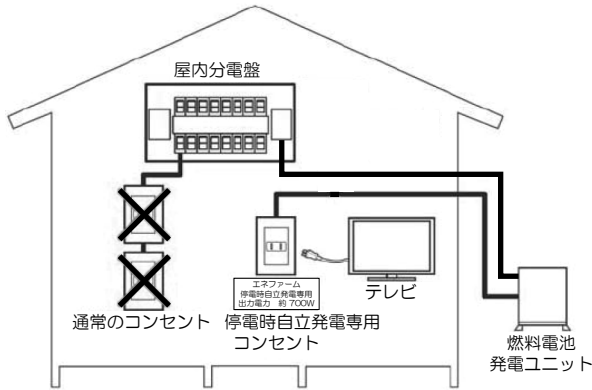
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する

- ・ 停電してから約90秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- ・ 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（52ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- ・ お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約10分間）



② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- ・ 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- ・ リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- ・ 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒～10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- ・ 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- ・ 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

③ 浴槽の排水栓を抜く

お願い

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く（入浴の際は浴槽の栓をしてください。）

停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

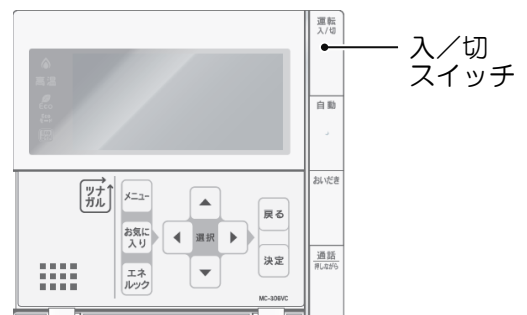
過負荷2回目以降の復帰操作

① リモコンのメッセージを確認する



メッセージ
「使用する電気を減らし、運転「切」→「入」してください。」

② 「入/切」スイッチを入れる。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

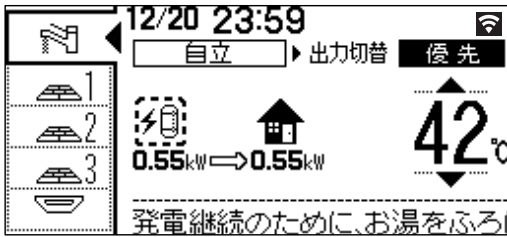
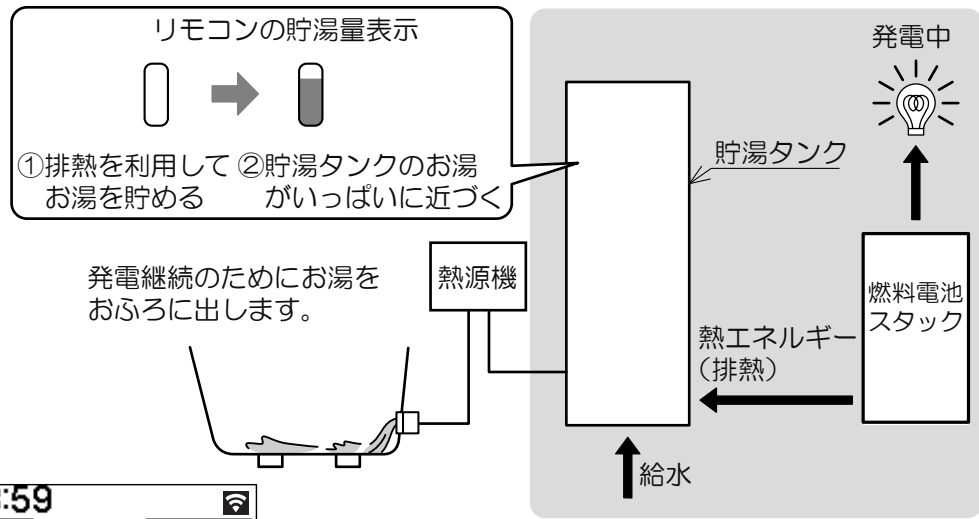
お願い

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は浴槽の栓をしてください。)
 停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
 浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。

■自動排湯について

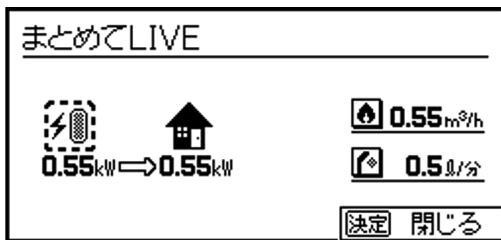
停電時自立発電中は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
 * 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

貯湯量表示がいっぱいに近づく、リモコンから「発電継続のためにお風呂にお湯を出します」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。
 ※状況により複数回お湯を出す場合があります。



・排湯アナウンス
 リモコンから表示と音声でお知らせ

排湯メッセージ「発電継続のために、お湯をふろに出します。」

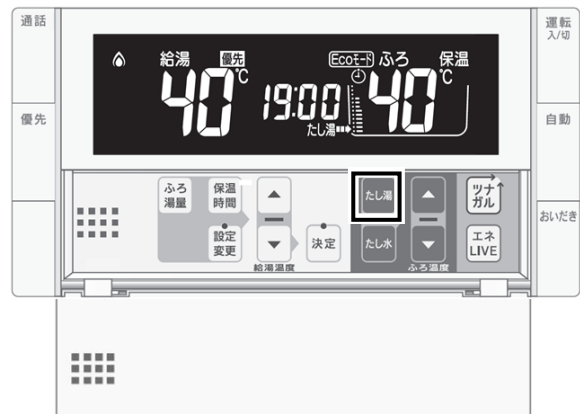


・貯湯量は、リモコンより「エネルギーック」ボタン→「まとめてLIVE」を選択し、左画面（一例）で確認ください。

■お知らせ

- ・お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- ・停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

①浴室リモコンの「たし湯」ボタンを押す。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

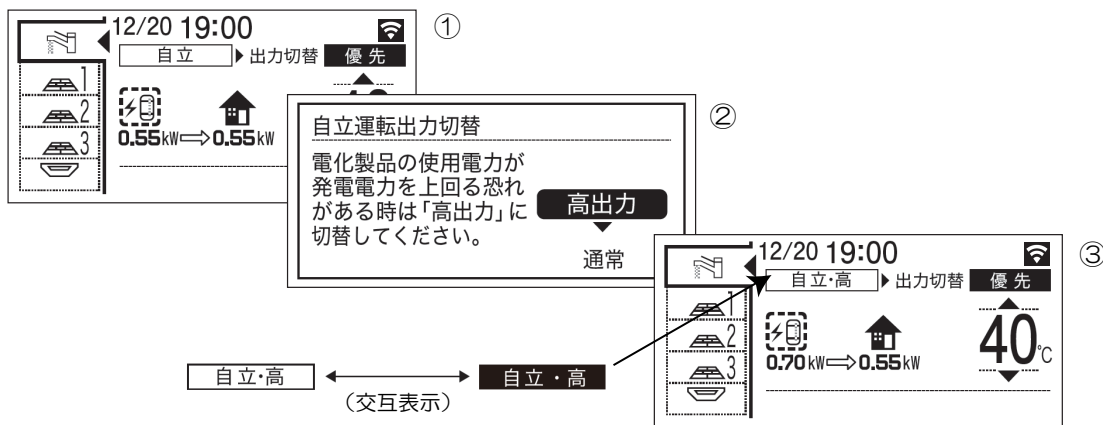
発電出力を上げる場合

■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用される時は下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

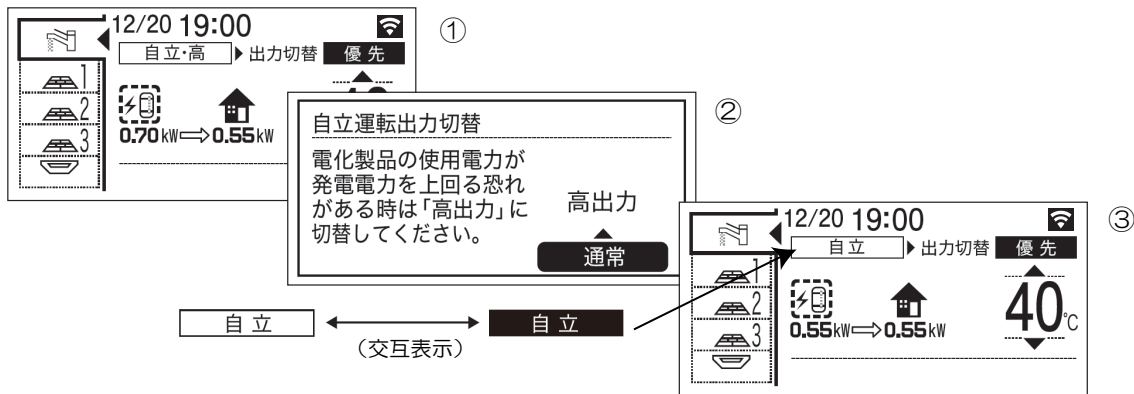
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は▶を押します。
([出力切替]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立運転出力切替画面で▲を押し[高出力]を選択して「決定」を押します。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、▶を押します。
- ② 自立運転出力切替画面で▼を押し[通常]を選択して「決定」を押します。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



※ 消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。その場合は右画面が表示されます。

高出力モードが解除されました。
通常出力モードに切り替わります。

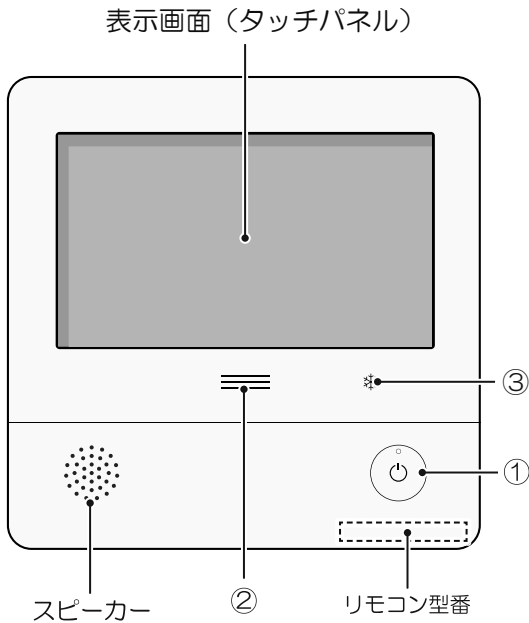
停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認してください。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認してください。
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 給湯栓を開けてください。
熱源機からのお湯を使用することができます。

リモコンについて

ここでは発電ユニットを運転・停止するためのリモコン操作について説明いたします。
その他のリモコンの詳細機能については発電リモコンの取扱説明書を参照してください。

■各部のなまえとはたらき（発電リモコン）



- ① 「ON/OFF」スイッチ・ランプ
- ・画面を表示させたり消したりするときに使用します。
 - ・画面を表示するとランプ点灯します。
 - ・不在停止中はランプ点滅します。

- ② 発電ランプ
- ・発電ユニットで発電中に点灯します。
 - ・現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い

↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。
1.2kW	青色	使用電力が少し増えて います。
0.7kW	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。
↓	少ない	

- ・逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています。
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています。

- ③ 凍結予防運転中マーク
- ・凍結予防のために発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯します。

■表示画面（タッチパネル）の操作の基本

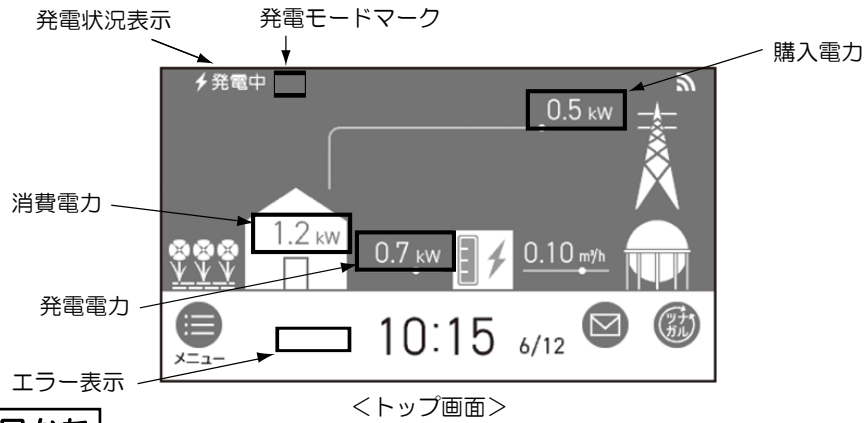
- ・このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- ・圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。
- ・「ON/OFF」スイッチや画面を押さないまま約10分（初期設定時間）経つと表示が消えます。

表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコンについて



<トップ画面>

■ 発電状況表示の見かた

現在の発電状態や、発電の設定を表示します。

⚡ 発電中	
⚡ (点灯)	発電しています。
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です。
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です。
↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です。 ^{※1}
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています。 ^{※1}
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。

※1：電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

表示	状態	
発電中	発電しています。	
起動中	起動中(発電準備中)です。	
停止中	発電停止の動作中です。	
(表示なし)	発電ユニットは停止しています。	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています。	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します。	
出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています	
不在停止	発電を停止しています	
逆潮流の場合	電圧抑制 ^{※2}	発電ユニットの出力を一時的に抑えています。
	売電中	発電した電力を売電しています。
の自立運転機能付の場合	⚡ 自立 ↔ ⚡ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています。
	⚡ 自立・高 ↔ ⚡ 自立・高 (交互表示)	高出力設定(63ページ)で停電時自立発電しています。

※2：自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

(発電リモコン) 発電

■ 発電モードマークの見かた

↻	タンクリフレッシュ 運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
M	ガスマイコンメーター 確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> この表示が出ている間(約7~9時間)は、ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、発電ユニットは停止しています。 この表示が出た場合、午前2時以降発電ユニットの起動開始(午前5時から7時の間)までの間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上ご使用を停止してください。 ※連続で70分以上停止いただけなかった場合は、ガスマイコンメーターがガス漏れと誤警報(ガスマイコンメーター本体のランプが点滅)する場合があります。
H	ヒーター給湯モード マーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。 点灯は炊き上げが完了していることを表しています。

発電について

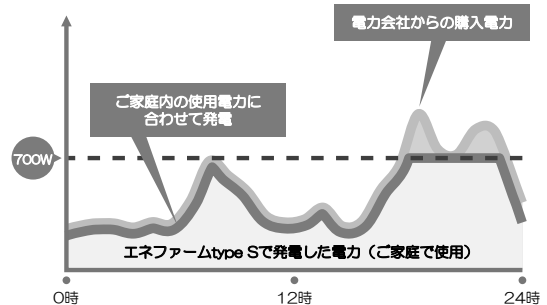
- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約4～5時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約3～5時間かかります。（いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します。）
- 発電ユニットは、27日サイクルで24時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の2パターンあります。

■ 1日の運転イメージ例（実際の運転はご家庭ごとに異なります）

● 逆潮流なし運転

ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。

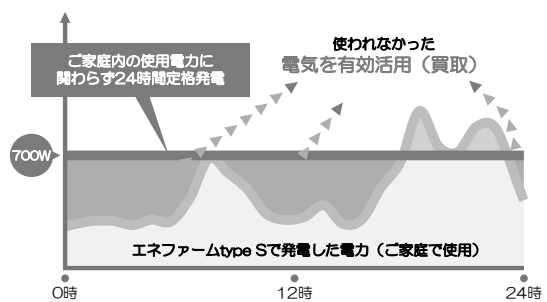
※ご家庭内の使用電力が85W未満のときは、発電出力が0Wのアイドル運転になります。



● 逆潮流あり運転

ご家庭の電力需要に関係なく、定格出力（最大約700W）で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

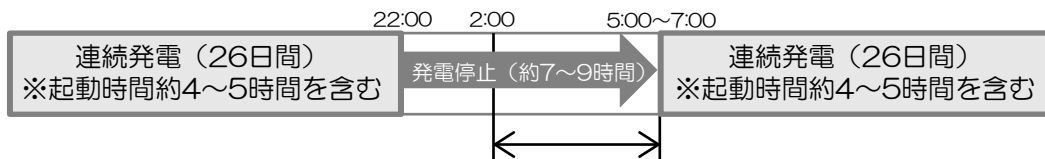
※逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）



■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約7～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。（発電ユニットは自動で運転を再開します。）

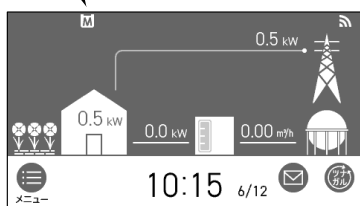
ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。



連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。（2世帯設定でご使用されているお客さまは除く）

Mマーク



発電について

発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンの操作または、給湯栓からお湯（水）が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

■ 機器保護運転停止をしているとき

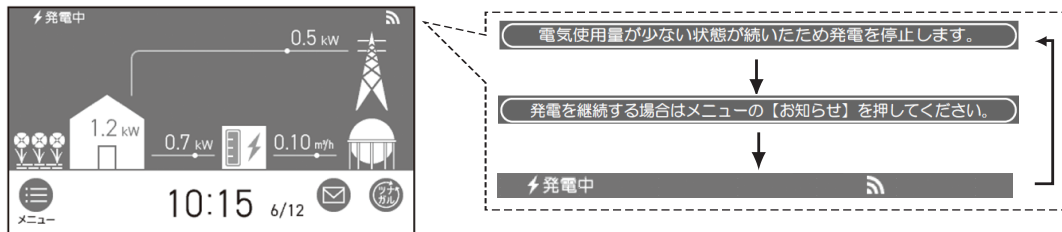
夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード[03F00]、[03F07]、[08F00]を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 故障診断をしているとき

リモコンに[セルフチェックを実施しています]を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません。）

■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

- 毎月末日に当月の電気使用量が少ない場合は、リモコンのお知らせ画面に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください」のメッセージが24時間表示され、翌月（1か月間）は自動停止します。



- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」（58ページ参照）を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」（58ページ参照）を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に[出力抑制]を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご家庭の消費電力変動が著しく大きい状態が継続する場合、機器保護のため発電出力をOWに下げることがあります。
- 発電ユニットの内部センサの補正動作のため、稀に発電出力を数分間OWに下げる場合があります。
- 自宅につながっている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に[電圧抑制]を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■ 経年劣化したとき

- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

発電をする

※起動には約4～5時間かかります。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります。）
停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作（約3～5時間）完了後に起動します。

■ 発電禁止を解除し発電をする ※画面左上に「発電禁止」が表示されている場合

「発電禁止」（59ページ）で停止しています。以下操作で「発電禁止」を解除してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。表示されていない場合は、▼でページを送ってください。
- ④ 発電禁止画面より [しない] をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面が[しない]に変わります。

※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。

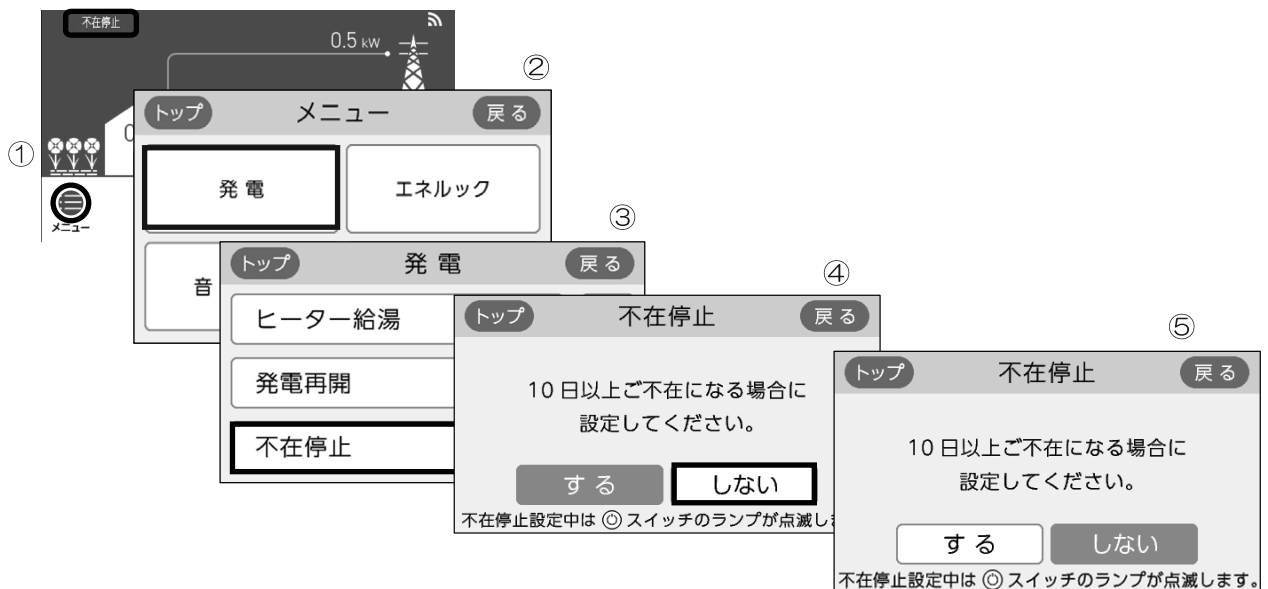


■ 不在停止を解除し発電をする ※画面をタッチしたとき、画面左上に「不在停止」が表示されている場合

「不在停止」（59ページ）で停止しています。以下の操作で「不在停止」を解除してください。

- 不在停止設定後5時間以上経過している場合
リモコンの液晶画面をタッチ、またはリモコンの「ON/OFF」スイッチをONします。
- 不在停止設定後5時間未満の場合
メニュー画面から再開操作をします。
 - ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
 - ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
 - ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
 - ④ 不在停止画面より [しない] をタッチします。
 - ⑤ 不在停止画面が[しない]に変わります。

※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。

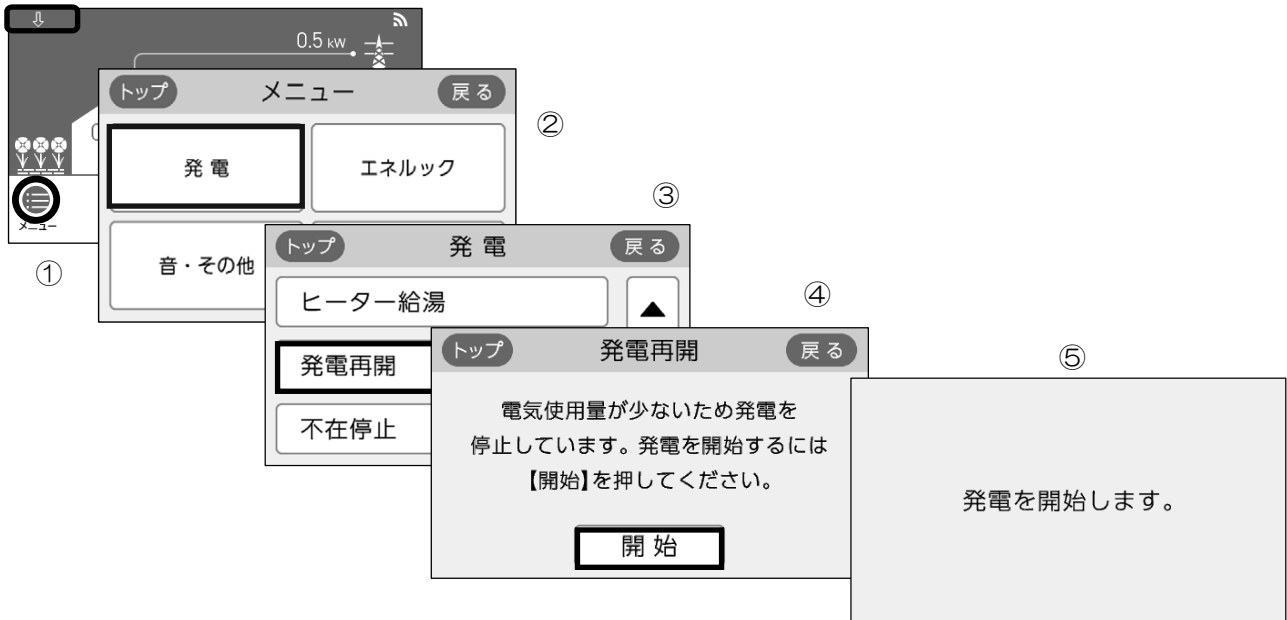


発電をする

■ 発電の再開をする ※画面左上に「↓」が表示されている場合

「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」（56ページ）で停止しています。以下操作で「発電再開」してください

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電再開]をタッチします。
- ④ 発電再開画面より[開始] をタッチします。
- ⑤ 「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。

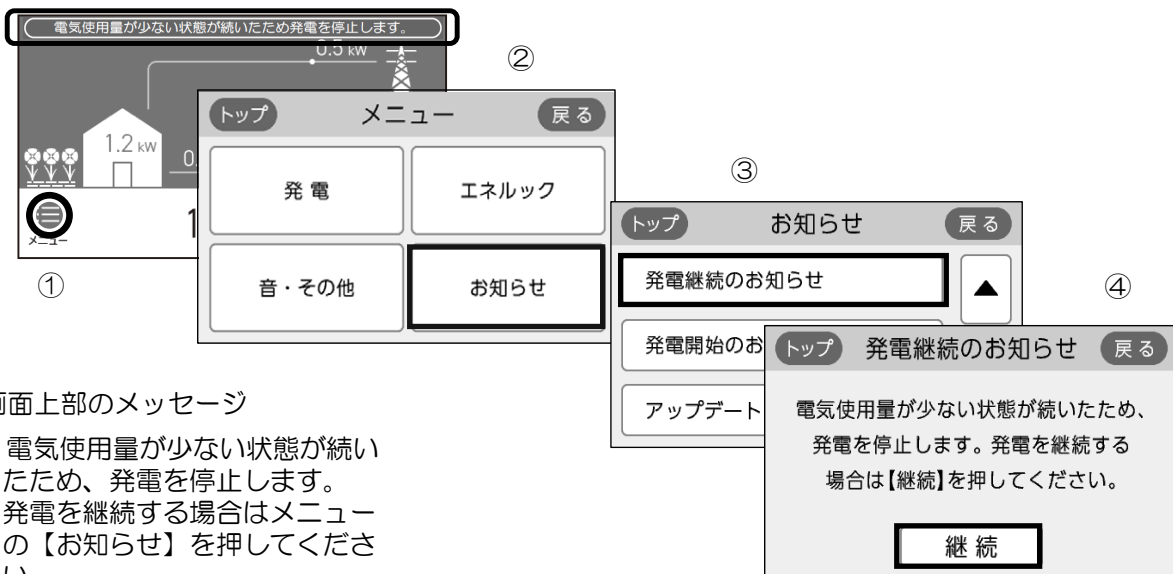


発電
リモコン

■ 翌日も発電を継続する ※画面上部に「電気使用量が少ない状態が・・・」が表示されている場合

電気使用量が少ない状態が続いたため（56ページ）、もうすぐ発電を停止しようとしています。以下操作で発電を継続できます。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[お知らせ]をタッチします。
- ③ お知らせ画面より[発電継続のお知らせ]をタッチします。
- ④ 発電継続のお知らせ画面より[継続]をタッチします。画面は③に戻り翌日も発電が継続されます。



画面上部のメッセージ

電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。
発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください。

発電を止める

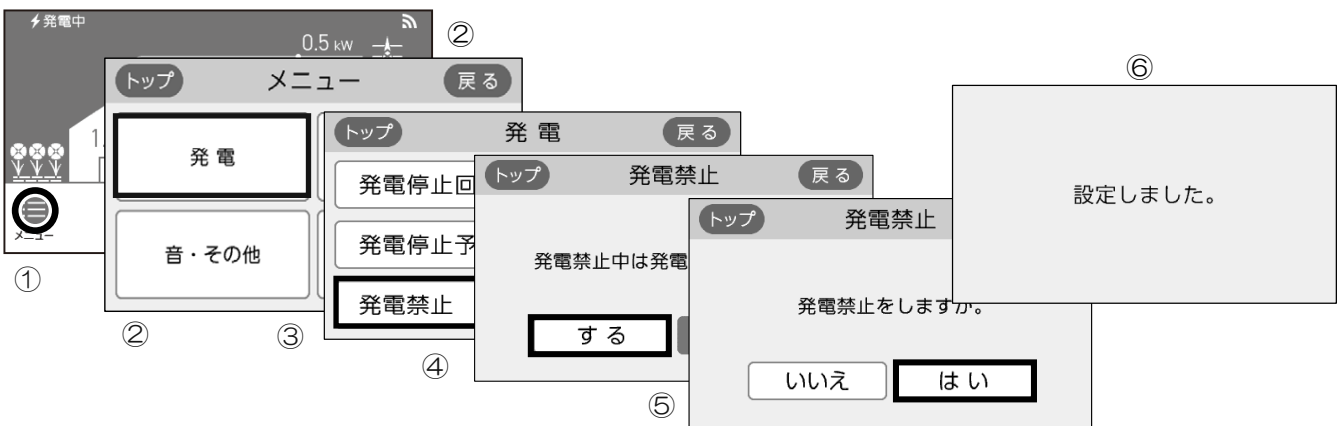
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）。

停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[発電禁止]をタッチします。表示されていない場合は、▼でページを送ってください。
- ④ 発電禁止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 発電禁止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ [設定しました。]と表示後④の画面に戻り、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。



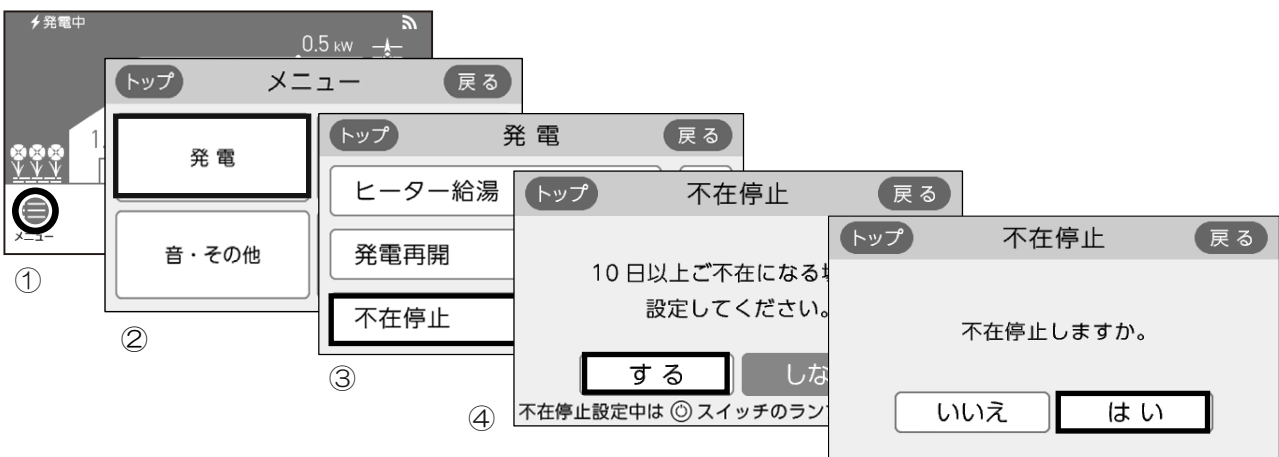
■ 10日以上家をあけるなど、発電・給湯をしばらく停止させたいとき（不在停止）

※1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（71ページを参照）を実施してください。

※10日以上リモコンの操作または、給湯栓からお湯（水）の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。

※給湯の停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

- ① トップ画面より[メニュー]をタッチします。
- ② メニュー画面より[発電]をタッチします。
- ③ 発電画面より[不在停止]をタッチします。
- ④ 不在停止画面より[する]をタッチします。
- ⑤ 不在停止画面より[はい]をタッチします。
- ⑥ 液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが点滅します。



※不在停止設定を[する]にした後5時間経過後は、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、またはリモコンの液晶画面のタッチ、お湯（水）の使用で不在停止が解除されます。

停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電時自立発電機能の概要

■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、停電時自立発電機能により発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

■ 停電時自立発電機能で利用できる電気の量は最大約700Wです

■ 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

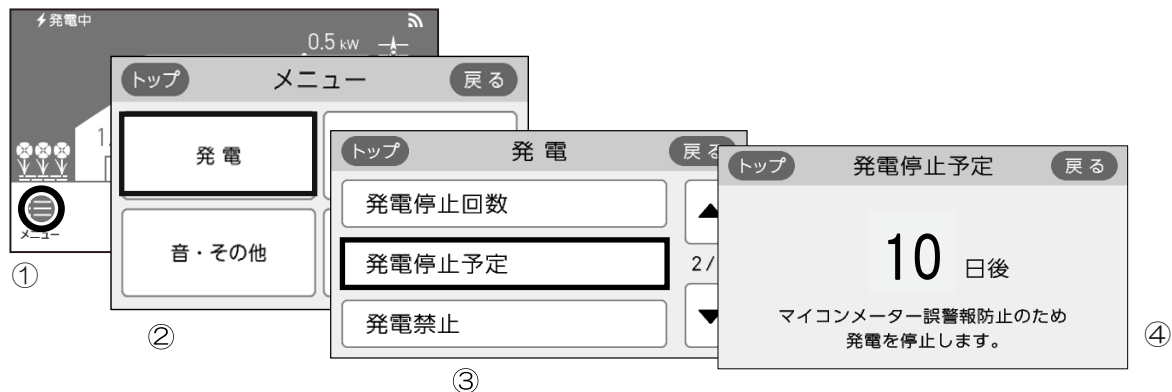
※ 2世帯設定でご使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。

(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(55ページ)をご参照ください。) 停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の2～3日前に、あらかじめ発電ユニットを24時間以上停止させてください。

(1) リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、(2)以降の操作は必要ありません。

・ トップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定]を押して日数を確認してください。



(2) 停電予想期間中に次回発電停止予定日がある場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作(59ページ参照)により、あらかじめ発電ユニットを停止させてください。停止完了(発電状況表示部のが交互表示され、約3～5時間後がは消灯します。(発電状況表示については54ページを参照してください。))後、連続で24時間以上停止させてください。その間に全てのガス機器(給湯・床暖房など)を連続で70分以上停止させてください。

(3) 連続24時間以上経過後に発電停止予定の日数が26日後になっていることを確認し、遅くとも停電予想の5時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」(57ページ参照)の操作を実施してください。

■ お知らせ

◆ 停電時自立発電中は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。

◆ 以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。

・ 断水状態(ご家庭への給水が停止している状態)時

※ 断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。

・ 停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合

・ 発電ユニットの蓄熱量が多い場合

◆ 停電した場合、熱源機の電源が入っていない状態であっても給湯栓を開けた際に、約20～30℃の温水が出る場合があります。

◆ 外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合は、停電時自立発電を停止する場合があります。

※ 停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。

停電時に電気を使う（停電時自立発電機能付きのみ）

主な電気製品の消費電力

「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照願います。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話（充電時）	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒータ	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ（42型）※1	85	冷蔵庫 ※2	200
熱源機の暖房運転	180	熱源機の凍結防止運転	250
熱源機の給湯運転	100		

※1 テレビをご覧になる場合は、電波の受信に関する機器への電力の供給が必要です。

消費電力の目安には、それら機器の消費電力は含まれていません。

※2 機種によっては使用できないことがあります。

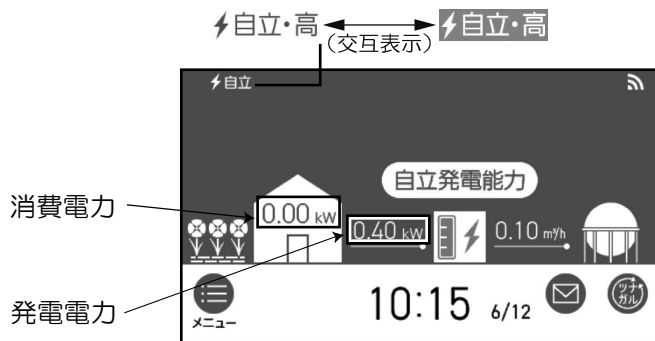
停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電発生時の対応

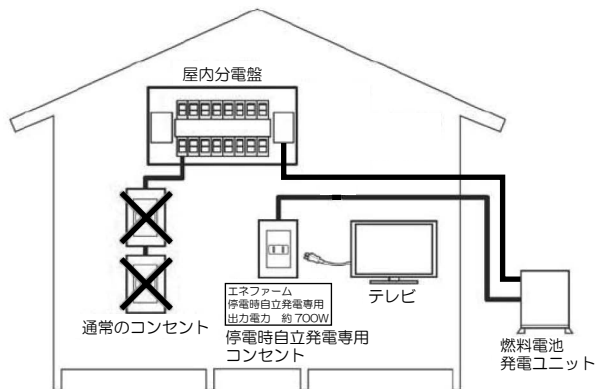
※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

① [自立]の文字部が反転点滅表示され、発電電力が表示されていることを確認する。

- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（63ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約10分間）

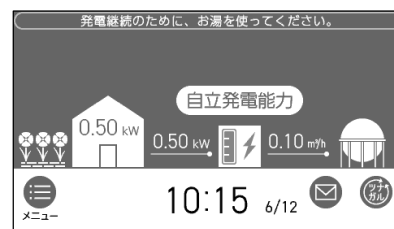


② 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



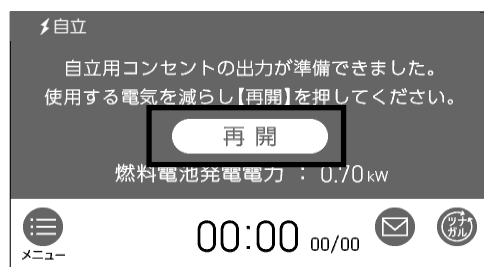
- 停電時は停電時自立発電専用コンセントしか使うことができません。
- リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約90秒～10分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- 過負荷2回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

※ 停電時自立発電中に、リモコンに[発電継続のために、お湯を使ってください。]のメッセージが表示された場合は、停電時自立発電を継続させるために、貯湯タンクがお湯でいっぱいにならないよう、給湯栓を開けてお湯を使用してください。



過負荷2回目以降の復帰操作

① 下記画面が表示されたら[再開]をタッチします。



停電時に電気を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

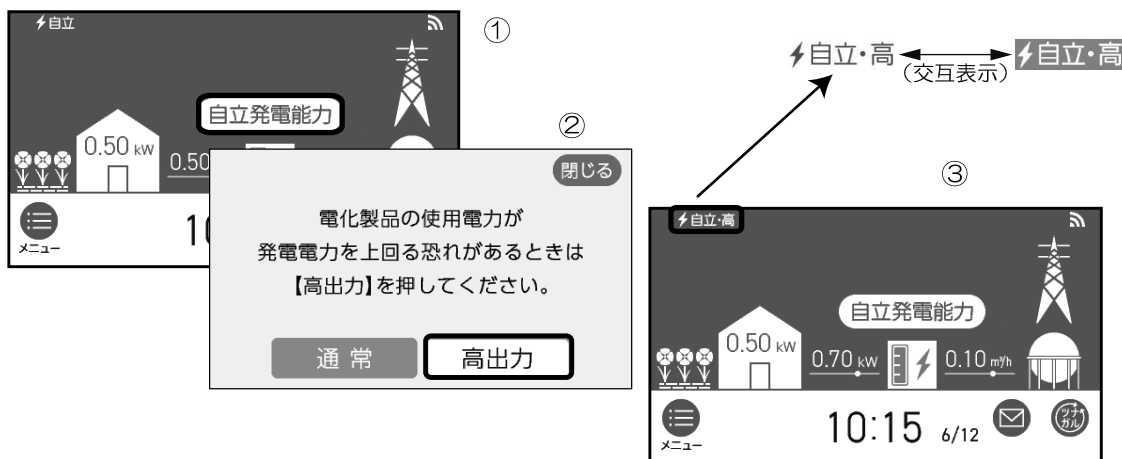
発電出力を上げる場合

■高出力設定にする場合

停電時自立発電中、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電を700Wよりも下げる場合があります。消費電力の大きい(ただし合計しても700Wをこえない)電気製品を使用されるときは下記の手順で高出力設定に切り替えてください。

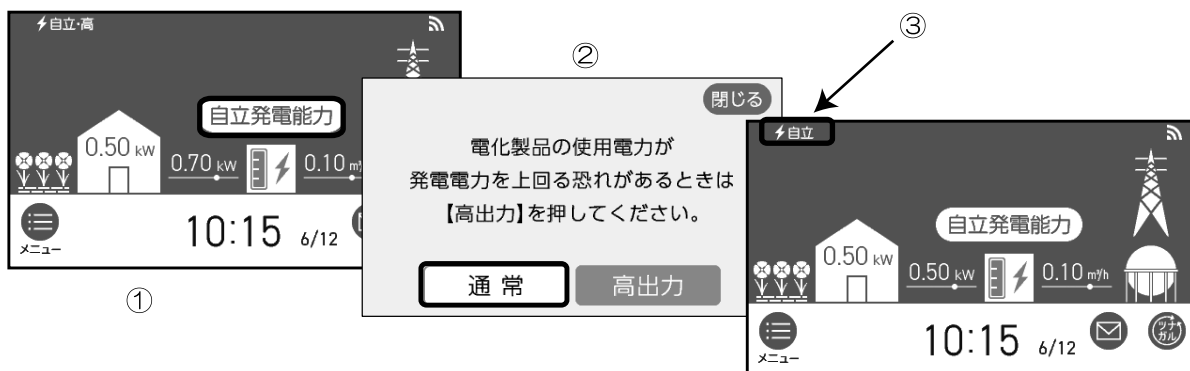
※ 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

- ① トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]をタッチします。
([自立発電能力]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。)
- ② 自立発電能力画面で [高出力] をタッチします。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立・高] に変わります。



■高出力設定を通常に戻す場合

- ① トップ画面より、[自立発電能力]をタッチします。
- ② 自立発電能力画面で [通常] をタッチします。
- ③ トップ画面の左上部の文字が、[自立] に変わります。



※ 消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

停電時にお湯を使う (停電時自立発電機能付きのみ)

停電時に、停電時自立発電専用コンセントからの電力を使用して、熱源機からのお湯を使用することができます。

- ① リモコンのトップ画面で、左上部の文字が[自立]表示の反転点滅表示になっていることを確認します。
- ② リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認します。
発電に余力がない場合は、高出力設定(上記参照)にする、または他の電気製品を止めてください。
- ③ 停電時自立発電専用コンセントに熱源機の電源プラグを差し込みます。

以降は、通常の熱源機使用方法でお使いください。

※ 停電の復旧後は、停電時自立発電専用コンセントに差しある熱源機の電源プラグは、元のコンセントに移動してください。

こんなときは

停電のときは

■ 発電中に停電した場合（停電時自立発電機能付きのお客さまの場合）

停電時自立発電機能により発電を継続します。

発電した電気は停電時自立発電専用コンセントより出力します。（停電してから約90秒後に出力開始します。）（24、37、50、62ページ参照してください。）

● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約5分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

※ 停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

■ 発電中に停電した場合（標準モデルのお客さまの場合）

停電中は、アイドルリング状態になり、復旧待機しています（最長5時間）。ガス、水は閉めないでください。

※ お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に運転が停止する場合があります。

※ アイドリング状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない（OW）状態のことです。

● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約5分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

■ 待機中・起動中・停止中およびアイドルリング中に停電した場合

起動中、停止中、およびアイドルリングが5時間経過後の場合は即時停止し、停電中は起動しません。

● 停電が復旧した場合

（起動中およびアイドルリング中に停止した場合、停止中の場合）

リモコンの日時設定（詳細はリモコンの取扱説明書を参照）をしてください。停電時間が24時間を越えていない場合は、自動的に再起動します（発電禁止による停止中は自動再起動はしません）、停電時間が24時間を越えている場合は、暗証番号を入力（詳細はリモコンの取扱説明書を参照）後再起動します。ただし内部温度が高い場合は冷却（約10～12時間）後の自動再起動となります。

※ 暗証番号とは機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただいた番号です。

断水のときは

■ 発電中に断水した場合

断水状態から復帰するまでお湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに[82F01]等を表示し、運転を停止する場合があります。運転が停止した場合は、エラー発生時の処置方法を参照してください。

長期間使用しないときは

■ 10日以上不在にされる場合（旅行等の場合）

リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。

（手順は21、34、47、59ページ参照）

※ 発電ユニットのブレーカーは「ON」のままにしておいてください。

■ 1か月以上不在にされる場合

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 水抜き後の使用再開時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

■ 1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き（71ページ参照）を実施してください。

※ 水抜き後の使用再開時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

こんなときは

気温が-10℃を下回るときは

■凍結が予想される場合

発電を停止しているときに気温が-10℃を下回ると、凍結防止機能が作動していても凍結が発生する可能性があります。気温が-10℃を下回ることが予想される場合は、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、水抜き手順（71ページ参照）を実施してください。

-10℃を下回ったときの凍結による機器の破損は製品保証の対象外となります。

ガスの供給が途絶えたときは

■発電中にガスが供給されなくなった場合

燃料ガスの供給圧力が低下すると、リモコンに[AOF00]を表示し、発電が停止する場合があります。ガスマイコンメーターの遮断、ガス栓等を確認し、エラー発生時の処置方法を参照してください。

ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは（ヒーター給湯モード）

ヒーター給湯モードを実施すると、発電ユニット内部の電気ヒーターを用いて貯湯タンクの水を昇温し、最高40℃の温水を使用することが出来ます。ただし、水温が低い場合等、環境条件によっては40℃に達しない場合があります。

■ヒーター給湯モードについて

- ヒーター給湯モードで温水の昇温完了するまでの目安時間、温水の温度、使用可能な目安量は下表のとおりです

季節	夏	春、秋	冬
昇温完了までの時間	約8時間	約17時間	約24時間
温水の温度	約40℃	約40℃	約33℃
使用可能な目安量	約80L	約50L	約50L

※設置環境により、上記の値と異なる場合があります。

●ヒーター給湯モードを使用するためには

- ・断水時は昇温は可能ですが温水の使用ができません。断水していないことを確認してください。
- ・ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください（詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います）。
実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。
- ・使用可能な条件が成立していないとヒーター給湯モードを選択するボタンが表示されません。発電が停止しており、発電禁止設定、給湯スイッチがOFF（リモコンの場合は切）でも表示されないときは、貯湯タンクの洗浄（77ページ参照）を実施してください。

●その他ご注意ください

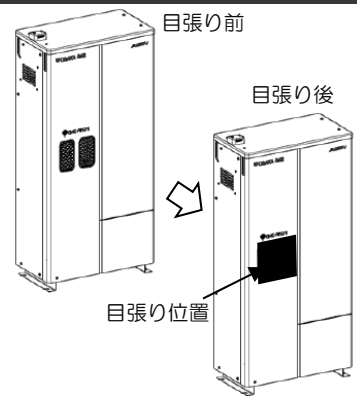
◆リモコンのスイッチを操作したとき

- ・リモコンA、リモコンBの場合
ヒーター給湯モード中にリモコンの「ON/OFF」スイッチをONにするとヒーター給湯モードが解除されます。
- ・リモコンCの場合
ヒーター給湯モード中はリモコンの「入/切」スイッチを受付ません。
- ・発電リモコンの場合
必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
- ・ヒーター給湯モード中に停電が発生した場合、停電復旧後には通常の状態に戻りますので、温水を使用する場合は再度ヒーター給湯モードを実施ください。
- ・昇温完了前は温水の温度が低いことがあります。
- ・昇温完了前に温水を使用すると、昇温完了までの時間が長くなります。
- ・温水を使用開始した後は、可能な限り間隔を空けずにご使用ください。間隔が空くと温水の温度が下がります。
- ・温水を使い切るとヒーター給湯モードは自動解除されます。続けて温水を使いたい場合は再度ヒーター給湯モードを実施してください。
- ・ヒーター給湯モードにて昇温完了後に温水を使用した場合、設置環境によっては温水がなくなっしてから表示が出るまでに10分以上かかる場合があります。
- ・ガスの供給が復帰し、ヒーター給湯モードを解除した直後に温水をご使用される場合、高温の温水が出湯されるおそれがありますのでご注意ください。

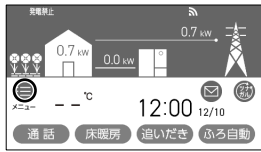


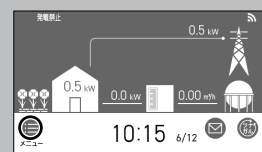
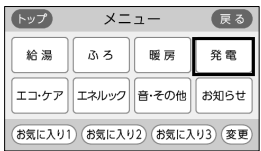

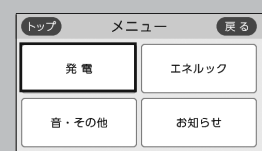

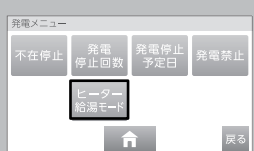
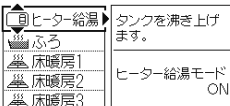
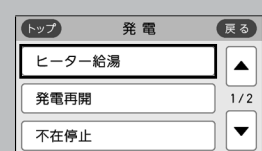
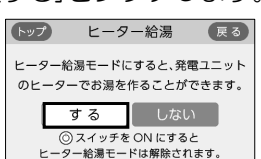
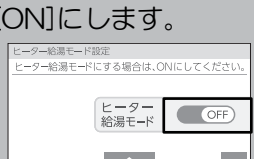
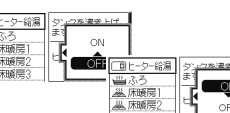
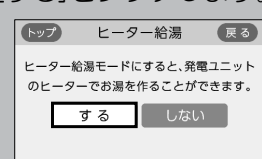
こんなときは

■放熱器排気口の目張り処理

- ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください。実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。
- ガスの供給が復旧し、通常の発電運転に戻る際は目張り（マグネットシート等）を必ずはずしてください。発電出力を抑制したり、発電を停止する場合（リモコンにエラーコード[03F07]、[95F00]を表示することがあります。）があります。
- ご使用開始時にお渡りするマグネットシートにて目張りが可能です。お手元にマグネットシートがない場合は、ご家庭の物で目張りを実施下さい。



<ヒーター給湯モードの操作手順>

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	発電禁止にする（21、33、46、59ページ参照）			
②	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、「(ON/OFF)スイッチ部のLEDランプを消します。」液晶画面部をタッチします。	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、「(ON/OFF)スイッチ部のLEDランプを消します。」液晶画面部をタッチします。	発電禁止表示を確認後リモコンの「入/切」スイッチを「切」にします。「(入/切)スイッチ部のLEDランプを消します。」	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。 ※必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
③	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	「メニュー」ボタンを押します。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 
④	[発電]をタッチします。 	[発電]をタッチします。 	/	[発電]をタッチします。 
⑤	[ヒーター給湯]をタッチします。  [ヒーター給湯]が表示されない場合※1	[ヒーター給湯モード]をタッチします。  [ヒーター給湯モード]が表示されない場合※1	▲または▼で[ヒーター給湯]を選択し▶または「決定」を押します。  [ヒーター給湯]が表示されない場合※1	[ヒーター給湯]をタッチします。  [ヒーター給湯]が表示されない場合※1
⑥	放熱器排気口の目張りを実施してください（詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います）。			
⑦	[する]をタッチします。  ヒーター給湯モードにすると、発電ユニットのヒーターでお湯を作ることができます。 ◎スイッチをONにするとヒーター給湯モードは解除されます。	[OFF]をタッチし、[ON]にします。  ヒーター給湯モードにする場合は、ONにしてください。	▲を押し、「ON」を選択し「決定」を押します。  タンクを沸き上げます。 ヒーター給湯モード ON	[する]をタッチします。  ヒーター給湯モードにすると、発電ユニットのヒーターでお湯を作ることができます。

※1使用可能な条件が成立していないとヒーター給湯モードを選択するボタンが表示されません。
発電が停止しており、発電禁止設定、給湯スイッチがOFF（リモコンCの場合は切）でも表示されないときは、貯湯タンクの洗浄（77ページ参照）を実施してください。

こんなときは

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
⑧	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[OK]をタッチします。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[はい]をタッチします。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後「決定」を押します。</p>	<p>放熱器排気口が目張りされていることを確認後[OK]をタッチします。</p>
⑨	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>	<p>沸きあげ中</p> <p>タンク 沸き上げ中</p> <p>交互表示</p> <p>沸きあげ完了</p> <p>タンク 保温中</p>	<p>ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。</p>

- ・温水の使用時は、手で温度を確認してから使用してください。
- ・温水を使用開始した後は間隔をあげずにご使用ください。

■ご使用中に以下の画面になった場合

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>取扱説明書確認</p> <p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>お湯が無くなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>	<p>お湯がなくなりました。発電ユニットの取扱説明書に従ってご対応ください。</p>

温水がなくなりました。続けて温水をご使用になる場合は、「ヒーター給湯モードの操作手順」の手順③から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>	<p>取扱説明書確認</p> <p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>	<p>ヒーター給湯モード中のため運転「入」および発電禁止の解除は実施できません。</p>	<p>必ず発電ユニット取扱説明書のヒーター給湯モードの章に従ってご対応ください。</p>

以下の操作をするとこの画面になります。

- ・リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」にした（発電リモコンを除く）
- ・メニュー画面より発電禁止を解除した

リモコンA、リモコンB、発電リモコンの場合

ヒーター給湯モードを再開したい場合は、[OK]または[はい]をタッチ後「ヒーター給湯モードの操作手順」を手順①から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

リモコンCの場合

「ヒーター給湯モードを解除する手順」を実施願います。

リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モード継続不可</p> <p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>	<p>ヒーター給湯モードの継続ができなくなりました。故障内容を確認してください。</p>

以下の場合、この画面を表示しヒーター給湯モードが自動的に解除されます。

- ・故障が発生した場合（詳細は、「エラーコード表」（85ページ）を参照願います）
- ・故障対応中の場合
- ・タンクリフレッシュが入った場合

- ・断水時にタンク排水バルブから、貯湯タンクの水を雑用水として使用した場合

リモコン表示に従い[OK]、[はい]、「決定」をタッチ後、表示されているエラーの処置を行ってください（詳細は、「エラー発生時の処置方法について」（83ページ）を参照願います）。

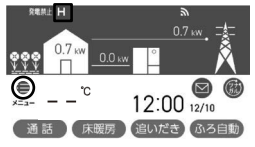


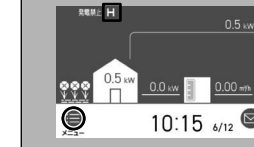



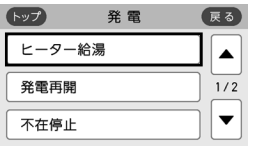

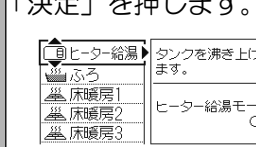
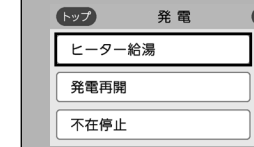
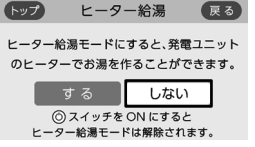
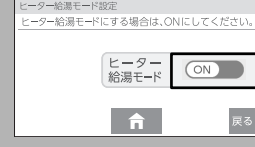
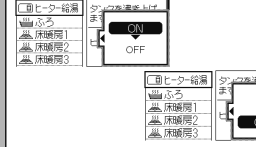
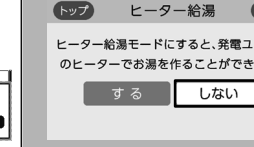
こんなときは

■ヒーター給湯モードを終了する

●ヒーター給湯モードを解除する手順

ヒーター給湯モードの表示中にヒーター給湯モードを解除したい場合は、下記手順を実施してください。

※ ヒーター給湯モードの表示がされていないときでも、①は必ず実施願います。

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	放熱器排気口の目張り（マグネットシート等）を取り外してください。発電出力を抑制したり、発電を停止したりする場合（リモコンにエラーコード[03F07]、[95F00]を表示することがあります。）があります。目張りの取り外しを行わなかったことが原因による対応は、有償となります。			
②	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 	「メニュー」ボタンを押します。 	トップ画面から[メニュー]をタッチします。 
③	[発電]をタッチします。 	[発電]をタッチします。 	/	[発電]をタッチします。 
④	[ヒーター給湯]をタッチします。 	[ヒーター給湯モード]をタッチします。 	▲または▼で[ヒーター給湯]を選択し▶または「決定」を押します。 	[ヒーター給湯]をタッチします。 
⑤	[しない]をタッチします。 	[ON]をタッチし、[OFF]にします。 	▼を押し、「OFF」を選択し「決定」を押します。 	[しない]をタッチします。 
⑥	トップ画面に戻り、ヒーター給湯モードマークが消灯していることを確認してください。			

■ヒーター給湯モード終了後、発電運転を再開する

	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	放熱器排気口の目張りが取り外されていることを確認します。 ※発電出力を抑制したり、発電を停止する場合があります。目張りの取り外しを行わなかった場合の故障修理は、有償となります。			
②	メニュー画面より発電禁止を解除します（19、31、44、57ページ参照）。			

こんなときは

工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは

■停電が事前に分かっている場合（停電時自立発電機能付きのお客さまの場合）

- 事前準備
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、「発電停止予定日」を確認し、変更する必要がある場合は、「■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます」（22、35、48、60ページ参照）を行ってください。
- 停電復旧後
必要な操作は特にありません。

■停電が事前に分かっている場合（標準モデルのお客さまの場合）

- 事前準備
停電する半日以上前に「発電禁止」操作（21、33、46、59ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
- 停電復旧後
「■発電禁止を解除し発電をする」操作（19、31、44、57ページ参照）を行ってください。

■断水が事前に分かっている場合

- 事前準備
事前準備は特にありません。
※断水中にお湯を使用すると、ごく稀に発電が停止する場合がありますため、お湯は使用しないでください。
- 水道復旧後
給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除（下記「■断水した場合の再使用のときは」を参照）してください。

■ガス停止が事前に分かっている場合

- 事前準備
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作（21、33、46、59ページ参照）により、発電ユニットを停止してください。
- ガス復旧後
「■発電禁止を解除し発電をする」（19、31、44、57ページ参照）を行ってください。

災害時等緊急停止のときは

■ガス栓を閉にし、屋内分電盤の専用ブレーカをOFFにする

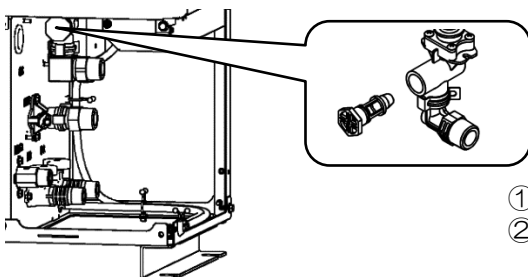
再使用時は、「ご使用前の確認」（14ページ参照）を行ってください。

■凍結のおそれがある場合（気温が氷点下になる可能性がある場合）は水抜きをする

「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、水抜き手順⑦～⑫（73ページ参照）を実施してください。
※安全のため、この手順の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）をお読みください。電源供給がないため、貯湯タンク内のお湯の冷却ができません。やけどする場合がありますので排出されるお湯に触れないようにしてください。

■断水した場合の再使用のときは

給水栓（レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて）を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除してください。



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。

- ① 給水口バルブを閉じます。
- ② 給水接続口のストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて取り外します。
- ③ ストレーナの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付けます。
- ④ 給水口バルブを開けます。

水抜きしたいときは

発電ユニットの水を抜く

水抜きをするときは、発電が停止している必要があります。

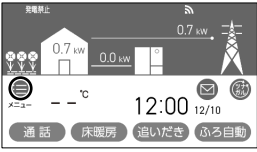



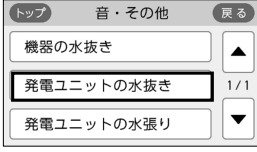

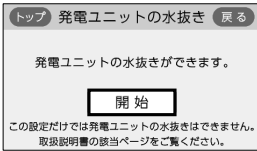
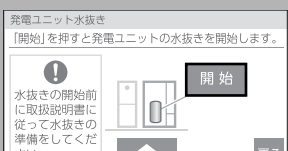
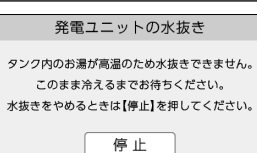
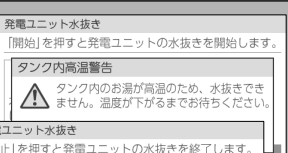
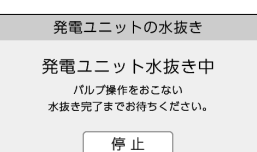

前日までに、発電ユニットを「発電禁止」による停止操作（21、33、46、59ページ参照）で停止させて、水抜きをしてください。

■ 水抜き手順 お持ちの台所リモコンの水抜き手順を参照してください

※安全のため、水抜き操作の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照ください。

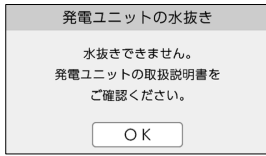
※やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑩）を行ってください。

※使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

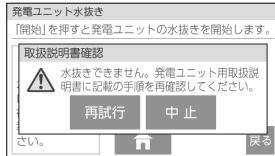
手順	リモコンA	リモコンB
①	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。
②	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 
③	メニュー画面より[音・その他]をタッチします。 	メニュー画面より[メンテナンス]をタッチします。 
④	音・その他画面より[発電ユニットの水抜き]をタッチします。 	メンテナンス画面より[発電ユニット水抜き]をタッチします。 
⑤	[開始]をタッチします。 	[開始]をタッチします。 
—	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。 タンク内水温が下がると⑥に移行します。 	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。 タンク内水温が下がると⑥に移行します。 
	※[停止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]をタッチしないでください。	※[中止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[中止]をタッチしないでください。
⑥	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 

※ 水抜き手順で下記画面が表示される場合は、発電ユニットが停止状態ではありません。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。

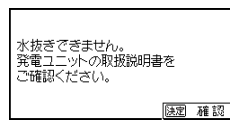
リモコンA



リモコンB

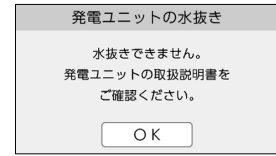


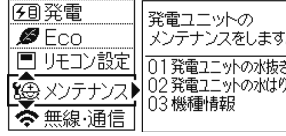
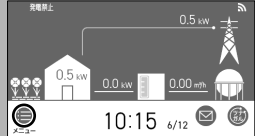
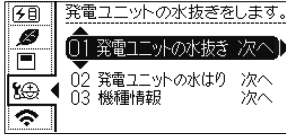
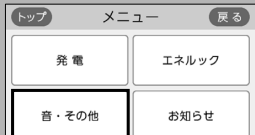
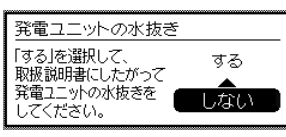
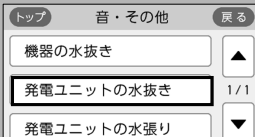
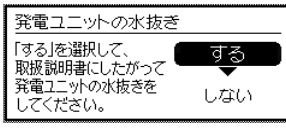
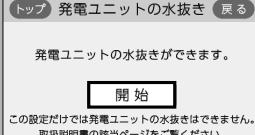
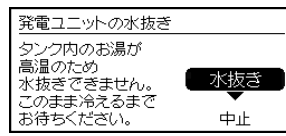
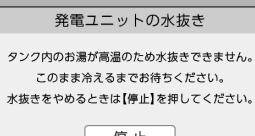
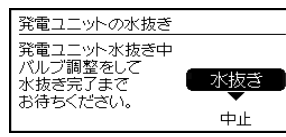
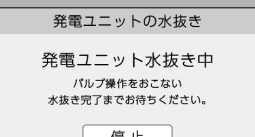
リモコンC



2秒程度表示しトップ画面に移動します

発電リモコン



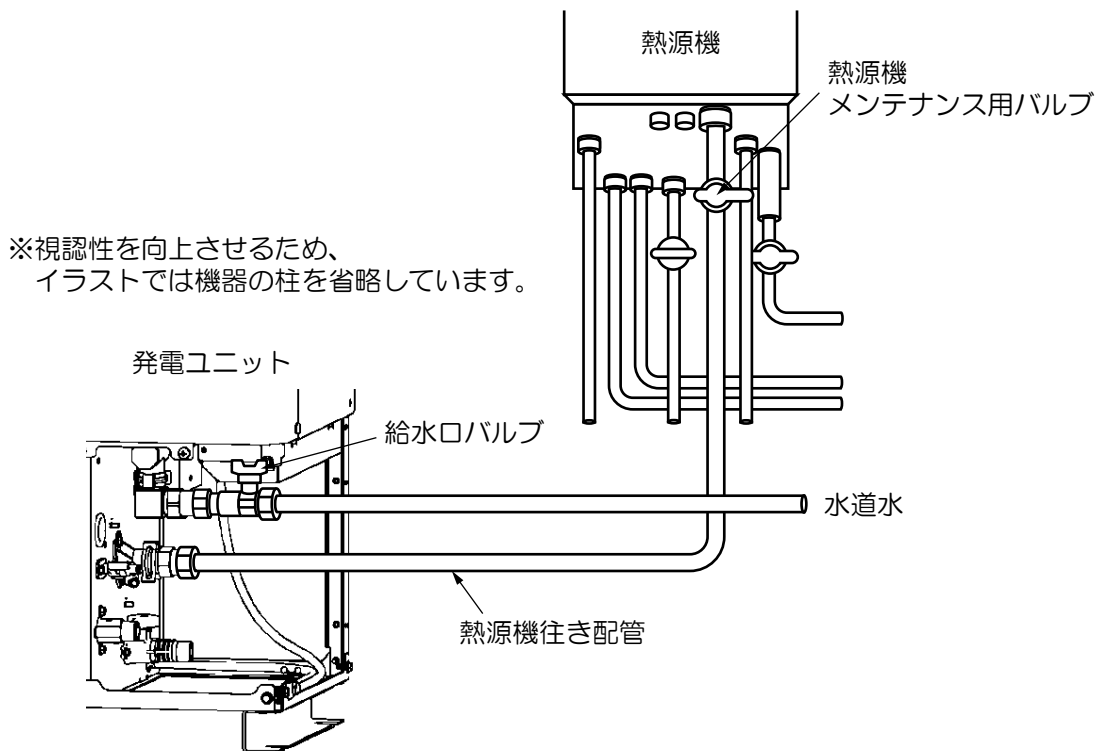
手順	リモコンC	発電リモコン
①	リモコンの「運転入/切」スイッチを「切」にし、（「運転入/切」スイッチ部のLEDランプを消す。）「メニュー」ボタンを押します。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。
②	▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押します。 	トップ画面より[メニュー]をタッチします。 
③	▲または▼で[発電ユニットの水抜き]を選択しまたは「決定」を押します。 	メニュー画面より[音・その他]をタッチします。 
④	▲を押します。 	音・その他画面より[発電ユニットの水抜き]をタッチします。 
⑤	「決定」を押します。 	[開始]をタッチします。 
—	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。  ※ [中止]を選択し「決定」を押すと③に移行します。停止させない場合は、[決定]ボタンを押さないでください。	タンク内温度が低い場合でも約10分間は冷却します。タンク内水温が下がると⑥に移行します。  ※ [停止]をタッチすると⑤に移行します。停止させない場合は、[停止]をタッチしないでください。
⑥	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 	タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。 

こんなときは

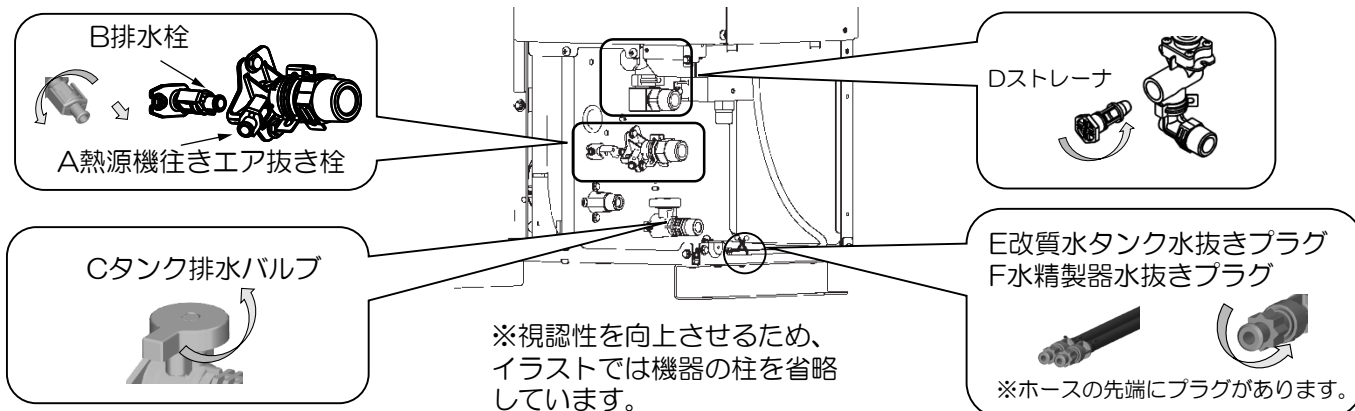
水抜きしたいときは

⑦下記バルブの操作をしてください。

- 給水口バルブを閉じます。
- 熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。



- Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- E改質水タンク水抜きプラグとF水精製器水抜きプラグを反時計回りに1回転させ、改質水を抜きます。(全て排水されるまで、約30分かかります。)



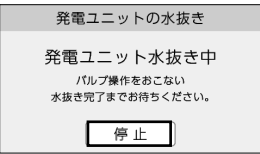
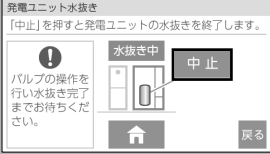
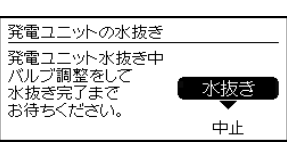
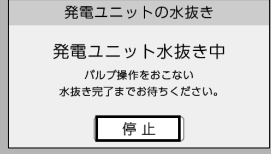
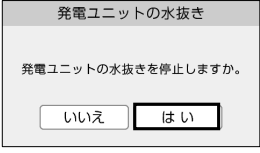

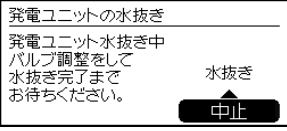
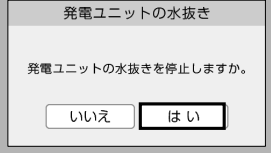
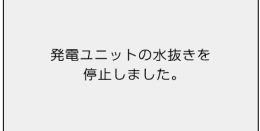
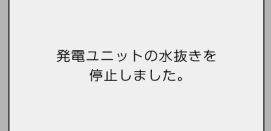
⑧Jモコンの画面がトップ画面に移行したら、A熱源機行きエア抜き栓、B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。

※ 60分経過してもトップ画面に移行しない場合は、⑥の[停止],[中止],[決定]のいずれか(71、72ページ参照)をタッチして水抜きを停止し、C,E,Fのバルブまたは栓、プラグが開いていることを確認後、再度①より実施してください。

- ⑨給水接続口のストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて外し、外した箇所から水が出なくなったら、Dストレーナをもとどおりに組み付けます。
- ⑩タンクの排水配管およびA熱源機行きエア抜き栓、E、Fの水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、E、Fの水抜きプラグを時計回りに回して締めてください。
- ⑪A熱源機行きエア抜き栓を閉め、B排水栓、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑫発電ユニットと熱源機のカス栓を閉じ、屋内分電盤の専用ブレーカを「OFF」にします。
- ⑬14ページの「フロントR小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

水抜きしたいときは

■ 水抜きを途中で停止する方法

手順	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	<p>[停止]をタッチします。</p> 	<p>[中止]をタッチします。</p> 	<p>▼で[中止]を選択します。</p> 	<p>[停止]をタッチします。</p> 
②	<p>[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると①の画面に戻ります。</p> 	<p>トップ画面に移行します。</p> 	<p>「決定」を押します。</p> 	<p>[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると①の画面に戻ります。</p> 
③	<p>下記のリモコン表示を確認します。</p> 		<p>トップ画面に移行します。</p>	<p>下記のリモコン表示を確認します。</p> 

水抜きしたいときは

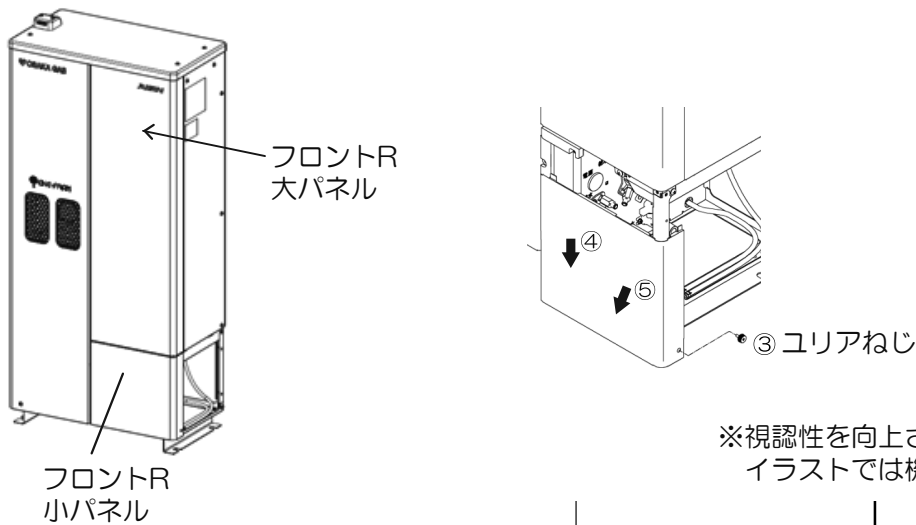
災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す

断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯（水）を取り出して雑用水として利用できます。
※取り出した場合、発電できなくなります。復旧後に発電運転するためには水張りが必要です（79～80ページ参照）。

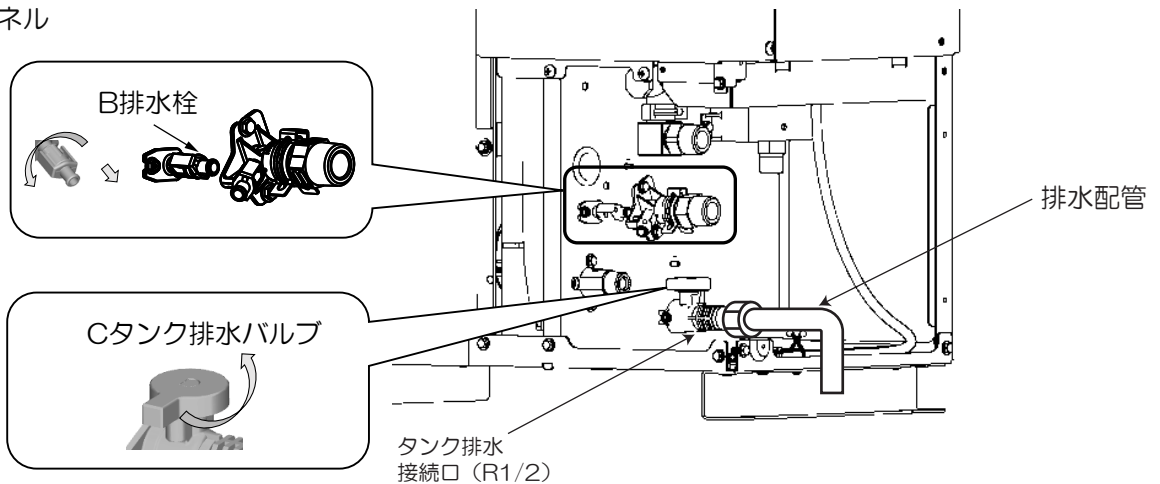
※ 安全のため、この手順の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）をお読みください。
やけどする場合がありますので排出されるお湯に触れないようにしてください。

■ 取り出し手順

- ① リモコンの発電状況表示、発電モードマーク（16、28、41、54ページ参照）の表示が消えて、発電ユニットが停止していることを確認してください。停止していない場合は、「発電禁止」による停止操作（21ページ、33ページ、46ページ、59ページ参照）で停止させてください。
- ② 分電盤の専用ブレーカーと防水コンセントに接続された屋内分電盤のブレーカを遮断します。
- ③ フロントR小パネル右側面下のユリアねじを外します。
- ④ フロントR小パネルを下に数mmスライドさせます。
- ⑤ フロントR小パネルの下端を手前に寄せながら下方方向にスライドさせて取り外します。



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。



- ⑥ Cタンク排水バルブの先よりお湯（水）を受けられるようにしてください。
- ⑦ 給水口バルブと熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。（73ページ参照）
- ⑧ Cタンク排水バルブをゆっくり開けます。
- ⑨ B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。
取り出したお湯（水）は、雑用水として使用してください。
取水が終わったら、B排水栓、Cタンク排水バルブを閉じます。
- ⑩ 「フロントR小パネルの取り付け方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けてください。

■ 再起動するときは

- ・「■水張り手順」（79ページ参照）を実施してください。
- ・停電した場合は、日時がリセットされている場合がありますので、日時の設定を行ってください。
24時間以上停電した場合は、暗証番号の入力を行ってください。
手順はリモコンの取扱説明書を参照してください。

お手入れと周囲の確認

お手入れ

※ 機器のお手入れには、手袋を着用してください。

■ 機器の外観（パネルおよび放熱器吸気口のフィルタ）が汚れている場合、水に濡らした柔らかい布をかたく絞って、軽く拭きとってください

- 機器を高水圧での水洗いはしないでください。
- 外観のお手入れに、ガソリン・シンナー・ベンジン・みがき粉・スプレーなどを使わないでください。
- お手入れの際、パネルおよび放熱器吸気口のフィルタを外さないでください。

■ 1年に1回程度、発電ユニット内の貯湯タンクの洗浄をしてください

手順	操作内容	リモコンA	リモコンB	リモコンC	発電リモコン
①	発電ユニットを停止させる。 （「発電禁止」を参照）	21ページ	33ページ	46ページ	59ページ
②	発電停止完了後、水抜きをする。 （「水抜き手順」を参照）	77、78ページ			
③	水抜き終了後、水張りをする。 （「水張り手順」を参照）	79、80ページ			
④	発電ユニットを起動する。 （「発電禁止から発電をする」を参照）	19ページ	31ページ	44ページ	57ページ

※ 上記②の開始から③の終了までは熱源機は使用できなくなります。

周囲の確認

■ 発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことの確認を月に1回程度行ってください

- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認してください。
- 機器の排気口、吸気口・換気出口が塞がれていないことを確認してください。
- 据付金具が緩んでいないことを確認してください。

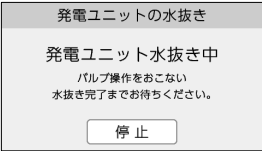
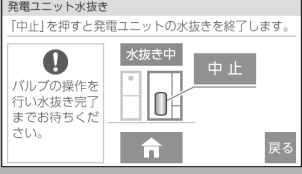
貯湯タンクの洗浄をする

※この操作開始後水張り完了までは、熱源機を使用することはできません。

■ 水抜き手順

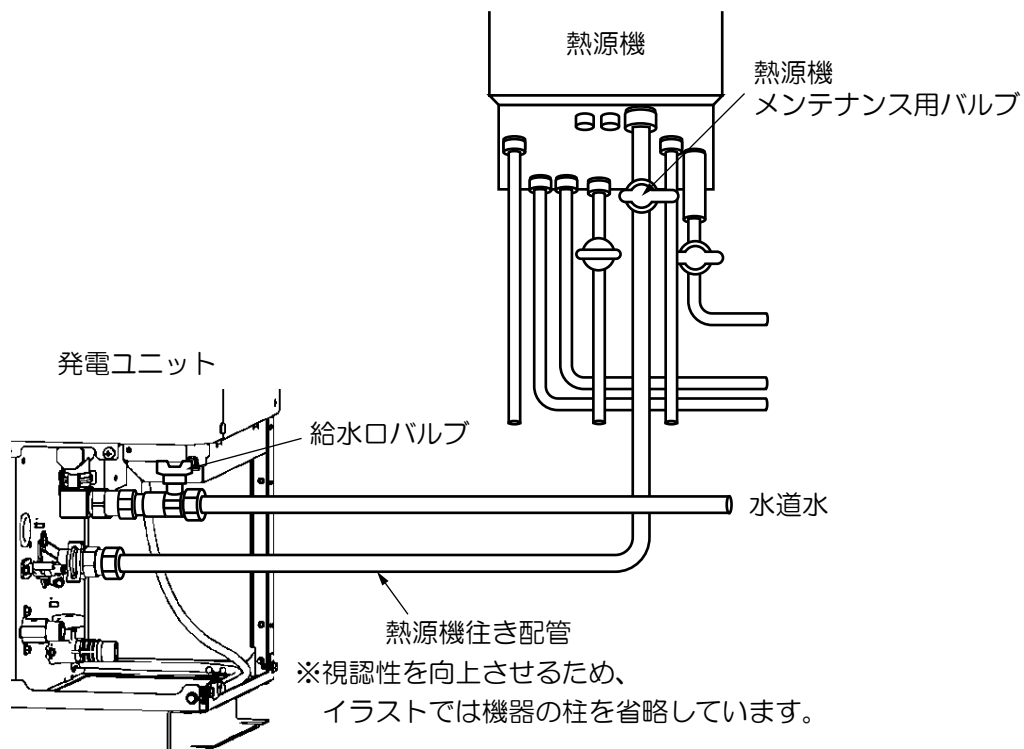
※安全の為、水抜き操作の前に「安全のため必ず守ってください」（4～10ページ）を参照ください。
 ※ やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順①～⑥）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順⑦～⑪）を行ってください。

手順①～⑤は、71ページ参照してください。

手順	リモコンA	リモコンB
⑥	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> 	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> 

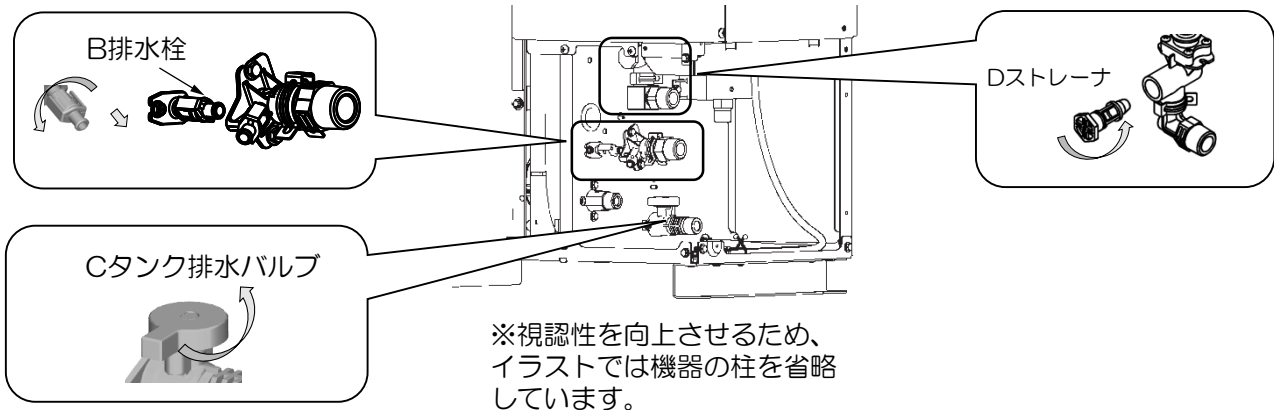
共通

- ⑦ 下記バルブの操作をしてください。
- ・給水口バルブを閉じます。
 - ・熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。



手順	リモコンC	発電リモコン
⑥	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> <div data-bbox="523 510 815 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発電ユニットの水抜き 発電ユニット水抜き中 バルブ調整をして 水抜き完了まで お待ちください。</p> <p style="text-align: center;">水抜き</p> <p style="text-align: center;">中止</p> </div>	<p>タンク内水温が下がりましたので、「フロントR小パネルの取り外し方法」(14ページ)を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、⑦のバルブ操作をします。</p> <div data-bbox="1145 510 1412 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発電ユニットの水抜き 発電ユニット水抜き中 バルブ操作をおこない 水抜き完了までお待ちください。</p> <p style="text-align: center;">停止</p> </div>

• Cタンク排水バルブをゆっくりと開けます。



⑧リモコンの画面がトップ画面に移行したら、B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開けます。

※ 60分経過してもトップ画面に移行しない場合は、⑥の[停止],[中止],[決定]のいずれか(上表参照)をタッチして水抜きを停止し、Cのバルブまたは栓が開いていることを確認後、再度①より実施してください。



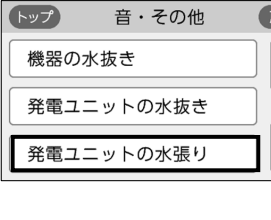
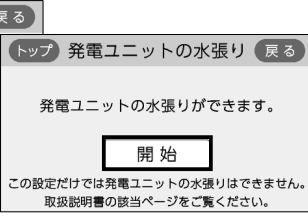
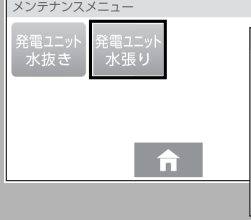
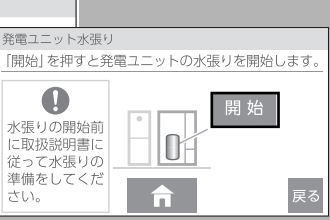
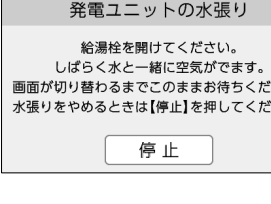
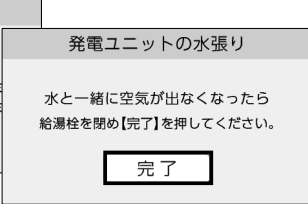
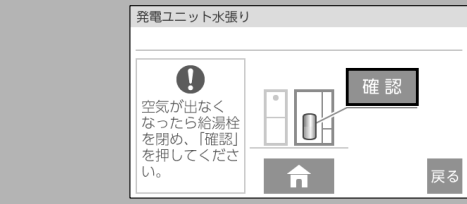
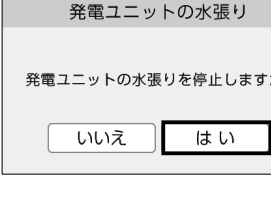
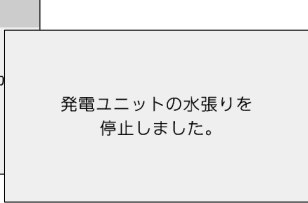
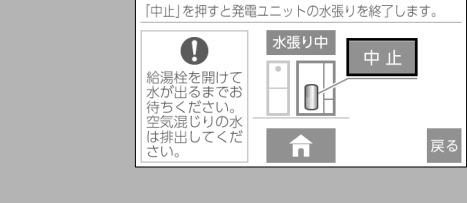
⑨給水接続口のDストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて取り外します。

⑩Dストレーナの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付けます。

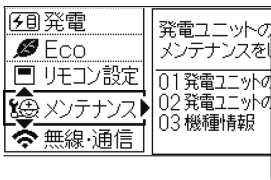

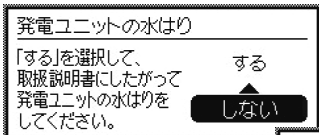
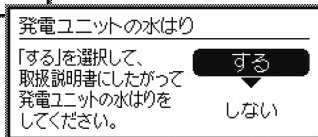
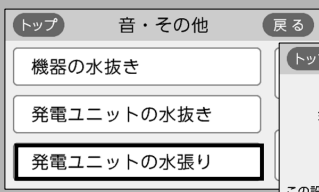
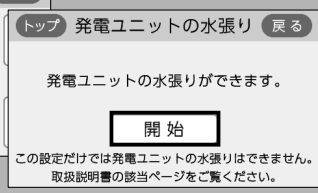
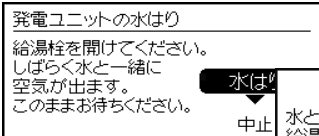
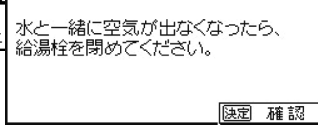
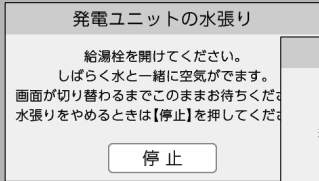
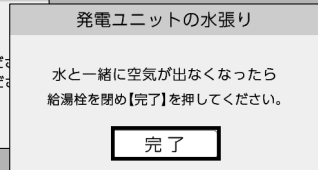
⑪タンク排水配管より湯(水)が出なくなったら、B排水栓を閉め、Cタンク排水バルブを閉じます。

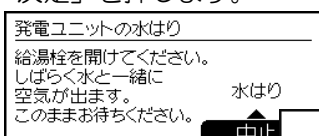
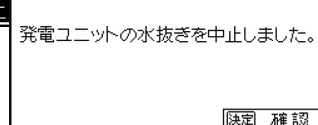
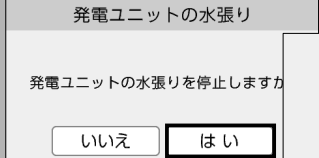
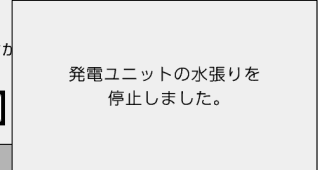
貯湯タンクの洗浄をする

■ 水張り手順

手順	リモコンA	リモコンB
①	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチ部のLEDランプを消す。）液晶画面部をタッチします。
②	トップ画面より[メニュー]→[音・その他]をタッチします。 	トップ画面より[メニュー]→[メンテナンス]をタッチします。 
③	音・その他画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。  	メンテナンス画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。  
④	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開けます。（73ページ参照）	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開けます。（73ページ参照）
⑤	屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。  	屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[確認]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。 
⑥	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。
途中で停止する場合	屋内の給湯栓を閉めてから、⑤画面の[停止]をタッチし、下画面の[はい]をタッチします。 ※[いいえ]をタッチすると前の画面に戻ります。  	屋内の給湯栓を閉めてから、[中止]をタッチします。 

※水張りを途中で停止した場合は、再度手順①から実施してください。

手順	リモコンC	発電リモコン
①	リモコンの「運転入/切」スイッチを「切」にし、（「運転入/切」スイッチ部のLEDランプを消す。）「メニュー」ボタンを押します。	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチします。
②	<p>▲または▼で[メンテナンス]を選択し▶または「決定」を押し、その後▲または▼で[発電ユニットの水はり]を選択し▶または「決定」を押しします。</p> 	<p>トップ画面より[メニュー]→[音・その他]をタッチします。</p> 
③	<p>▲を押して「決定」を押しします。</p>  	<p>音・その他画面より[発電ユニットの水張り]→[開始]をタッチします。</p>  
④	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開ける。（73ページ参照）	
⑤	<p>屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、「決定」を押しします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。</p>  	<p>熱源機の給湯スイッチを「OFF」にし、屋内の給湯栓を開けます。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了]をタッチします。 ※給湯栓・・・屋内の給湯蛇口です。</p>  
⑥	「フロントR小パネルの取り外し方法」（14ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付けます。	

途中で停止する場合	<p>屋内の給湯栓を閉めてから、▼で[中止]を選択し「決定」を押しします。</p>  	<p>屋内の給湯栓を閉めてから、⑤画面の[停止]をタッチし、下画面で[はい]をタッチします。 ※[いいえ]ボタンを押すと前の画面に戻ります。</p>  
-----------	---	---

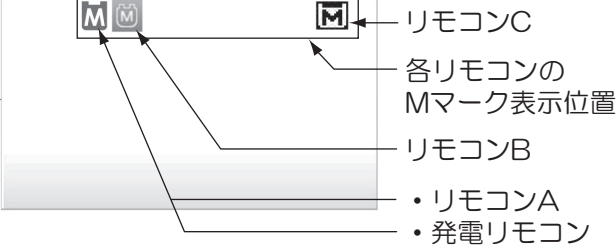
故障・異常かな？と思ったら

次の場合は、故障ではありません。

症状	原因
排気口から湯気が出ている。基礎が濡れている。	排気ガス中の水蒸気が凝縮し湯気が立つことがあります。排気口付近に結露が発生することがあります。結露の状況によっては機外へ排水し、基礎が濡れることがあります。
排気キャップの排気口周囲に白い付着物がつく。	排気口付近の結露水に含まれる成分が付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
放熱器吸気口のフィルタに白い付着物がつく。	背面パネルに含まれる成分が放熱器吸気口のフィルタに付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
お湯を使っていないのに運転している。お湯を使っているのに運転しない。	発電ユニットの発電・停止は、お湯を使う時間帯と必ずしも一致しません。
停止後も運転音がある。	機器を保護するために、停止後約3～5時間程度は運転しています。
排水配管から水がポタポタ出る。	排気ガス中の水蒸気が凝縮して水となり、排出されます。
発電出力が上昇するのに時間を要する。	モジュール内部の温度が急上昇しないようゆっくりと出力を上昇させています。
発電ユニットから臭いがする。	運転開始時に臭いがすることがありますが、異常ではありません。
起動時に数分程度音が大きくなる。	点火時に発生する燃焼音です。
自立運転時に音が大きい。	運転継続のための冷却運転により放熱器の音が大きくなる場合があります。

故障・異常かな？と思ったらときは、まずリモコンの表示をご確認ください。

※ 熱源機およびリモコンの取扱説明書も合わせてご確認ください。

症状	原因	処置方法
発電表示が消え、発電停止時にMマークを表示して停止している。	ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するための一時的な停止 (※詳細は、「■ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」 リモコンA (17ページ)、 リモコンB (29ページ)、 リモコンC (42ページ)、 発電リモコン (55ページ)) をご参照してください。	Mマークの表示開始から約7～9時間経過後に自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに[01900]を表示し停止を継続する場合があります。その場合は83ページを参照し、処理を行ってください。 Mマーク、発電表示は、リモコン画面上部に表示されます。詳細は各リモコン説明部(リモコンA (15ページ)、リモコンB (27ページ)、リモコンC (40ページ)、発電リモコン (53ページ))を参照してください。 
リモコンに何も表示されない。	熱源機に接続されたブレーカがOFFになっている。もしくは、熱源機の電源プラグが抜けている。	熱源機に接続された専用ブレーカをONにしてください。もしくは、熱源機の電源プラグをさしてください。 ※ リモコンが表示したら、リモコンの時計合わせを行ってください。
	停電時に発電ユニットが停止している。	停電時、発電ユニットがエラーで発電を継続できなくなった可能性があります。 停電が復旧した後、リモコンにエラーが表示された場合は、83、84ページに記載の処置方法に従って処置を行ってください。

故障・異常かな？と思ったら

症状	原因	処置方法
リモコンに何も表示されない。 (停電時自立発電機能付き)	停電時に停電時自立発電専用コンセントに接続している電気製品の消費電力が発電量を超過している。	接続した電気製品をすみやかに取り外してください。
[01900]を表示して停止している。	発電ユニット停止中に熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった。	処置方法は、83ページを参照してください。
発電エラーと[* *F * *]が交互に表示されている。	エラーが発生している。	停止完了までお待ちください。リモコン画面左上にある、発電マークと状態表示([停止中])が消えたら停止完了です。83、84ページを参照し、エラーの処置を行ってください。
発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示がされている。	故障診断のための一時的な停止。	しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電中にリモコン画面左上の[発電中]表示が[電圧抑制]と表示される。	商用電源の電圧が設定値(電力会社による指定値)を超えないように、発電ユニットが電圧を自動検出し、発電量を自動で抑制します。	商用電源の電圧が正常に戻れば[電圧抑制]の表示は消え[発電中]に戻ります。頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または電力会社にご相談ください。
発電が停止しリモコン画面左上の[発電中]の表示欄に[0]が表示される。	お客様の電力の使用量が少ない状態が継続し、十分な省エネ効果が得られないため発電を一定期間停止しています。	お客様の電気使用量が増加すれば自動的に再発電します。電気使用量が増加しなければ長期間発電を停止する場合があります。停止中に起動する場合は【メニュー】→【発電メニュー】から【発電再開】を選択し【開始】または【はい】、【する】を実行ください。
発電出力がご家庭の使用電力を大幅に下回り、リモコン画面左上に[出力抑制]と表示されている。	下記の場合は、運転を継続させるために発電出力を抑制します。 ・外気温が高いとき ・熱が滞留するような設置環境	1日のうち数時間以上が出力抑制となる可能性がありますので、しばらくお待ちください。 24時間経過しても発電出力に一切変化がない場合は販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電ユニットの起動時に数分程度音が大きくなる。	点火時に発生する燃焼音です。	音が継続して止まらない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
リモコン設定よりも熱いお湯が出る。 お湯を出しても温度が上がらない。 お湯を出しても、熱くなったりぬるくなったりして、お湯の温度が安定しない。	この商品は、熱源機のガス消費量を抑えるために、熱源機に供給する水の温度を発電ユニットの排熱により予熱しています。このため、少ない流量でお湯をお使いの場合、設定温度よりも高めのお湯が出る場合があります。さらにお湯の流量を絞りすぎると、燃焼を停止する場合があります。	お湯の量を増やしてご使用ください。 ※ 混合水栓でお湯と水とを混ぜてお使いの場合は、水栓から流れるお湯の量よりも熱源機を流れるお湯の量が少なくなります。混合水栓のレバーをお湯側にしてお使いください。
後付構成で、熱源機が「給湯切」なのに お湯が出てくる。	熱源機が「給湯切」でも、発電ユニットの貯湯タンクの湯がなくなるまで、最高で30℃の水が供給されます。	故障ではありません。 水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。

エラー発生時の処置方法

お願い

- お客さま自身で部品の点検・調整はしないでください。
- 機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

■ エラー発生時の処置方法について

- リモコンにエラーコード5桁を表示します。
エラーコードの表示が3桁の場合は熱源機側の不具合です。熱源機の取扱説明書を参照してください。
- リモコンに次ページのエラーコードが表示された場合、処置方法に従い処置を行ってください。
- 83、84ページ以外のエラーコードについては、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

■ エラーリセット（異常解除）の方法

- リモコンA、リモコンB、発電リモコンの場合
「ON/OFF」スイッチを一度「OFF」にしてから、再度押して「ON」にします。
- リモコンCの場合
「入/切」スイッチを一度「切」にしてから、再度押して「入」にします。

(リモコンA (15ページ)、リモコンB (27ページ)、リモコンC (40ページ)、発電リモコン (53ページ) 参照)

※ エラー発報時は停止工程に約10～12時間かかります。
エラーをリセットしても、停止工程が終了するまで再起動しません。

表示	故障内容	原因	処置方法
01900	ガスマイコンメーター内管漏えい警報防止（後付構成では発生しないエラーです。）	機器の異常ではありません。発電ユニットが「ガスマイコンメーター確認マーク」を表示して停止中に、熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった場合に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • 全てのガス機器（暖房を含む）を連続で70分間以上停止してください。^{*1}ただし、機器が凍結予防動作などを行った場合、この表示が消えないことがあります。その場合はさらに連続で70分間以上ガス機器を停止してください。作業を実施しても表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。 • 床暖房の長時間使用により頻繁に[01900]が表示される場合は、給湯や浴室暖房乾燥機などガス機器を使用しない時間帯に、床暖房リモコン等のタイマー設定により床暖房を70分以上停止する時間帯を設定ください。
01F00	• 通常停止回数警告	起動停止の回数が多すぎます。	このまま使用を継続されますと、故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外となる場合がありますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
01F01	• シャットダウン回数警告		
03F00	• ホットモジュール起動許可条件成立待ち	発電ユニットが高温であるため起動できません。	冷却されるまでお待ちください。（約10～12時間（時間は気温によって異なります。））

*1 70分間は以下の表示を目安としてください。

- リモコンAの場合  → 
- リモコンBの場合  → 
- リモコンCの場合  → 

エラー発生時の処置方法

表示	故障内容	原因	処置方法
03F06	・水抜き状態時起動警告	水抜き、水張りが中止された状態で発電ユニットの起動操作が実施された。	発電禁止操作を行い、エラーをリセットし、水張りを実施後、発電ユニットを起動してください。参照ページは下記となります。 リモコンA (21、83、79、19ページ)、 リモコンB (33、83、79、31ページ)、 リモコンC (46、83、79、44ページ) 発電リモコン (59、83、79、57ページ)
05F00	・メンテナンス時間超過	定期交換部品の交換が必要です。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
05F03	・可燃ガスセンサ時間超過		
05F04	・可燃ガスセンサ時間超過		
08F00	・自立運転保護動作	電力使用量が少ないため、保護停止しています。	給湯および電力使用量が350W以上必要です。
10F00	・可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常	発電ユニット内部でガス漏れが発生した場合、もしくは発電ユニット外部から自動車の排気ガスなどの可燃性ガスが流入した場合に、ガスを検知して停止しています。	ガス供給を遮断していますが念のため発電ユニット専用ガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
10F10	・可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常		
10F01	・可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常		
10F11	・可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常		
19F00	・漏電・過電流ブレーカ保護作動	主幹ブレーカがONの状態では発電ユニット専用ブレーカをOFFした可能性があります。	エラーをリセット (83ページ参照) してください。原因に該当しない場合は、大阪ガスにご連絡ください。
769	・通信異常 (熱源機のエラー)	発電ユニット専用ブレーカがOFFになっている可能性があります。	発電ユニット専用ブレーカ (14ページ参照) をONし、エラーをリセット (83ページ参照) してください。発電ユニット専用ブレーカONでも再発する場合は、大阪ガスにご連絡ください。
82F01	・排熱回収水出口温度 高温異常	断水している可能性があります。	発電禁止操作を実施後に、エラーをリセット (83ページ参照) してください。 給水されていることを確認後、発電ユニットの水張り操作を実施してください。水張り完了後、「発電禁止からの再開」を実施してください。再発する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
A0F00	・原燃料供給圧低または原燃料流量計故障	ガス栓が閉まっているか、ガスマイコンメーターが遮断されています。	ガス栓が閉まっている場合は、ガス栓を開けてください。 ガスマイコンメーターが遮断している場合は、ガスマイコンメーターを復帰させてから、リモコンでエラーをリセットしてください。 操作方法がわからない場合はガス供給事業者までご連絡ください。
E0F00	・商用電流検出異常	購入電力の検出に異常がある可能性があります。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
E4F00	・商用電流検出異常		
F9F00	・逆潮流検出		

エラー表示

発電ユニットに不具合が生じたとき、熱源機のリモコンにエラーコード[* * F * *]が表示されます。

発電ユニットのエラーコード一覧 (1 / 2)

表示	故障内容
01F00	通常停止回数警告
01F01	シャットダウン回数警告
01F02	省エネ性低下検出
02F00	通常停止回数警告 (起動禁止)
02F01	シャットダウン回数警告 (起動禁止)
03F00	ホットモジュール起動許可条件成立待ち
03F01	スタック保護待機状態
03F06	水抜き状態時起動警告
03F07	改質水水量保護動作中
03F08	エア流量計フィルタ詰まり解消動作
05F00	メンテナンス時間超過1
05F03	可燃ガスセンサ時間超過
05F04	可燃ガスセンサ時間超過
08F00	自立運転保護動作
08F02	水不足による保護停止
08F03	自立時過負荷検出
10F00	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常
10F01	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常
10F10	可燃ガスセンサ1 ガス漏れ異常
10F11	可燃ガスセンサ2 ガス漏れ異常
11F00	着火異常
12F00	燃焼部#1失火異常
12F01	燃焼部#2失火異常
12F04	失火による出力異常
12F05	失火継続異常
15F00	起動異常
17F00	温度ヒューズ作動
19F00	漏電・過電流ブレーカ保護作動
20F00	冷却ファン故障
30F00	改質入口温度センサ故障
30F01	改質入口温度高温異常
30F02	改質入口温度低温異常
30F03	改質入口温度センサ不定故障
42F00	モジュール温度センサ故障
42F01	モジュール温度高温異常
42F02	モジュール温度低温異常
42F04	モジュール温度センサ不定故障
43F00	燃焼排ガス温度センサ故障
43F01	燃焼排ガス温度高温異常
43F02	燃焼排ガス温度低温異常
47F00	還流ガス温度センサ故障

表示	故障内容
47F02	還流ガス温度低温異常
50F01	停止時原燃料流量異常
52F02	エア流量異常
53F00	給湯混合弁原点復帰異常
55F00	可燃ガスセンサ1異常
55F01	可燃ガスセンサ2異常
55F10	可燃ガスセンサ1異常
55F11	可燃ガスセンサ2異常
57F01	伝導度上限異常または水位センサ短絡故障
59F00	燃焼触媒故障
60F00	原燃料流量偏差異常
60F01	原燃料ガスプロアDUTY上限異常
61F00	エア流量偏差異常
61F01	エアプロア故障
63F00	フロートスイッチ断線故障
63F01	フロートスイッチ短絡故障
64F00	排熱回収水ポンプ故障
66F00	改質水補給異常
67F00	水位異常または水位センサ短絡故障
67F01	水位センサ断線故障
67F04	改質水ライン水張り異常
68F00	原燃料入口電磁弁駆動回路異常
68F01	原燃料入口電磁弁異常
70F00	インバータ通信異常
70F01	インバータ連系パラメータ受信異常
72F01	給湯器ラインまたはインバータ異常
72F03	自立出力リレー固着警告
72F04	自立出力リレー固着異常
72F05	給湯器電源リレー系統側固着警告
72F06	給湯器電源リレー系統側固着異常
74F00	フラッシュメモリ故障
76F00	セット構成給湯器通信異常
76F01	後付構成用発電連係リモコン通信異常
76F02	リモコンアンマッチ
76F03	リモコン電源電圧低下異常
77F00	改質水ポンプ駆動回路異常
77F02	制御装置可燃ガスセンサ増幅回路異常
77F03	制御装置LPガスセンサ増幅回路異常
77F04	制御装置パラメータ破損異常
77F05	FCメンテデータ差異異常
77F06	FCパラメータ差異異常
77F08	原燃料流量計通信異常

エラー表示

発電ユニットのエラーコード一覧 (2 / 2)

表示	故障内容
77F09	カソード エア流量計通信異常
77F10	原燃料流量計測値フリーズ異常
77F11	カソード エア流量計測値フリーズ異常
78F15	直流ヒータ過電流警告
79F00	コントローラスイッチ部短絡故障
80F00	排熱回収水入口温度センサ故障
80F01	排熱回収水入口温度高温異常
82F00	排熱回収水出口温度センサ故障
82F01	排熱回収水出口温度高温異常
82F02	排熱回収水出口温度低温異常
82F04	排気熱交換器故障または排熱回収水出口温度センサ不定故障
83F00	補機室上部温度センサ故障
83F01	補機室上部温度高温異常
85F00	水道水温度センサ故障
86F00	混合湯温度センサ故障
86F01	混合湯温度高温異常
86F02	水道水温度センサ／混合湯温度センサ精度異常
88F00	自立ヒータ温度センサ故障
88F01	自立ヒータ上部温度高温異常
88F02	自立ヒータ上部温度高温警告
93F00	停止時間タイムアウト
95F00	改質水タンク水量不足またはフロートスイッチ故障
A0F00	原燃料供給圧低下または原燃料流量計故障
B0F00	ホットモジュール高温状態検出
B0F02	改質触媒高温状態
B1F02	水張り時エア抜き警告
B1F03	排熱回収水ライン水なし異常
B4F01	点火ヒータ連続通電時間オーバー
B4F03	排熱回収水ライン凍結防止ヒータ空焚き異常
B6F00	パソコン通信異常
B8F00	改質水タンク水なし状態検出
C0F00	スタックトータル電圧低下
C0F02	コンバータ過電流警告
C0F03	直流リンク過電圧警告
C2F00	スタックトータル電圧未確立
C4F00	直流不足電圧検出
C5F01	インバータDC/DC部温度高温異常
C5F02	インバータDC/AC部温度高温異常

表示	故障内容
C5F03	インバータ低温警告
C5F04	インバータ高温異常
C6F01	EEPROM異常
C7F00	ハードウェア故障
C7F01	インバータ温度センサ故障
C7F02	連系リレー故障
C7F04	24V補機電源電圧上限異常
C7F05	24V補機電源電圧下限異常
C7F06	24V補機電源通電警告
C7F07	2.5V補機電源電圧上限異常
C7F08	2.5V補機電源電圧下限異常
C7F12	5V補機電源電圧上限異常
C7F13	5V補機電源電圧下限異常
C7F14	スタック電流通信異常
C7F15	商用電流回路異常
C7F17	インバータソフトウェアバージョン異常
C7F23	自立周波数不確定異常
C7F25	自立構成異常
C7F26	自立発電電圧不安定異常
C7F27	自立発電電圧不安定警告
C7F28	自立出力準備中シーケンス異常
C9F00	インバータ入力過電流
E0F00	商用電流検出異常 (誤配線)
E1F00	CT自動補正不能
E1F01	CT誤取り付け警告
E1F02	CT自動検出時電力不足異常
E4F00	商用電流検出異常
E7F00	N相過電流異常
F0F00	系統過電圧警告
F1F00	系統不足電圧警告
F2F00	系統周波数上昇警告
F3F00	系統周波数下降警告
F4F00	単独運転受動方式検出
F5F00	単独運転能動方式検出
F6F00	系統瞬時過電圧
F7F00	直流過電圧検出
F7F01	リンク不足電圧検出
F7F02	リンク過電圧検出
F7F03	出力電流直流分流出検出
F7F05	インバータ側通信異常
F7F06	瞬時過電流
F9F00	逆潮流検出
O1900	マイコンメータ内管漏えい警報防止

点検について

■ 逆流防止装置の点検

この機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使いいただくために、（社）日本水道協会発行の「給水用の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をおすすめします。（有償）

■ 発電ユニットの点検

機器への通電開始から12.5年経過後に停止します。引き続き安全にご使用になるためには、点検および定期交換部品、その他の部品の交換が必要になります。（有償）

◆ リモコンの液晶画面上部に下記のお知らせが表示されたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

- ・ [発電ユニットの点検時期が近づいています。]
- ・ [発電ユニットの点検が必要です。]
- ・ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]（エラーコード[05F00]も点滅）

※ [発電ユニットの点検時期を過ぎています。]の表示になると、発電ユニットは自動的に停止します。

◆ 点検は、専門のサービスマンが実施いたします。

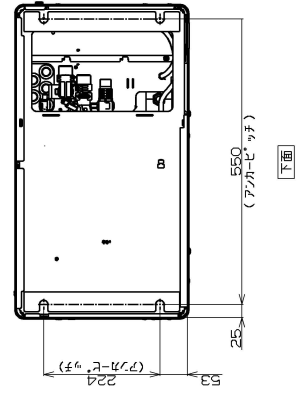
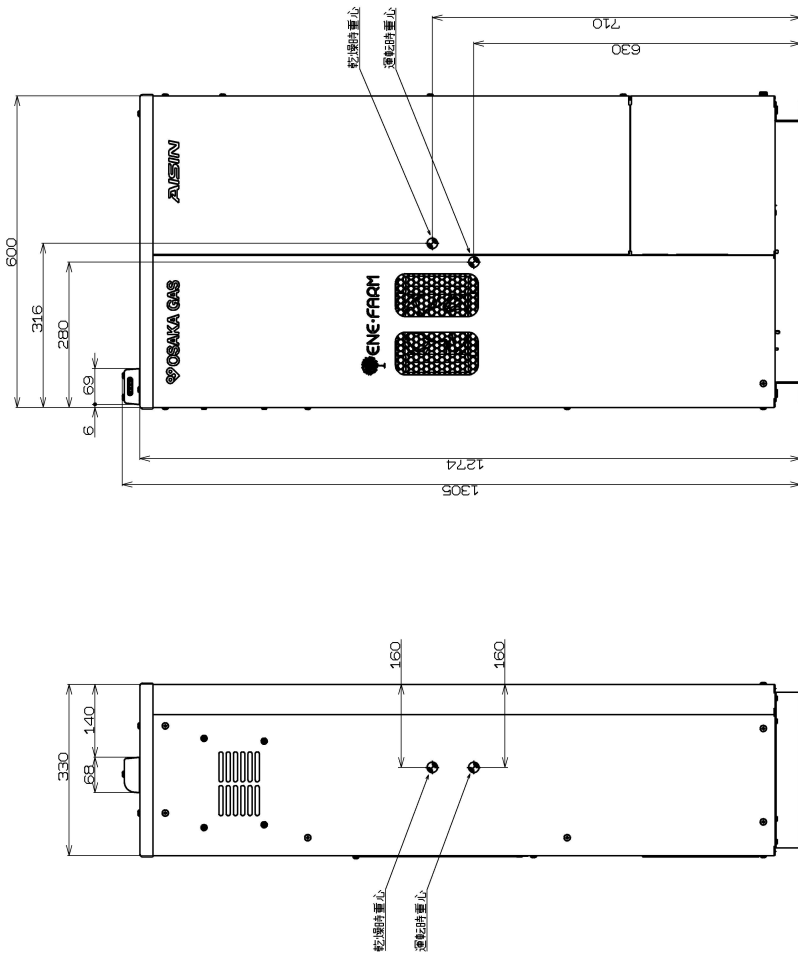
おもな仕様

商品コード	192-AS11	192-AS11 192-AS13	192-AS12	192-AS12 192-AS14
型式名	FCCS 07C1NJ	FCCS 07C1PJ	FCCS 07C1NH	FCCS 07C1PH
製品名	停電時自立発電機能付き エネファーム type S 燃料電池発電ユニット		エネファーム type S 燃料電池発電ユニット	
ガスの種類	都市ガス 13A	LPガス	都市ガス 13A	LPガス
燃料電池の種類	SOFC (固体酸化物形燃料電池)			
設置方法	屋外設置据置型			
タンク貯湯温度	約60℃			
タンク容量	25L			
外形寸法 mm	高1274×幅600×奥行330			
重量 kg	86 (乾燥重量)		85 (乾燥重量)	
接続	ガス	TU (R1/2おねじ)		
	給水・給湯	R3/4 (おねじ)		
	タンク排水	R1/2 (おねじ)		
	排水	R1/2 (おねじ)		
	電源	単相3線式 100/200V		
発電	定格出力 W	700 (停電時自立発電時700)	700	
	電圧 V	100		
	周波数 Hz	50/60		
効率	発電効率 (LHV) %	55 (*1)	53	55 (*1)
	総合効率 (LHV) %	87	85	87
インバータ	インバータ方式	自励式電圧型電流制御方式		
	電圧調整方式	PWM方式		
	絶縁方式	高周波絶縁方式		
	接続電気方式	単相3線式		
	出力電気方式	単相2線式 101V		
運転環境温度 ℃	-10 ~ 43			
停電時自立発電設計耐用時間 (のべ)	500h		-	
不在停止の使用目安	10回/年以下			
起動時間 (発電準備)	約4 ~ 5時間*2 (機器の状態および気温によって異なります)			
停止動作時間	約3 ~ 5時間 (機器の状態および気温によって異なります)			

*1 都市ガス13A (LNG) の場合に、連続で3時間以上安定して定格発電を継続した際の発電効率です。
上記以外の場合は、定格発電効率54% (総合効率87%) となります。

*2 発電の停止動作中に起動操作を行った場合でも、停止動作の完了後に再起動となります。

外形図



No	名称	接続口径
①	ガス接続口	TU(R1/2おねじ)
②	熱源機住ぎ接続口	R3/4(おねじ)
③	給水接続口	R3/4(おねじ)
④	タンク排水接続口	R1/2(おねじ)
⑤	ドレン排水接続口	R1/2(おねじ)

アフターサービスと保証について

修理を依頼するとき

修理を依頼される前に、「故障・異常かな?と思ったら」(81～84)ページの項目を見て、今一度ご確認ください。不具合があるときはご自分で修理せず、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

修理の際、エラー発生時に記録した運転データ*を機器から取得し、原因解析に使用します。

*運転データには電気、お湯等のお客さま使用状況を含みます。

アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

1. 商品コード・・・192-AS11、192-AS12、192-AS13、192-AS14
2. 品名・・・エネファーム type S (燃料電池発電ユニット)
3. ガス種・・・都市ガス(13A) / LPガス
4. お買い上げ年月日
5. 故障の状況・・・できるだけ詳しく(故障表示など)
6. ご住所、お名前、電話番号
7. 訪問ご希望日

保証について

- この燃料電池発電ユニットには保証書がついています。必ず「販売店名・お買い上げ日等」が記入されていることを確認してください。
- 保証書の内容をよくお読みになった後は大切に保管してください。
- 無償修理期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有償で修理いたします。

引越または機器を移設する場合

燃料電池発電ユニットを安全で快適にご使用いただくため次のことをご確認ください。

移設工事はお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスに依頼し、お客さまご自身ではなさらないでください。

- 引越などで燃料電池発電ユニットを移動・再設置する場合は専門の技術が必要ですので、前もってお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
- 燃料電池発電ユニットを処分する場合は、お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしないでください。法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄する必要があります。解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。
※ ご使用による人体・周辺環境への影響はありません。

補修用性能部品について

燃料電池発電ユニットの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後12年です。

性能部品とは製品の性能を維持するために必要な部品です。

熱源機・リモコンを買い替える場合

- 熱源機との組み合わせ、あるいはリモコンとの組み合わせによっては安全・性能が担保できずやけど等の事故が発生するおそれがあります。
- 熱源機・リモコンを買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

アフターサービスと保証について

大阪ガス製エネファームフルメンテナンスサポートサービスのご案内

1. フルメンテナンスサポートサービスとは

フルメンテナンスサポートサービス（以下、「本サービス」といいます。）は、大阪ガス株式会社（以下、「大阪ガス」といいます。）または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム（以下、「エネファーム」といいます。）をご利用いただいているお客さま（以下、「お客さま」といいます。）を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。本サービスの内容は、次ページ以降の「フルメンテナンスサポートサービス利用規約」（以下、「利用規約」といいます。）によります。

2. 注意事項

- (1) 利用規約第3条第2項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、故障時の修理は有償となります。（以下、抜粋）
 - ①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷
 - ②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
- (2) 利用規約第5条第1項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供を終了させていただきます。（以下、抜粋）
 - ①大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の所有者が変更された場合
 - ②大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の設置場所が変更された場合
 - ③大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- (3) 前記（2）により本サービスの提供が終了した場合（利用規約第5条ご参照）や、利用規約に従い有償となる場合（利用規約第3条ご参照）には、数千円～数十万円の費用が必要となります。

アフターサービスと保証について

【フルメンテナンスサポートサービス利用規約】

フルメンテナンスサポートサービス(以下、「本サービス」といいます。)は、大阪ガス株式会社(以下、「大阪ガス」といいます。)または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム(以下、「エネファーム」といいます。)をご利用いただいているお客さま(以下、「お客さま」といいます。)を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。大阪ガスまたは大阪ガスが指定する業務代行店が、以下の各条にしたがい、本サービスを提供いたします。

第1条(本サービスの提供期間)

本サービスの提供期間は、次の通りとします。但し、①または②により定まるサービス提供開始日が、次条に定める本サービスの対象機器の設置日から起算して1年を経過している場合は、設置日から起算して1年を経過した日をサービス提供開始日とします。

①大阪ガスとの間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日: 設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日またはガスの開栓日のいずれか遅い日

サービス提供終了日: サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

②大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日: 設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日

サービス提供終了日: サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

第2条(本サービスの対象機器)

本サービスの対象機器(以下、「対象機器」といいます。)は、エネファームを構成する燃料電池発電ユニット、燃料電池発電ユニットと同時に設置した当社指定のバックアップ熱源機、リモコンセット並びにバックアップ熱源機に接続されている大阪ガス製の端末機および別売部品とし、バックアップ熱源機以外の温水機器及び、給湯配管、風呂配管、温水配管、信号線等の施工部分、は含まないものとします。

2.前項の端末機とは、「床暖房リモコン」、「浴室暖房乾燥機」、「ヌックシルエ」等をいい、別売部品とは、「自動電源切替器」、「マルチ計測ユニット」、「ネットアダプタ」、「ドレンアップユニット」をいいます。

3.前条の定めにかかわらず、端末機および別売部品のサービス提供終了日は、接続しているエネファームのサービス提供終了日もしくは当該端末機または当該別売部品の設置日から起算して10年を経過する日のいずれか早い方とします。

第3条(故障時の修理)

本サービスの提供期間内に対象機器が故障したときは、大阪ガスはお客さまの依頼によりすみやかに技術者を派遣し、適切な修理を行います。修理に要した基本料、技術料および部品代金等の費用は無償となります。なお、本サービスの提供期間終了後においても、お客さまの依頼があるときは、修理が不可能または著しく困難な場合を除き、有償で故障の修理を行います。

2.前項の定めにかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、修理は有償となります。

①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷

②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷

③火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性等の有害ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・蜘蛛・昆虫類等の侵入、その他天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷

④水道管の錆など異物の流入による故障および損傷

⑤車両船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷

⑥音、振動、塗装の退色、メッキの軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合

⑦ガス発電・給湯・暖冷房システムのうち、大阪ガスまたは大阪ガス指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因した故障および損傷

⑧業務用の場所(喫茶店、理美容院、飲食店、事務所等)で長時間ご使用になられた場合

⑨商品に表示しているガス以外のガスでご使用になられた場合

⑩温泉水、井戸水、地下水を給水したことに起因する不具合

⑪本規約の字句を書きかえられた場合。

⑫大阪ガスが定める定期点検以外での消耗品の交換に伴う、部材費、手数料、基本料

アフターサービスと保証について

- ⑬ 停電時以外で停電時自立発電機能を頻繁に使用したことに起因する故障および損傷
- ⑭ 手動操作による「起動」「停止」を頻繁に繰り返し行い、機器の耐久性が低下したことによる故障および損傷
※ SOFCタイプの「不在停止」操作は、10回/年を目安とし、10日以上不在となる場合にご利用できません。
- ⑮ エネファーム燃料電池発電ユニット(SOFCタイプ)の最大発電出力の低下範囲が日本ガス機器検査協会の検査規定JIAF035.18に定める下限値(定格出力の90%)の80%を下回らない場合
- ⑯ 機器の性能・耐久性維持のための定期点検など、大阪ガスからのお願ひにご協力いただけず発生した機器の耐久性低下による故障および損傷
- ⑰ 商品に同梱の工事説明書および取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた故障および損傷

第4条(本サービスの提供に対する協力等)

お客さまは、本サービスの提供が円滑に行われるように、大阪ガスおよび大阪ガスの業務代行店に全面的に協力するものとし、次の各号に定める事項について承諾するものとします。

- ① 本サービスの提供に要する電気、水道、ガス料金その他の費用がお客さまの負担となること
 - ② 本サービスの提供は、原則として、大阪ガスの通常営業時間中に行うこととし、止むを得ず大阪ガスの通常営業時間外に本サービスの提供を行う必要がある場合は、お客さまと大阪ガスが協議のうえ、大阪ガスが指定する時間帯に行うこと
 - ③ お客さまは、転宅または対象機器の譲渡、移転をする場合、大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店に事前に連絡すること
2. 大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店は、本サービスの提供にあたり、十分な注意を払い、誠意をもってこれを行うものとします。

第5条(本サービスの提供の終了について)

次の各号のいずれかに該当する場合は、サービス提供終了日より前であっても、本サービスの提供を終了することについて、お客さまは承諾するものといたします。

- ① 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の所有者が変更された場合
(大阪ガスが事前に所有者の変更へ同意した場合は、本規約にかかるお客さまの地位は、対象機器の新所有者に移転するものとします。この場合、対象機器の旧所有者は、大阪ガスへ何らの請求も行えないものといたします。)
- ② 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の設置場所が変更された場合
- ③ 大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- ④ お客さまが、暴力団、暴力団関係企業をはじめとする反社会的勢力またはその構成員または準構成員に該当することが判明した場合や、自らまたは第三者を利用して次のいずれかに該当する行為をした場合
イ. 暴力的な要求行為
ロ. 法的な責任を超えた不当な要求行為
ハ. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
ニ. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて大阪ガスの信用を毀損し、または大阪ガスの業務を妨害する行為
ホ. その他イないしニに準ずる行為
- ⑤ その他止むを得ない事情により永続的にサービスの提供ができないと大阪ガスが判断した場合2. 前項の規定により本サービスの提供を終了した場合、お客さまに損害が生じたとしても、大阪ガスは何ら法的な責任を負わないものとします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第6条(本サービスの提供ができない場合等の免責)

次の各号のいずれかに該当する場合は、大阪ガスは本サービスの提供を免れるものとします。

- ① 長期のご不在や、メンテナンススペースの確保が出来ていないなどの止むを得ない事情により、本サービスの提供を行うことができないと大阪ガスが判断する場合
- ② その他止むを得ない事情により一時的に本サービスの提供を行うことができない場合

アフターサービスと保証について

2. 大阪ガスは、対象機器の故障発生に伴ってお客さままたは第三者に発生したいかなる損害についても法的な責任を負わないものといたします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第7条(管轄裁判所)

本サービスに関する一切の訴訟については、大阪地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

第8条(その他)

本サービスに関する疑義または本規約に定めのない事項については、お客さまおよび大阪ガスの双方が誠意をもって協議し、円満に解決を図るものとします。

【お客さま情報の利用目的】

当社は、本サービスの提供に関して、当社が直接または業務委託先等を通じて、または電話帳・宅地図等の刊行物等により、お客さまの氏名、住所、電話番号等の情報（以下「お客さま情報」といいます。）を取得しますが、これらの情報は以下の目的に利用させていただきます。

- ①エネルギー供給およびその普及拡大
- ②エネルギー供給設備工事
- ③エネルギー供給設備・消費機器(厨房、給湯、空調等)の修理・取替・点検等の保安活動
- ④漏洩・火災自動通報、供給の遠隔遮断等のエネルギー供給事業に関連するサービスの提供
- ⑤ エネルギー消費機器・警報器等の機器および住宅設備の販売（リース・レンタル等を含む）、設置、修理・点検、商品開発、アフターサービス
- ⑥上記各種事業に関するサービス・製品のお知らせ・PR、調査・データ集積・分析、研究開発
- ⑦その他上記①から⑥に附随する業務の実施

なお、当社は、本サービスの提供を円滑に進めるため、業務代行店等に業務の一部を委託することがあります。その際、当社からこれらの業務委託先に必要な範囲でお客さま情報を提することがあります。その場合、当社は、業務委託先との間で取扱いに関する契約を結ぶ、適切な監督を行います。

事前にご確認ください

取扱説明書

リモコン操作編

後付構成用発電関係リモコン

リモコン型番
138-N434型

- はじめに →
- ご使用前に →
- エネルギー →
- 無線LAN機能 →
- 停電時やガスの供給停止中 →
- メニューからの運転・設定
(ユーザー設定) →
- こんなとき →
- 困ったとき →
- ご参考 →

このたびは大阪ガスのリモコンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます

- この取扱説明書をよくお読みになって、正しくご使用ください。なお、ご不明な点があれば販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。
- この取扱説明書は、別冊の「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書(保証書付)と併せて、いつでもご覧になれるところに保管してください。

後付構成用発電関係リモコンの操作を説明しています

- 燃料電池発電ユニットについては、別冊の「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書で説明していますので、併せてお読みください。

文中の(PO)の数字は参照ページを表します

説明中のリモコン表示画面は一例です

- 実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

この取扱説明書での機器の呼びかた

- 燃料電池発電ユニットを**発電ユニット**、燃料電池発電ユニットと熱源機を合わせたシステムを**エネファーム**と呼びます。
- ガスメーター(マイコンメーター)を**ガスマイコンメーター**と呼びます。

逆潮流有の設定を選択された場合は、画面表示が異なります

- 逆潮流とは、発電ユニットにて発電された電力を電力系統を介して取引等を実施するものです。逆潮流を実施する場合、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買取をおこなう事業者さまへの申し込みが必要となります。
- 逆潮流有の設定を選択された場合とされていない場合で、発電に関する表示が異なります。(この取扱説明書では、逆潮流有の設定を選択されていない場合の表示例で説明しています)
- この取扱説明書では、「逆潮流有の設定を選択された場合」を「逆潮流の場合」として説明しています。

以前の入居者がエネファームを使用していた可能性がある場合

- エネファームをご使用になる前に、リモコンの「全設定初期化」をしてください。(P42「ユーザー設定を初期値に戻す」)

もくじ

はじめに	
事前にご確認ください	2
もくじ	3
必ずお守りください(安全上の注意)	4

ご使用前に	
各部のなまえとはたらき	5
スイッチ・ランプ・マーク	5
表示画面	6
トップ画面	7
トップ画面のモードを切り替える	9
日時をあわせる	10

エネルギー	
エネルギーとは	11
トップ画面で現在のエネルギーの状況を見る	12
エネルギーで詳しい使用状況を見る	13
発電レポートで電気の状況を確認する	13
発電量の履歴を確認する	13
各エネルギーの使用量などの履歴を確認する	14
各エネルギーの状況を料金で確認する	15
使用開始から現在までの発電の累積値を確認する	16
エネルギーの設定を変える	16

無線LAN機能	
無線LANルーターと接続してできること	19
トップ画面に「無線LAN設定をおこなってください」の表示が出ているとき	19
リモコンと無線LANルーターを接続する	21
リモコンとスマートフォンを接続する	25
ツナガルスイッチを操作する	26
配信情報を見る	27
すべてのスマートフォンとの接続を解除する	28

停電時やガスの供給停止中	
自立運転機能付の場合	
停電時に電気を使う<自立運転>	28
ガスの供給停止中にお湯を使う<ヒーター給湯>	32

メニューからの運転・設定(ユーザー設定)	
メニューから運転操作をする・設定を変える(ユーザー設定)	33
メニュー一覧	33
発電	34
音・その他	35

こんなとき	
リモコンのお手入れ	42
困ったとき	
故障・異常かな?と思ったら	42
リモコンに「暗証番号を入力してください」と表示したとき	46
リモコンに故障表示が出ているとき	46

ご参考	
リモコンにアップデートに関するお知らせを表示したとき	46
転居される時	46
アフターサービスについて	46
保証書	裏表紙

はじめに

必ずお守りください(安全上の注意)

- 「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の内容も併せてご覧ください。
- お使いになる方や他の方への危害・財産への損害を未然に防止するために、つぎのような区分・表示をしています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

⚠危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されます。

⚠警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定されます。

⚠注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定されます。

🙏お願い

安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

⚠注意 リモコンの取り扱い

- リモコンのスピーカーに耳を近づけない
大きな音が出る場合があり、聴覚障害などを引き起こす原因になります。

- リモコンには磁石を使用しています
磁石の力は非常に微弱ですが、ペースメーカーなど医療機器を使用している方は、医師とご相談のうえ使用してください。

🙏お願い リモコンの取り扱い

- リモコンを子供がいたずらしないよう注意する
- リモコンに水しぶきをかけない、蒸気を当てない
炊飯器、電気ポットなどに注意。故障の原因になります。
- 表示画面(タッチパネル)は、必ず指でタッチする
- 表示画面(タッチパネル)は、鋭利なものや固いもの(ボールペン、ピンなど)で押しついたり、必要以上に強く押しついたりしない
正常に動作しなかったり、タッチパネルの表面を傷つける原因になります。また、必要以上に強く押すと、タッチした部分に画面のゆがみやムラが出ます。パネルの特性で異常ではありませんが、何度も強く押すと故障の原因になります。

🙏お願い リモコンのメンテナンス

- リモコンを分解しない
故障や、思わぬ事故の原因になります。
- リモコンの掃除には、塩素系・酸性・アルカリ性の洗剤や研磨剤入りの洗剤、ベンジン・シンナーなどの有機溶剤、メラミンスポンジを使用しない
変色・変形・傷・割れなどの原因になります。

🙏お願い リモコンの設置環境

- リモコンは0℃～40℃の室温で使用
故障の原因になります。

⚠危険 自立運転機能付の場合

- 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は、自立運転をしない
火災などの原因になります。

⚠警告 自立運転機能付の場合

- 自立運転専用コンセントが設けられていることを確認する
停電時にエネファームで発電した電気を使用するには、自立運転専用のコンセントが必要です。自立運転専用コンセントには「エネファーム」/「停電時自立発電専用」/「出力電力約700W」と表示されていることを確認してください。
- 停電時以外は自立運転専用コンセントに電気機器を接続しない
接続した電気機器に突然電気が流れ、機器が損傷する原因や、突然の動作による事故の原因になります。

- 自立運転専用コンセントには、途中で電源が切れると生命・財産に損害を受けるおそれのある、以下のような機器を接続しない

- ・すべての医療用機器
- ・灯油などを用いた暖房機器
- ・炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- ・バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器および周辺機器
- ・その他、電源が切れると生命・財産に損害を受けおそれのある機器

自立運転専用コンセントには停電時だけ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。

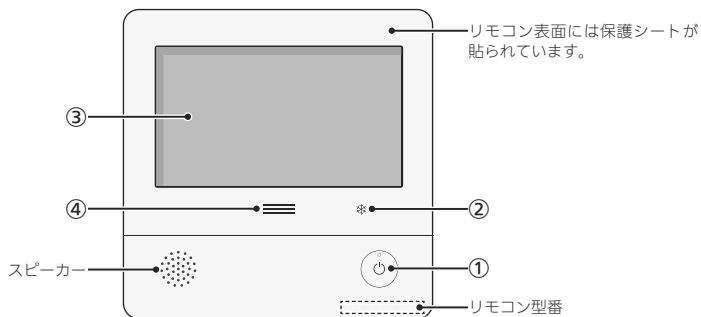
- 消費電力が700W以上になる機器は接続しない
自立運転で使用できる電気の量は約700Wです。

- 自立運転専用コンセントと家庭内の普通のコンセントを延長ケーブルなどで絶対に接続しない
感電、発火などの原因になります。

- 停電していない時に、意図的にブレーカーを切って自立運転させない
思わぬ事故の原因になります。また、本来の機能、メリットが損なわれます。

各部のなまえとはたらき

スイッチ・ランプ・マーク



- ① **ON/OFFスイッチ・ランプ**
 - ・画面を表示させたり消したりするときに。
 - ・画面を表示するとランプ点灯、画面が消えるとランプ消灯します。
 - ・不在停止中(P34)の画面消灯時はランプ点滅。
- ② **凍結予防運転中マーク**

凍結予防のために発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯。
- ③ **表示画面 (P6~8)**
 - ・タッチパネルです。(P6)
 - ・画面が消えているときにタッチすると、画面を表示します。
 - ・リモコンの節電のため、「表示の節電」機能を備えています。(P6)
 - ・表示画面のお手入れをするときは、P40「タッチパネルのお手入れをする」の方法でタッチ操作を無効にしてください。

- ④ **発電ランプ**
 - ・発電ユニットで発電中に点灯します。
 - ・現在の使用電力の状態を、色で表します。

使用電力が多い	オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が増えています 節電してください
1.2kW	青色	使用電力が少し増えています
0.7kW	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています
少ない		

 - ・逆流流の場合は、買電中か売電中かを表示します。

オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より多いので 買電しています
青色	使用電力が発電電力より少ないので 売電しています

はじめに
使用前に

表示画面

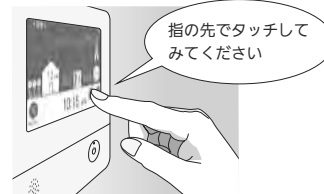
表示画面(タッチパネル)の操作の基本

- リモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
 - 圧力を感じるタイプのタッチパネルです。ある程度力で確実にタッチしてください。
- ※片方の指で画面を触りながらもう片方の指で操作するなど、2点以上同時にタッチすると、正常に動作しません。

お願い

- 表示画面(タッチパネル)は、必ず指でタッチする
 - 表示画面(タッチパネル)は、鋭利なものや固いもの(ボールペン、ピンなど)で押しついたり、必要以上に強く押しつたりしない
- 正常に動作しなかったり、タッチパネルの表面を傷つけたりする原因になります。また、必要以上に強く押すと、タッチした部分に画面のゆがみやムラが出ます。パネルの特性で異常ではありませんが、何度も強く押すと故障の原因になります。

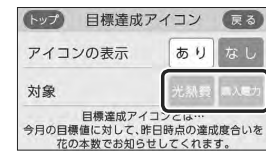
? スイッチ操作がうまくいかないときは…



スイッチに指が当たる前に、爪や指の先端がスイッチ以外の場所に当たると、スイッチがタッチを感知しないことがあります。

■ グレーになっているスイッチは操作できません

(例：アイコンの表示を【なし】にしたとき)



設定できません

表示の節電について

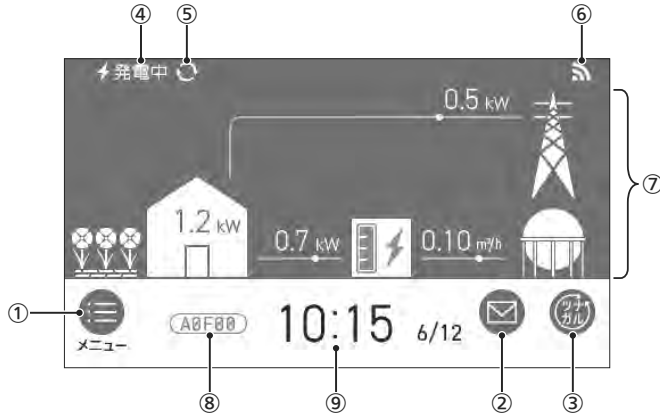
- ON/OFFスイッチを押しついたり画面をタッチしたりしないまま約10分たつと、表示が消えます。
- 以下の操作で表示の節電が解除されます。
 - ・画面をタッチする
 - ・ON/OFFスイッチを押す
- 以下の場合は、表示の節電はしません。
 - ・発電ユニットが起動するときの約1分間
 - ・(自立運転機能付の場合) 自立運転中
 - ・日時が未設定の状態が10分以上続いた場合
 - ・故障表示中

お知らせ

- 表示画面に市販の保護シートなどを貼り付けると、正常に動作しないことがあります。
- 画面の液晶には、一部に点灯しないドット(点)、または常時点灯するドット(点)が存在する場合がありますが、故障ではありません。

トップ画面

●下記の表示画面は説明用です。実際は、運転の状態によって表示が異なります。



使用前に

タッチできるスイッチ表示

- ① メニュースイッチ
いろいろな設定を変えたり、メニューから運転するとき。
- ② 配信情報スイッチ
アプリまたは大阪ガスから送信されたメッセージを確認するとき。(P27)
- ③ ツナガルスイッチ (P26)
※「ツナガルスイッチ」は大阪ガス株式会社の商標です。

タッチしても変わらない表示

- ④ 発電状況表示
そのときの発電の状況を表示します。(P8)
- ⑤ 発電モードマーク (P8)
- ⑥ 無線LAN状態表示 (P8)
- ⑦ エネルギー状況表示
現在の発電状況やエネルギーの使用状況を表示。(P12)
- ⑧ 故障表示
不具合が生じたときに表示。(P46)
- ⑨ 日付・時計表示

発電状況表示について



表示	状態
⚡ (点灯)	発電しています
⚡ (点滅)	起動中(発電準備中)です
⚡↔⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です
↓↔↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です*
↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています*
(表示なし)	発電ユニットは停止しています

※電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。(P34)



表示	状態	
発電中※1	発電しています	
起動中	起動中(発電準備中)です	
停止中 (表示なし)	発電停止の動作中です 発電ユニットは停止しています	
発電禁止	発電を強制的に禁止しています (P35「発電禁止」)	
発電×	発電ユニットが使用できない場合に表示します	
出力抑制※2	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています	
不在停止	発電を停止しています (P34「不在停止」)	
逆潮流の場合	電圧抑制※3 発電した電力を売電しています	
自立運転機能実行の場合	⚡自立↔⚡自立 (交互表示)	自立運転しています
	⚡自立・高↔⚡自立・高 (交互表示)	高出力モード (P31) で自立運転しています

※1: 自立運転機能付でない場合、停電時に「発電中」と表示することがありますが、故障ではありません。

※2: 外気温が高いときや、熱が滞留するような設置環境にあるときは、運転を継続させるために、発電ユニットの出力を抑えます。これらの条件が解消されると、この機能は自動的に解除されます。
詳細は、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」

をご参照ください。

※3: 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が法律で定められた上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。系統の電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。
詳細は、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」をご参照ください。

発電モードマークについて

タンクリフレッシュ運転マーク

長時間お湯の使用がなかったときなどに、発電ユニットの貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。

M ガスマイコンメーター確認マーク

この表示は4時間から9時間出ます。その間、発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガスもれの有無を確認します※。すべてのガス機器(暖房を含む)を最低70分連続して停止してください。発電ユニットは、4時間から9時間停止後、自動で運転を再開します。
※詳細は、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書「ご使用方法 運転・停止について」をご参照ください。

H ヒーター給湯マーク

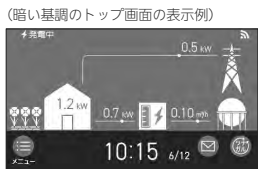
発電ユニットに搭載しているヒーターでお湯を沸かしています。(P32)

無線LAN状態表示について

表示	状態
	無線LANルーター・サーバーに接続しています
	無線LANルーターとは接続していますが、サーバーと通信できていません(P45)
圏外	無線LANルーターの圏外になっているか、無線LANルーターとの接続が切断されています(P44)
(非表示)	<ul style="list-style-type: none"> ●無線LANルーターとの接続設定がされていません(接続方法→P21) ●無線LANルーターとの接続設定をしていても、【音・その他】の「無線LAN」が【OFF】の場合は非表示になります

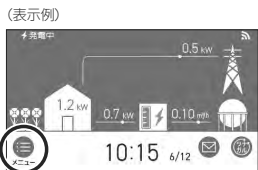
トップ画面のモードを切り替える

●明るい基調と暗い基調を切り替えられます。

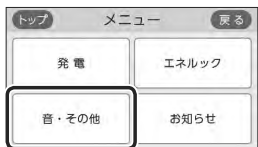


手順

1. トップ画面で【メニュー】をタッチする



2. 【音・その他】をタッチする



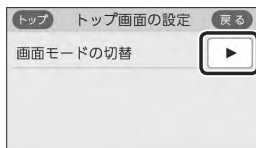
3. 右下の▼でページを送り、【画面設定】をタッチする



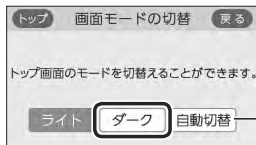
4. 「トップ画面の設定」の【▶】をタッチする



5. 「画面モードの切替」の【▶】をタッチする



6. 【ダーク】をタッチする



【自動切替】に設定すると、毎日18時になると自動的に暗い基調(ダーク)になり、次の日の朝6時になると明るい基調(ライト)に戻ります。

使用前に

日時をあわせる

●無線LANルーターと接続すると(P21)、インターネットを介して自動で日時を取得するため、「日時あわせ」の必要はありません。また、手動で日時あわせをしても自動的にインターネットで取得した日時に変更されます。(ただし、「無線LAN」の設定(P38)を【OFF】にしたり、「ネットワーク日時に同期」の設定(P36)を【無効】にしたりすると、自動で日時は取得できません)

5. 設定したい項目をタッチしてから、数字をタッチして日付と時刻を入力する



●【◀】【▶】でも項目を移動することができます。

6. 【決定】をタッチする



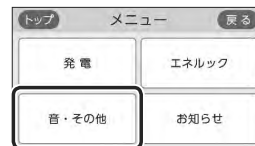
●【決定】をタッチしないと、日時あわせは完了しません。

手順

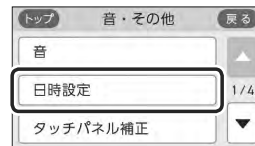
1. トップ画面で【メニュー】をタッチする



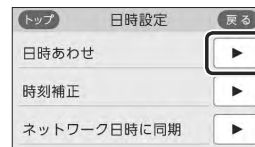
2. 【音・その他】をタッチする



3. 【日時設定】をタッチする



4. 「日時あわせ」の【▶】をタッチする



お知らせ

- 停電のあとや電源を切ったあとは、再通電したときに日時がリセットされている場合があります。無線LANルーターと接続していない場合は、手動で日時をあわせ直してください。(日時の設定がされていないと発電しないことがあります)
- 日時あわせをしないと、エネルギーの表示内容、ガスマイコンメーターの安全機能確認、電気使用量が少ない場合に翌月停止させる機能が正しく動作しません。
- 日時を変更すると、エネルギーのデータが上書きされたり「0」になったりすることがあります。

エネルックとは

エネルックは、ガス・電気の使用状況を確認できる機能です

- 現在の使用状況をトップ画面で手軽に確認できます。(P12) また、詳しい使用状況は、【メニュー】→【エネルック】で確認できます。(P13)
- 必要に応じて、表示や料金単価・目標値などの設定を変更できます。(P16「エネルックの設定を変える」)
- エネルックの表示は、1時間に1回、または【エネルック】をタッチしたときに更新されます。

確認できるエネルギーや表示する値について

発電ユニットで使用したガスと、家中の電気の使用状況を確認できます

- 0:00から次の0:00までの使用分を「1日分」として、積算します。
- ガス使用量は、家庭内すべての使用量ではありません。発電ユニットを通らないガス(給湯機器、ガスコンロ、ガスファンヒーターなど)の使用分は、積算しません。
- 停電があった場合や発電ユニットの電源を切った場合は、当日分のデータが削除されたり正しい値を表示しなかったりします。

逆潮流の場合は、売電・買電の状況も確認できます

売電・買電とは

- 売電とは、発電ユニットの発電電力が使用電力より多い場合に、余った電力を電力会社に売ることです。
- 買電とは、発電ユニットの発電電力が使用電力より少ない場合に、不足している電力を電力会社から買うことです。

表示する値は、実際の使用量や料金とは異なります

- リモコンに表示する使用量・料金などの値は目安です。
- トップ画面に表示されている電力などの値は、タイミングによっては実際の値とはずれが生じることがあります。
- リモコンのソフトウェアを更新した場合は、当日分のデータが削除されたり正しい値を表示しなかったりします。
- 発電ユニットのソフトウェアを更新した場合は、正しい値を表示しない場合があります。
- リモコンに表示する料金に基本料金は含まれません。

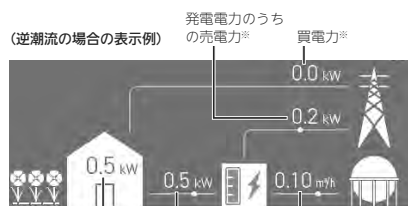
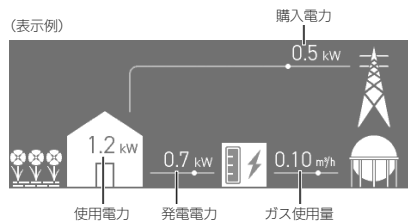
- ガス・電気のコストは、ご家庭に設置されている各メーターの使用量に応じて請求されます。リモコンに表示する金額で請求されることはありません。(特にガスについては、発電ユニット以外で使用する場合があるため、請求額が大きく異なります)
- ガス・電気のコストは、使用量に応じて変動します。また、料金プランによっては、料金単価が時間毎に変わる場合もあります。
- 表示する値が記号の場合があります。エネルックの値がリモコンに表示できる桁数より大きくなった場合は、「#」を表示します。また、エネルックの値の計算が不可能な状態になった場合(例：使用電力量が「0」だった場合に、発電レポート(P13)の自給率の計算(発電量÷使用電力量×100)の値が出せないときなどは、「-」を表示します。

ご利用前に

エネルック

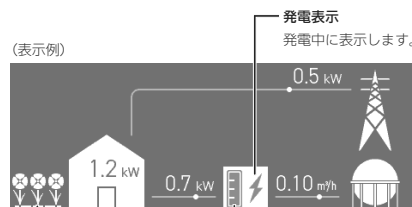
トップ画面で現在のエネルギーの状況を見る

- 現在使っている電力、現在発電している電力、現在購入している電力または売電・買電の状況を確認できます。



※売電力・買電力は、どちらかのみ表示します。

発電表示・貯湯量表示・目標達成アイコンについて



目標達成アイコン

目標値より使用実績が多いか少ないかを、花の数でお知らせします。(昨日までの使用状況を反映します)

- 目標より10%以上節約できています
- 目標より5~10%節約できています
- ほぼ目標どおり節約できています
- 目標に対して節約できていません

●参照：P18「目標値とは」

エネルックで 詳しい使用状況を見る

発電レポートで電気の状況を確認する

- 電気の状況(発電量、使用電力量、購入電力量または売電量・買電量、自給率)を、日・月・年単位で確認できます。

手順

1. トップ画面で【メニュー】をタッチする
2. 【エネルック】→【発電レポート】をタッチする

(「日」の表示例)

日単位の場合は「今日」「昨日」、月単位の場合は「今日」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え



日単位・月単位・年単位に切り替え

(逆潮流の場合「日」の表示例)

日単位の場合は「今日」「昨日」、月単位の場合は「今日」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え



日単位・月単位・年単位に切り替え

- Ⓐ発電量(発電ユニット)※1
- Ⓑ購入電力量
- Ⓒ発電量と使用電力量から計算した電気の自給率※2
- Ⓓ発電量と使用電力量の内訳を表すグラフ
緑：発電量 オレンジ：購入電力量

Ⓓ発電量(発電ユニット)のうちの売電量・自家への供給電力量※1

Ⓔ買電量

Ⓒ発電量と使用電力量の内訳を表すグラフ

緑：売電量 黄緑：自家供給電力量
オレンジ：買電量

※1：自家への供給電力の金額は、電気(または買電)の料金単価を元に表示しています。(P17)

※2：自給率=発電量÷使用電力量×100

エネルック

発電量の履歴を確認する

- 日・月・年単位で確認できます。

手順

1. トップ画面で【メニュー】をタッチする
2. 【エネルック】→【発電モニター】をタッチする

(逆潮流の場合の表示例)

日単位の場合は「今日」「昨日」、月単位の場合は「今日」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え



現在までの発電量

料金が確認できる場合はここに表示

確認したい項目アイコンをタッチ、または◀▶で切り替え

日単位・月単位・年単位に切り替え

項目アイコン	
	発電ユニットの発電量と料金を確認できます※1
	発電ユニットの売電量と料金を確認できます

※1：逆潮流なしの場合は、燃料電池発電量に表示する料金は、電気の料金単価を元に表示します。逆潮流の場合は、料金の表示はしません。

※2：逆潮流の場合のみ表示します。

各エネルギーの使用量などの履歴を確認する

- エネルギーの項目ごとに日・月・年単位で確認できます。

手順

1. トップ画面で【メニュー】をタッチする
2. 【エネルック】→【使用量】をタッチする

日単位の場合は「今日」「昨日」、月単位の場合は「今日」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え



現在までの使用量

料金と目標値が確認できる場合はここに表示

確認したい項目アイコンをタッチ、または◀▶で切り替え

日単位・月単位・年単位に切り替え

項目アイコン	料金表示	目標表示
	(表示しない)	「月」のみ表示
	表示	「月」のみ表示
	表示	「月」のみ表示
	表示	「月」のみ表示
	表示	「月」のみ表示

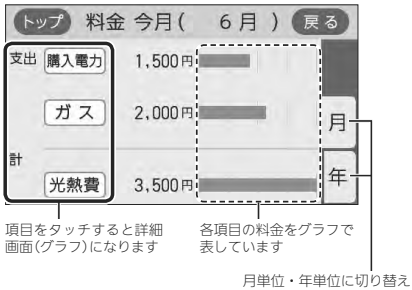
各エネルギーの状況を料金で確認する

- 各エネルギーの料金、料金全体の比率、エネルギー項目ごとの詳細(グラフ)を、月・年単位で確認できます。詳細グラフでは現時点の目標と今月の目標も表示するので、省エネの意識づけに役立ちます。
- 料金単価の設定は、P17「料金設定」の方法で変更できます。

手順

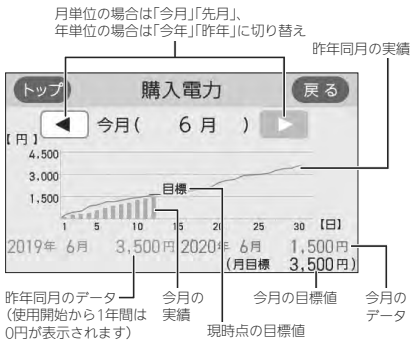
1. トップ画面で【メニュー】をタッチする
2. 【エネルギー】→【料金】をタッチする

(表示例)



項目をタッチすると詳細画面(グラフ)になります
各項目の料金をグラフで表しています
月単位・年単位に切り替え

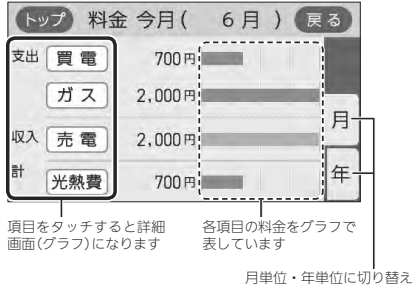
(購入電力の「月」の詳細画面例)



月単位の場合は「今月」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え
昨年同月の実績
昨年同月のデータ (使用開始から1年間は実績0円が表示されます)
今月の実績
今月の目標値
今月のデータ

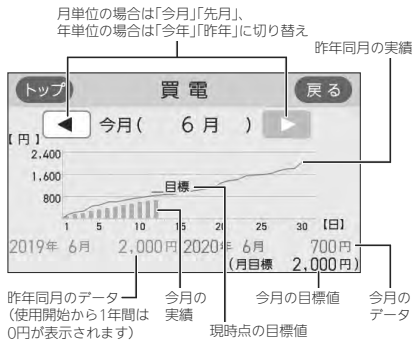
- 光熱費とは、購入電力・ガスの使用料金を合計したものです。
- 「目標」は「今月」のみ表示します。

(逆潮流の場合の表示例)



項目をタッチすると詳細画面(グラフ)になります
各項目の料金をグラフで表しています
月単位・年単位に切り替え

(逆潮流の場合/買電の「月」の詳細画面例)



月単位の場合は「今月」「先月」、年単位の場合は「今年」「昨年」に切り替え
昨年同月の実績
昨年同月のデータ (使用開始から1年間は実績0円が表示されます)
今月の実績
今月の目標値
今月のデータ

- 光熱費とは、買電力と売電力の差・ガスの使用料金を合計したものです。
- 売電力の「目標」の値は表示しません。
- 「目標」は「今月」のみ表示します。

お知らせ

- 昨年の値がない場合は、目標値を自動的に算出します。(P18「目標値とは」)

使用開始から現在までの発電の累積値を確認する

手順

1. トップ画面で【メニュー】をタッチする
2. 【エネルギー】→【累積発電量】をタッチする

(表示例)



- 料金は千円単位で表示します。(千円未満切り捨て)
- 発電量の料金は、電気の料金単価を元に表示します。自家用の料金は、買電の料金単価を元に表示します。(P17)
- 逆潮流の場合、「発電量」の表示が、「売電量」「自家用」になります。

エネルギーの設定を変える

- エネルギーをより便利に使うために、お好みに合わせて設定が変更できます。

エネルギーメニュー	項目	設定内容	初期設定
料金設定 (P17)	電気 ※1	0~999円/kWh	20円/kWh
	買電 ※1	0~999円/kWh	20円/kWh
	売電 ※1	0~999円/kWh	13円/kWh
	ガス	0~999円/m ³	100円/m ³
目標値設定 (P17)	電気代	50~150%	100%
	ガス代	50~150%	100%
トップ画面の表示内容 (P18)	目標達成アイコン	アイコンの表示 あり [なし]	あり
	対象	※2 光熱費 購入電力	光熱費
エネルギー初期化 (P18)	開始		-

※1: 逆潮流の場合、「電気」ではなく「買電」「売電」を表示します。

※2: 逆潮流の場合、「購入電力」は「買電」になります。

料金設定

- 料金単価は「ガス使用量のお知らせ」「電気使用量のお知らせ」などの明細書を参考にしてください。(各明細書について不明な場合は、ガス供給事業者・電気供給事業者にお問い合わせください)

手順

1. 【メニュー】→【エネルギー】→【エネルギー設定】をタッチする

2. 【料金設定】をタッチする



3. 設定したい項目の【▶】をタッチする



- 逆潮流の場合は、「電気」ではなく「買電」と「売電」の料金設定ができます。

4. 料金を変更 → 【決定】をタッチして確定する



- 【決定】をタッチしないと、設定は完了しません。
- 変更後の単価は、過去のデータにも反映されます。

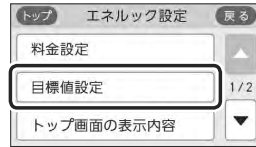
目標値設定

- <目標値のヒント> 昨年実績と同じ程度の電気代・ガス代でよい場合は100%に、昨年より節約したい場合は100%より少なく、昨年より多く使用する見込みがある場合などは100%より多く設定してください。

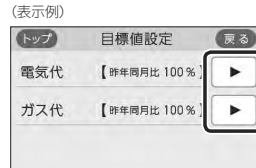
手順

1. 【メニュー】→【エネルギー】→【エネルギー設定】をタッチする

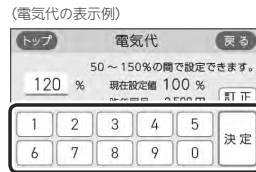
2. 【目標値設定】をタッチする



3. 設定したい項目の【▶】をタッチする



4. 目標値を変更 → 【決定】をタッチして確定する



- 【決定】をタッチしないと、設定は完了しません。
- 「昨年同月」の値は、初年度は0円になります。

(つづく)

エネルギー

目標値とは

- 昨年※の同月の実績値を基準として、「今月の目標値」が算出されます。
 - 「目標達成アイコン」(P12)での「目標値」は、今月の目標値を日割りした値と、月のはじめから昨日までの日数分をかけたものです。
 - 【料金】(P15)で表示される「現時点の目標値」は、今月の目標値を日割りした値と、月のはじめから今日までの日数分をかけたものです。
- ※使用開始から14ヶ月に満たない場合は、以下の値を基準として算出されます。
- ・ 使用開始から2か月以内：『総務省統計局の「平成27年以降の結果—二人以上の世帯」のデータ』を参考にした値
 - ・ 使用開始から3か月～13か月：先月の使用状況から予測した値

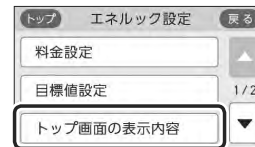
トップ画面の表示内容

- トップ画面の目標達成アイコンを表示するかしないか・目標達成アイコンでどのエネルギーの状態を表示するかを変更できます。

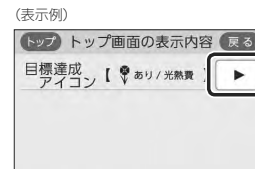
手順

1. 【メニュー】→【エネルギー】→【エネルギー設定】をタッチする

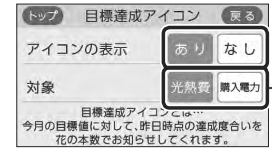
2. 【トップ画面の表示内容】をタッチする



3. 「目標達成アイコン」の【▶】をタッチする



4. 変更したい項目の設定をタッチする



逆潮流の場合、対象は「光熱費」か「買電」かを選べます。

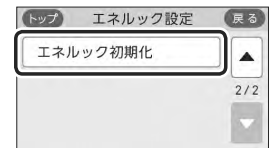
エネルギー初期化

- 変更したエネルギー設定の値や、エネルギーデータ(数値・グラフ)を初期化できます。

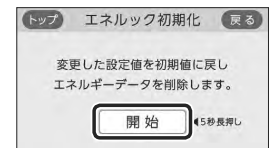
手順

1. 【メニュー】→【エネルギー】→【エネルギー設定】をタッチする

2. 右下の▼でページを送り、【エネルギー初期化】をタッチする



3. 【開始】を約5秒長押しする(ピピッと鳴るまで)

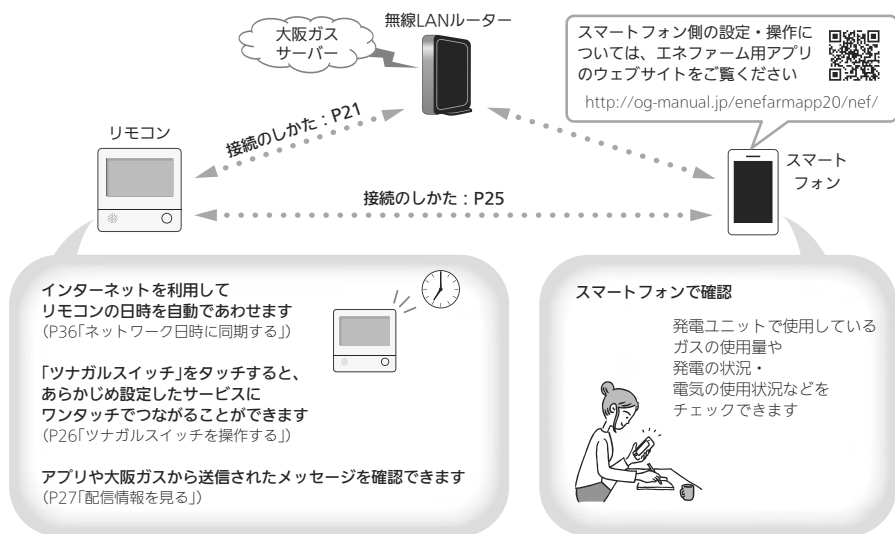


お知らせ

- 累積発電量(P16)は初期化されません。
- 初期化しても、当日分の数値やグラフは表示します。

無線LANルーターと接続してできること

- リモコンを無線LANルーターに接続すると、インターネットを利用した下記に示すサービス等がご利用いただけます。ご利用にはお客さまによる設定が必要です。この取扱説明書では、リモコンと無線LANルーター、リモコンとスマートフォンの設定を説明しています。
- 下記の無線LAN機能を使用するには、リモコンで「無線LAN」の設定を【ON】にしておく必要があります。(P22の手順1~4)

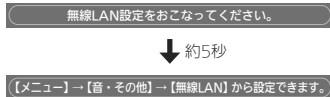


無線LAN機能のご使用について

- サービスのご利用には常時接続のインターネット環境が必要となります。
- インターネット環境・無線LAN環境・スマートフォンはお客さまでご準備ください。
- ご使用の無線LANルーター、スマートフォン、通信環境によってはご利用できない場合があります。
- リモコンが大阪ガスサーバーと通信するため、インターネットの通信費がかかります。
- インターネット、スマートフォンのご利用に関わる料金は、お客さまご自身でお支払いください。
- リモコンや発電ユニットのソフトウェアを大阪ガスサーバーから自動的にダウンロードし、更新する場合があります。
- アプリのサービス内容などは予告なく変更することがあります。

トップ画面に「無線LAN設定をおこなってください」の表示が出ているとき

無線LANルーターと接続するまでお知らせ表示をします
リモコンと無線LANルーターを接続するまでは、トップ画面上方に下記のようなお知らせをくりかえし表示します。(状況によっては、あいだに違うお知らせ表示はさむこともあります)
P21~24の方法でリモコンと無線LANルーターを接続すると、お知らせ表示は消えます。



無線LANルーターと接続するまでのあいだ、一時的にお知らせ表示を消したいときは

- P38「無線LAN機能をOFFにする」の方法で、「無線LAN」を【OFF】にしてください。
- ※無線LANルーターと接続する際には「無線LAN」を【ON】に戻してください。(【OFF】の状態では接続できません)

使用できる無線LANルーター

- IEEE802.11bまたはg.nに対応していること
無線LANルーターの本体(側面や底面)に貼り付けられているシールや、パッケージの表示で確認できます。詳しくは、無線LANルーターの取扱説明書をご確認ください。
 - セキュリティに関する設定が「WPA/WPA2」「WPA2」「WPA」いずれかの暗号化方式に対応していること
無線LANルーターの取扱説明書をご確認ください。
 - DHCPサーバー機能を搭載していること
無線LANルーターの取扱説明書をご確認ください。
- ※モバイルルーターやテザリングではご使用いただけません。

無線LAN通信についての注意

- このリモコンの使用周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)、特定小電力無線局(免許を要しない無線局)、アマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。
- このリモコンを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、このリモコンから移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合は、「無線LAN」の設定を【OFF】にし、販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。
 - その他、このリモコンから移動体識別用の特定小電力無線局がアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにお問い合わせください。
 - このリモコンに表示した **2.4DS/OF4** は、次の内容を表します。

2.4	使用周波数帯域が2.4GHz帯であることを表します
DS/OF	変調方式が、DS-SS(直接拡散)方式およびOFDM(直交波周波数分割多重)方式であることを表します
4	想定される干渉距離が40m以下であることを表します
— — —	使用周波数の全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域の回避が可能であることを表します

無線LANルーター使用時のセキュリティに関する注意

- 無線LANルーターをご使用になる前に、無線LANルーターのセキュリティに関する設定が「WPA/WPA2」「WPA2」「WPA」の暗号化方式であることを確認してください。これら以外のセキュリティ設定(WEPや暗号化なし)をおこなうと、無線LANルーターに接続できません。「WPA/WPA2」「WPA2」「WPA」の暗号化方式で無線LANルーターに接続することで、以下のようなセキュリティ問題が発生する可能性が少なくなります。
悪意ある第三者が、無断で個人のネットワークへアクセスし、
・個人情報や機密情報を取り出す(情報漏えい)
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
・傍受した通信内容を書き替えて発信する(改ざん)
・コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
- 本件のために生じた損害について、当社に責めのある場合を除き、当社は一切の責任を負い兼ねますのであらかじめご了承ください。

無線LANルーターを交換するとき

- 無線LANルーターを交換したら、以下の手順で接続設定をやり直してください。
- ① リモコンと無線LANルーターとの接続(P21)をする
 - ② 「接続ルーター情報」(P39)で、交換した無線LANルーターのSSIDになっていることを確認する

ご使用のスマートフォンを変更するとき

機種変更、修理交換、譲渡等で、リモコンと接続されているスマートフォンを手放す場合は、手放す前に、そのスマートフォンのエネファーム用アプリから接続を解除してください。
接続されたままだと、第三者にそのスマートフォンからお客さまのエネファームの使用状況を見られるおそれがあります。
接続を解除し忘れた場合は、リモコンで「スマートフォンとの接続全解除」(P28)をしてください。(ただし、接続されているすべてのスマートフォンが接続解除されます)

リモコンと無線LANルーターを接続する

電波法に関する注意

このリモコンは、電波法に基づく特定小電力無線機器として、技術基準適合証明を受けています。したがって、このリモコンを使用するときに無線局の免許は必要ありません。

- 分解、改造をしないでください。分解、改造は法律で禁止されています。

このリモコンは、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明を受けています。その証明となる「技術マーク」はリモコンで確認できます。(P40「認証」)

- このリモコンは日本国外での電波法には準じていません。日本国内でご使用ください。

- 操作前に必ず以下の内容をご確認いただき、同意いただいた上で、無線LANルーターとの接続を実施してください。

無線LANルーターに接続すると、機器の稼働状況や機器が計測したエネルギーデータなどをサーバーへ自動的に送信します。これらの情報はエネファームの運転状況の見守りや、商品、サービスの開発・改良などの目的で使用されます。

準備

①日時あわせ(P10)をしておく

- 「ネットワーク日時に同期」(P36)が【有効】になっていれば、日時あわせの必要はありません。

②無線LANルーターの以下の設定を確認する

- 無線LANルーターのセキュリティに関する設定が「WPA/WPA2」「WPA2」「WPA」の暗号化方式であること
 - 無線LANルーターのDHCP機能が「有効」に設定してあること
 - 無線LANルーターがステルス設定(SSIDの隠蔽状態)となっていないこと
- ※これら以外の設定では接続できません。

③無線LANルーターに自動接続設定用のプッシュボタンがあるかどうか確認しておく

- プッシュボタンがない場合、またはわからない場合は、無線LANルーターのSSIDと暗号化キーを控えておいてください。(自動接続設定用のプッシュボタンの有無により、あとの手順が異なります)

④無線LANルーターの電源を入れる

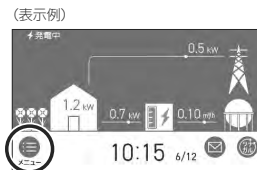
⑤無線LANルーターがインターネットにつながっていることを確認する

- 無線LANルーターの自動接続設定用のプッシュボタンや各設定については、無線LANルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 無線LANルーターのSSID・暗号化キーについては、無線LANルーターの本体に貼ってあるラベルまたは取扱説明書をご覧ください。

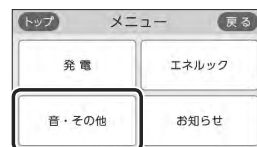
無線LAN機能

手順

1. 【メニュー】をタッチする



2. 【音・その他】をタッチする



3. 右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする



4. 「無線LAN」が【ON】であることを確認する



- 【OFF】になっている場合は【ON】にしてください。

5. 「無線LAN設定」の【▶】をタッチする

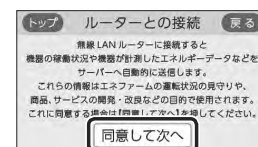


6. 「ルーターとの接続」の【▶】をタッチする



- 「ルーターとの接続」の【▶】がグレーになり設定ができないときは、手順4で「無線LAN」が【ON】になっているか確認してください。

7. 表示内容を確認し、【同意して次へ】をタッチする



- 無線LANルーターに自動接続設定用のプッシュボタンがある場合

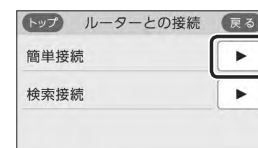
→この続きの「簡単接続」の手順8へ

- 無線LANルーターに自動接続設定用のプッシュボタンがない場合/わからない場合

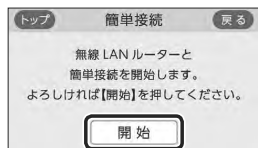
→P23「検索接続」の手順8へ

簡単接続 (無線LANルーターに自動接続設定用のプッシュボタンがある場合)

8. 「簡単接続」の【▶】をタッチする



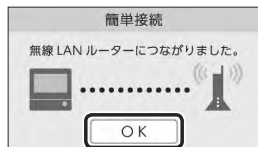
9. 【開始】をタッチする




10. 2分以内に、無線LANルーターの自動接続設定用のプッシュボタンを長押しする

- ボタンの操作方法(長押しのタイミングなど)は、無線LANルーターによって異なります。無線LANルーターの取扱説明書をご覧ください。

11. この画面になったら【OK】をタッチする



- 無線LANルーターの機種や電波状態によって、接続までの時間は異なります。
- 無線LANルーターに接続すると、トップ画面に無線LAN状態表示を表示します。
- 無線LANルーターに接続した直後に、「処理中です。しばらく待ってから再度操作してください。」と表示されることがあります。続けて無線LAN機能に関する操作をしたい場合は、10分程度時間をおいてから操作してください。

「無線LANルーターとの接続に失敗しました」のメッセージを表示したとき

① 次のことを確認する

- ・無線LANルーターの電源が切れていないか
→電源を入れる
- ・無線LANルーターやリモコンの近くで、電子レンジが動作していないか
→電子レンジが動作していないときに接続操作をする
- ・無線LANルーターがリモコンと離れすぎているか
→無線LANルーターがつながる場所に無線LANルーターを移動させる

②【OK】をタッチし(手順8の画面に戻ります)、再度「検索接続」の手順8からやり直す

- ①の内容を確認後、手順8からやり直しても接続できない場合は、次の項の「検索接続」で接続してください。

失敗画面にならずトップ画面になったとき

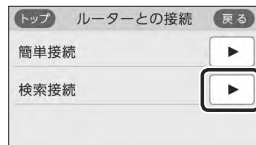
①無線LANルーターのDHCP機能が「有効」になっていない場合は、「有効」にし、無線LANルーターが起動するまで待つ

②P22の手順1から再度設定をおこなう

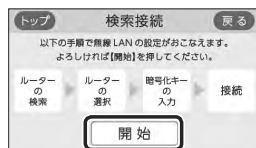
※このとき、リモコンに「処理中です。しばらく待ってから再度操作をしてください。」というメッセージが表示された場合は、もう少しばかり待ち(10分程度)、メッセージが出なくなってから設定をおこなってください。

検索接続(無線LANルーターに自動接続設定用のプッシュボタンがない場合/わからない場合)

8. 「検索接続」の【▶】をタッチする



9. 【開始】をタッチする



10. 接続したい無線LANルーターのSSIDを探して、【▶】をタッチする

※接続したいSSIDが表示されていない場合は、右下の▼でページを送る



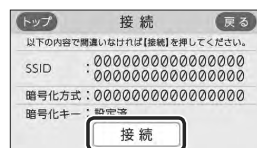
- 暗号化方式がWEP方式の無線LANルーターや暗号化されていない無線LANルーターは、表示されません。
- 実際の画面では、「0」の部分はお客さまの環境で受信しているSSIDが表示されます。

(つづく)

11. 無線LANルーターの暗号化キーを入力 →【決定】をタッチして確定する




12. 内容が間違いないか確認してから【接続】をタッチする



- 実際の画面では、「0」の部分はお客さまの環境で受信しているSSIDが表示されます。

13. この画面になったら【OK】をタッチする



- 無線LANルーターの機種や電波状態によって、接続までの時間は異なります。
- 無線LANルーターに接続すると、トップ画面に無線LAN状態表示を表示します。
- 無線LANルーターに接続した直後に、「処理中です。しばらく待ってから再度操作してください。」と表示されることがあります。続けて無線LAN機能に関する操作をしたい場合は、10分程度時間をおいてから操作してください。

「無線LANルーターとの接続に失敗しました」のメッセージを表示したとき

「無線LANルーターが見つかりませんでした」のメッセージを表示したとき

① 次のことを確認する

- ・無線LANルーターの電源が切れていないか
→電源を入れる
- ・無線LANルーターやリモコンの近くで、電子レンジが動作していないか
→電子レンジが動作していないときに接続操作をする
- ・無線LANルーターがリモコンと離れすぎているか
→無線LANルーターがつながる場所に無線LANルーターを移動させる
- ・暗号化キーを間違えていないか

②【OK】をタッチし(手順8の画面に戻ります)、再度「検索接続」の手順8からやり直す

- ①の内容を確認後、手順8からやり直してもなお接続できない場合や、無線LANルーターが見つからないが続く場合は、無線LANルーターが正常に動作しているか確認してください。また、近くに電波を妨害するものがある可能性があります。無線LANルーターの取扱説明書やホームページなどをご覧ください。

失敗画面にならずトップ画面になったとき

①無線LANルーターのDHCP機能が「有効」になっていない場合は、「有効」にし、無線LANルーターが起動するまで待つ

②P22の手順1から再度設定をおこなう

※このとき、リモコンに「処理中です。しばらく待ってから再度操作をしてください。」というメッセージが表示された場合は、もう少しばかり待ち(10分程度)、メッセージが出なくなってから設定をおこなってください。

リモコンとスマートフォンを接続する

準備

①日時あわせ(P10)をしておく

- 「ネットワーク日時に同期」(P36)が【有効】になっていれば、日時あわせの必要はありません。

②トップ画面に無線LAN状態表示が表示されていることを確認する(出ていない場合は、P22の手順1~4をおこなう)

③スマートフォンと無線LANルーターを接続する

- リモコンとスマートフォンは、同じ無線LANルーターの同じSSIDに接続してください。

④スマートフォンにエネファーム用アプリをダウンロードし、アプリを立ち上げる

- スマートフォン側の設定・操作については、エネファーム用アプリのウェブサイトをご覧ください。
<http://og-manual.jp/enefarmapp20/nef/>



手順



1. 【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする

2. 「無線LAN設定」の【▶】をタッチする

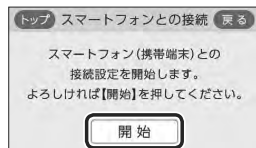


3. 「スマートフォンとの接続」の【▶】をタッチする



- 「スマートフォンとの接続」の【▶】がグレーになり設定ができないときは、以下を確認してください。
 - 手順2で「無線LAN」が【ON】になっているか
 - トップ画面に無線LAN状態表示やが表示されているか

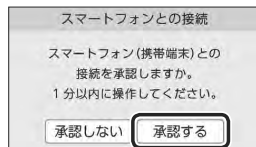
4. 【開始】をタッチする



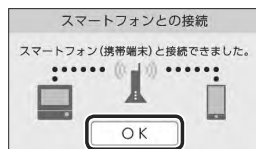
5. 3分以内に、スマートフォンのエネファーム用アプリを立ち上げ、アプリの説明に従って操作する

- スマートフォンの操作をせずに約3分経過すると、接続失敗画面になります。

6. この画面になったら【承認する】をタッチする



7. この画面になったら【OK】をタッチする



「スマートフォン(携帯端末)との接続に失敗しました」のメッセージを表示したとき

①次のことを確認する

- リモコンとスマートフォンは、同じ無線LANルーターのSSIDに接続されているか
→同じ無線LANルーターの同じSSIDに接続する
- 無線LANルーターやリモコン・スマートフォンの近くで、電子レンジが動作していないか
→電子レンジが動作していないときに接続操作をする
- 無線LANルーターがリモコンやスマートフォンと離れすぎていないか
→無線LANルーターがつながる場所に無線LANルーターを移動させる

(つづく)

無線LAN機能

ツナガルスイッチを操作する

準備

- リモコンの「ツナガルスイッチ」をタッチすると、あらかじめ設定したサービスにワンタッチでつながることができます。
- 「ツナガルスイッチ」を利用するには、リモコンと無線LANルーターとの接続(P21)、リモコンとスマートフォンの接続(P25)が必要です。

準備

エネファーム用アプリでサービスを設定しておく

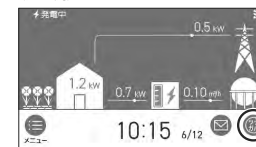
- 設定できるサービスや設定方法については、下記のURLから確認してください。
<http://og-manual.jp/enefarmapp20/nef/tsunagaru/>



手順



1. トップ画面で【ツナガル】をタッチする

(表示例)



- 「ツナガルスイッチ」の操作が受け付けられたら、「送信完了しました。」の画面を3秒間表示します。

リモコンにメッセージを表示したとき

- 「通信が実施できません。通信状態や無線LAN設定をご確認の上 再度実施してください。」と表示したとき
- リモコンと無線LANルーターが接続されているか
→接続されていない場合は、リモコンと無線LANルーターを接続し(P21)、再度操作する
- 「無線LAN」メニューの「無線LAN」の設定が【OFF】になっていないか
→【OFF】になっている場合は【ON】にし、再度操作する
- トップ画面の無線LAN状態表示(P8)がになっているか
→なっていない場合は、P44「リモコンの無線LAN状態表示」の項目を確認し、無線LAN状態表示がになった状態で再度操作する

配信情報を見る

- 「アプリの設定後に再度実施してください。」と表示したとき

エネファーム用アプリでサービスの設定をしてから、再度操作する

- 「サーバーへの通信に失敗しました。」と表示したとき

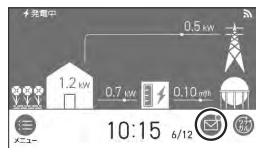
メンテナンス等で一時的にサーバーに接続できない場合があるため、少し時間をおいて再度操作する

- アプリまたは大阪ガスから送信されたメッセージを確認できます。
- 配信情報を受信するためには、リモコンと無線LANルーターとの接続(P21)が必要です。

手順

1. トップ画面で【配信情報】をタッチする

(表示例)



- 未読のメッセージがあると、表示が📧になります。

2. 確認したい項目の【▶】をタッチする



- メッセージは最大3件まで記憶します。(3件以上になると古いメッセージから順に上書きされます)

お知らせ

- 重要な配信情報を受信したときは、音声が鳴る場合があります。
- 配信情報を受け付けたくない場合は、P39「配信情報を受け付けないようにする」を【OFF】に設定してください。

お知らせ

最後に受け付けられた「ツナガルスイッチ」の操作を確認することができます。(P40「ツナガルスイッチ操作履歴」)

すべてのスマートフォンとの接続を解除する

- リモコンに接続されているすべてのスマートフォンの接続を解除できます。個別の接続解除はスマートフォンでおこなってください。

手順

1. 【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする

2. 「無線LAN」が【ON】であることを確認する

- 【OFF】になっている場合は【ON】にしてください。

3. 「無線LAN設定」の【▶】をタッチする

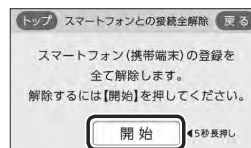


4. 「スマートフォンとの接続全解除」の【▶】をタッチする



- 「スマートフォンとの接続全解除」の【▶】がグレーになり設定ができないときは、手順2で「無線LAN」が【ON】になっているか確認してください。

5. 【開始】を約5秒長押しする



自立運転機能付の場合

停電時に電気をを使う

<自立運転>

⚠危険

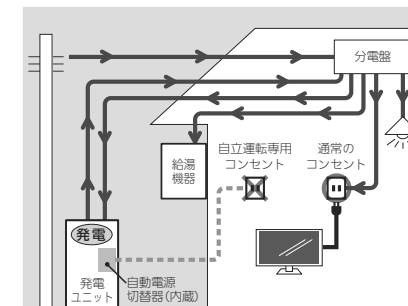
⊘ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は、自立運転しない
禁止 火災などの原因になります。

停電時にも電気が使える「自立運転」のしくみ

- 発電ユニットの発電中に停電した場合、発電ユニットは自立運転によって発電を継続するので、電気を使うことができます。(自立運転のために必要な工事をおこなっている場合です)
- 電気機器は自立運転専用コンセントを通して使用できます。(自立運転専用コンセントには「エネファーム」/「停電時自立発電専用」/「出力電力約700W」と表示しています。事前に設置場所を確認してください)
- 自立運転時の発電量は約700Wです。
- 給湯機器の電源は入らなくなりますが、給湯栓を開ければ約30℃のお湯が出る場合があります。
- 自立運転は、停電時のみ使用してください。(普段使用すると、本来の機能やメリットが損なわれ、故障の原因となります)

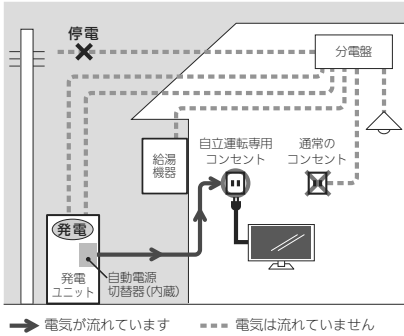
使用するコンセントと電気の流れ

通常 発電ユニットで作られた電気と、電力会社から供給された電気を併用します



→ 電気が流れています --- 電気が流れていません

停電時 発電ユニットで作られた電気を
自立運転専用コンセントから供給します



消費電力が大きく発電が停止する可能性がある電気機器の例

- ・冷蔵庫
- ・電子レンジ
- ・オーブントースター
- ・食洗機
- ・洗濯機
- ・衣類乾燥機
- ・温水洗浄便座
- ・掃除機
- ・こたつ
- ・エアコン
- ・電気カーペット

使用できない電気機器の例(消費電力の目安)



使用してはいけない電気機器

- ・電源が切れると生命・財産に損害を受けるおそれのある機器
- ・バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器
- ・すべての医療用機器
- ・灯油などを用いた暖房機器

警告

ガスファンヒーターの使用について

- ・ガスファンヒーターを使用中は部屋の換気に注意する。必ず1時間に1~2回(1~2分)程度、窓を開けるなどして換気をおこなってください。
- ・自立運転専用コンセントで使用できる電力が少なく、ガスファンヒーターを使用すると過負荷で停電する場合は使用しない。
- ・ガスファンヒーター運転中に停電が発生したときは温風の吹出口や機器背面(エアフィルタ部や取手部分)に手を触れない。(やけどのおそれ)
- ・自立運転専用コンセントでガスファンヒーターを使用しているときに異常を感じた場合には、ただちにガス栓を閉めてガスファンヒーターの使用を中止し、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。

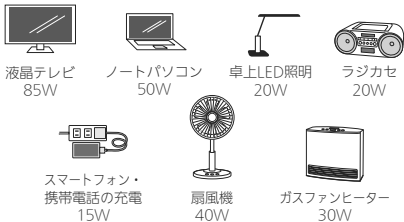
以下の場合自立運転できません

- 発電ユニットの停止中に停電した場合
- 災害などでガスの供給が停止している場合
- 自立運転開始後に、「不在停止」(P34)や「発電禁止」(P35)などで自立運転を停止させた場合

停電に備え、使用できる電気機器を確認しておいてください

- 使用する電気機器の消費電力の合計が700Wを超えないよう、取扱説明書や本体の表示シールなどで電気機器の消費電力を確認してください。
- 使用電力が発電量を超えると、電気機器の使用中に電気が使えなくなります。

使用できる電気機器の例(消費電力の目安)



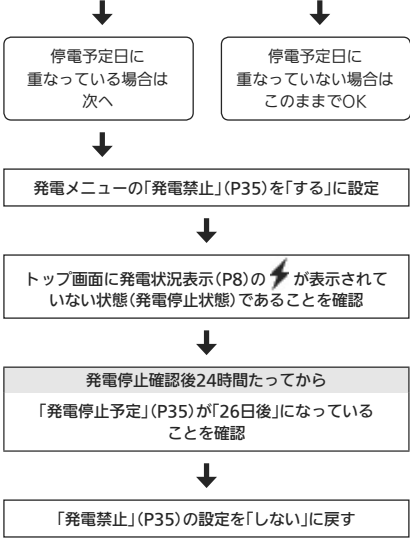
計画停電や工事などで停電が予定されている場合は

- 26日間毎日発電すると、4時間から9時間発電が停止するしくみになっています。自立運転と発電が停止するタイミングが合うと、自立運転ができなくなります。停電予定日がわかっている場合は、事前に次の確認と操作をして、スムーズに自立運転ができるよう備えてください。

停電予定日の2日以上前には、この確認・操作をおこなってください

①「発電停止予定」(P35)で、何日後に発電停止が予定されているか確認する
(表示例の場合、「7日後」となる)

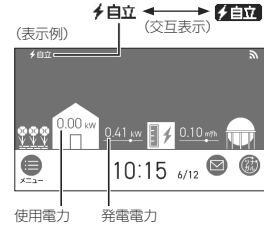
②①で確認した日と前後の日が、停電予定日と重なっているかどうか確認する
(表示例の場合、「6日後、7日後、8日後」となる)



停電したら(自立運転のしかた)

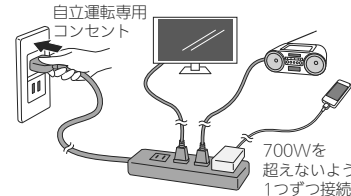
手順

1. トップ画面で「自立」が交互表示していることを確認する



- 「自立用コンセントの出力を準備中です。」の画面を表示している間は、準備中のためまだ電気は使えません。
- 自立運転開始後は、すぐには700Wは使用できません。発電電力は徐々に上昇し、700W(表示は0.70kW)になるまでに約1分かかります。(ただし、発電ユニットの状態によっては1分以上かかることがあります)

2. 電気機器の電源プラグを自立運転専用コンセントに差し込む(電気機器が使えます)



- 使用する電気機器との合計が発電電力(最大700W)を超えないよう使用電力表示を見ながら、1つずつ電気機器を追加してください。(P29「停電に備え、使用できる電気機器を確認しておいてください」)
- <電気機器の電源を入れたとき>電気機器の種類によっては一時的に使用できない場合があります。90秒ほど待つと使用できるようになるため、電気機器をつないだままにしてください。※約90秒待っても使用できない場合は、使用電力が発電量を超えているため、すぐに電気機器の数を減らしてください。

ガスの供給停止中に お湯を使う<ヒーター給湯>

- 発電ユニット内の貯湯タンクが満タンになると、自立運転ができなくなります。自立運転中は、なるべくお湯を使用するようにしてください。
- 使用できない電気機器・使用してはいけない電気機器があるので、ご注意ください。(P29)
- 停電中、発電を停止すると、停電が復旧するまで発電をおこなうことができません。

電気機器の使用中に電気が使えなくなったとき (使用電力が発電量を超えています)

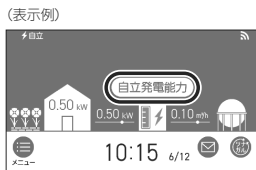
- ① 接続した電気機器をすぐに取り外す
 - ② リモコンのトップ画面に「自立」が交互表示するまで待つ
 - ③ 「自立」が交互表示したら、手順2に従って使用する
- しばらくしても自立運転が復帰せず、リモコンに「自立用コンセントの出力が準備できました。使用する電気を減らし【再開】を押してください。」とメッセージを表示しているときは、メッセージに従って操作をしてください。(自立運転が復帰します)

高出力モードで自立運転をする

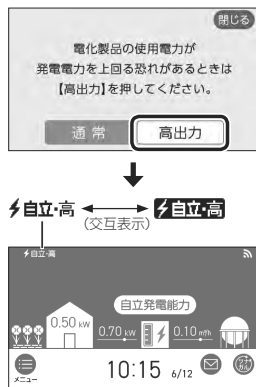
自立運転時の発電量は700Wですが、条件によっては700W出力できないことがあります。トップ画面に【自立発電能力】が表示されている間は、強制的に700Wまで出力を上げることができます。以下の手順で高出力モードに設定して使用してください。

手順

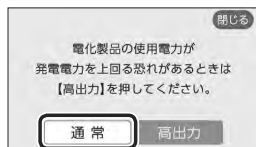
1. トップ画面の【自立発電能力】をタッチする



2. 【高出力】をタッチする



3. 700Wの出力が不要になれば、手順1～2の操作で【通常】をタッチして通常モードに戻す



- 700Wで使用し続けると、発電が停止しやすくなりますので、こまめに通常モードに戻してください。

以下の状況では、高出力モードが自動的に解除されます

- ・ 自立運転専用コンセントの使用電力が少ない
- ・ 外気温が高い
- ・ お湯使用量が少ない

再度、高出力モードで使用したい場合は、【自立発電能力】が表示されるまでお湯を使用してください。

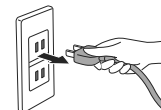
自立運転を停止させるには

「発電禁止」(P35)を【する】に設定し、発電を停止させる

- 発電を停止させると、停電が復旧するまで発電できません。

停電が復旧したら

電気機器の運転スイッチを切り、電気機器の電源プラグを自立運転専用コンセントから抜く



- 停電が復旧すると、自立運転専用コンセントへの電気の供給が停止します。
- 電気機器をつないだままにすると、次回の自立運転時に接続した機器に突然電気が流れ、機器を損傷したり、突然の動作による事故の原因になります。

停電時やガスの供給停止中

メニューから運転操作をする・設定を変える(ユーザー設定)

- 各メニューから運転操作ができたり、いろいろな設定を変更できます。以下の一覧から、参照ページに記載の手順で操作してください。
- 表中の「初期化」欄の★は、P42「ユーザー設定を初期値に戻す」を実行したときに初期化される項目です。

	変更(操作)できる内容	参照ページ	初期設定(工場出荷時)	初期化
発電	ヒーター給湯をする ※1	P32	しない	—
	発電が停止しているときに、発電を再開する ※2	P34	—	—
	何日か不在にするときなどに、発電をしばらく停止させる(不在停止)	P34	しない	—
	今までに発電を停止した回数を確認する	P34	—	—
	発電ユニットが停止するまでの日数を確認する	P35	—	—
	発電ユニットの水抜きをするときなどに、強制的に発電を停止させる(発電禁止)	P35	しない	—
音・その他	リモコンの音量を変更する	P35	中	★
	音声ガイド(声によるお知らせ)を消す(鳴らす)	P35	する	★
	日時をあわせる	P10	—	—
	時刻のずれを補正する	P36	0	—
	ネットワーク日時に同期する	P36	有効	★
	タッチ位置のずれを直す	P36	—	—
	画面の明るさを変更する	P37	3段	★
	表示の節電をしない(する) リモコン操作がない間は日時を大きく表示させる	P37	する	★
	表示の節電をするまでの時間を短くする	P37	標準	★
	トップ画面のモードを変更する	P9	ライト	★
	無線LAN機能をOFFにする	P38	ON	★
	リモコンと無線LANルーターを接続する	P21	—	★
	リモコンとスマートフォンを接続する	P25	—	★
	すべてのスマートフォンとの接続を解除する	P28	—	—
	通信機能をリセットする	P38	—	—
	配信情報を受け付けないようにする	P39	ON	★
	無線LANに関する設定情報を確認する	P39	—	★
	タッチパネルのお手入れをする	P40	—	—
	発電ランプの明るさを変更する	P40	明るい	★
	発電ランプの節電お知らせ設定値を変更する ※3	P40	1.2kW	★
発電ユニットの水抜きをする	P41	—	—	
発電ユニットの水張りをする	P41	—	—	
アフターサービスなどで機器情報が必要なとき	P41	—	—	
ユーザー設定を初期値に戻す	P42	—	—	

※1:「発電禁止」を「する」にしている、発電ユニットがヒーター給湯可能な状態にある場合に表示します。

※2: 電気使用量が少ない状態が続いて発電が停止しているときに表示します。

※3: 逆流流の場合は表示しません。

停電時やガスの供給停止中

メニューからの運転・設定(ユーザー設定)

ヒーター給湯をする

- P32「ガスの供給停止中にお湯を使う<ヒーター給湯>」で説明しています。

【する】
自動的に画面が消灯し、発電を停止する(凍結予防運転は停止しません)

【しない】
不在停止を解除する

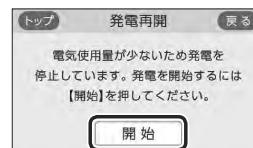
- 不在停止を【する】に設定したあと再度【しない】に設定した場合は、発電ユニットの停止動作が完了してから発電ユニットを起動します。
- 長期不在時に凍結のおそれがある場合は、この方法ではなく水抜きが必要です。(「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書)
- 必要なとき以外は、不在停止を【する】にしないでください。機器の寿命低下の原因になります。
- 不在停止を【する】に設定してから約5時間たったあと、給湯栓からお湯(水)を出すか、タッチパネルをタッチまたはON/OFFスイッチを押すと、自動的に不在停止は解除されます。

発電が停止しているときに、発電を再開する

- 電気使用量が少ない状態が続いたために発電が停止しているとき(⏻が点灯しているとき)、この操作で発電を再開できます。
- 電気使用量が少ない状態が続くと、発電がムダになるのを防ぐため、翌月1か月間発電を停止するしくみになっています。

手順

- ①【メニュー】→【発電】→【発電再開】をタッチする
- ②【開始】をタッチする

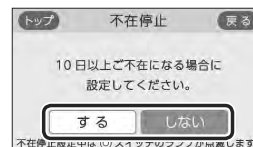


何日か不在にするときなどに、発電をしばらく停止させる(不在停止)

- 10日以上家をあけるなど、しばらく発電の必要がないときに設定してください。
- ※10日以上お湯を使用せず、リモコン操作もしない状態が続くと、自動的に不在停止になります。

手順

- ①【メニュー】→【発電】→【不在停止】をタッチする
- ② 設定したい内容をタッチする

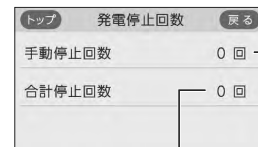


今までに発電を停止した回数を確認する

手順

- ①【メニュー】→【発電】→【発電停止回数】をタッチする

(表示例)



手動停止回数と発電ユニットが自動で停止した回数の合計

P34「不在停止」とP35「発電禁止」により手動で停止した回数

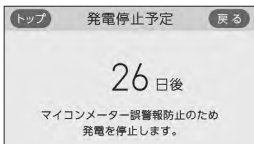
発電ユニットが停止するまでの日数を確認する

- 26日間毎日発電すると、ガスマイコンメーターの誤警報防止のために発電が4時間から9時間停止するしくみになっています。

手順

- ①【メニュー】→【発電】→【発電停止予定】をタッチする

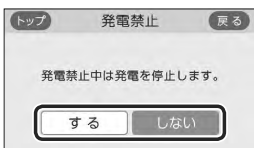
(表示例)



発電ユニットの水抜きをするときに、強制的に発電を停止させる(発電禁止)

手順

- ①【メニュー】→【発電】→【発電禁止】をタッチする
※項目が表示されていない場合は、右下の▼でページを送る
- ② 設定したい内容をタッチする



【する】
発電ユニットを停止する(停止するまでに時間がかかります)

【しない】
発電禁止を解除する

- 必要なとき以外は、発電禁止を【する】にしないでください。機器の寿命低下の原因になります。
- 発電禁止を【する】に設定したあと再度【しない】に設定した場合は、発電ユニットの停止動作が完了してから発電ユニットを起動します。

リモコンの音量を変更する

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→【音】をタッチする
- ②「音量」の【▶】をタッチする
- ③【-】【+】で変更する

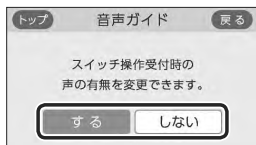


- 「音声ガイド(声によるお知らせ)」のみ消したいとき→P35「音声ガイド(声によるお知らせ)」を消す(鳴らす)

音声ガイド(声によるお知らせ)を消す(鳴らす)

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→【音】をタッチする
- ②「音声ガイド」の【▶】をタッチする
- ③ 設定したい内容をタッチする



日時あわせをする

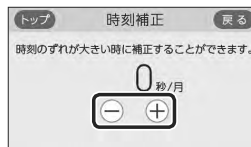
- P10「日時をあわせる」で説明しています。

時刻のずれを補正する

- 無線LANルーターと接続すると、インターネットを介して自動で日時を取得するため「時刻補正」の必要はありません。(ただし、「無線LAN」の設定(P38)を【OFF】にしたり、「ネットワーク日時に同期」の設定(P36)を【無効】にしたりすると、自動で日時は取得できません)

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→【日時設定】をタッチする
- ②「時刻補正」の【▶】をタッチする
- ③【-】【+】で変更する



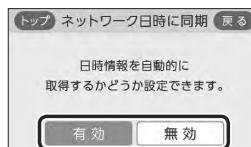
設定範囲(秒/月)
-45、-30、-15、0、+15、+30、+45

- リモコンの時刻が進む場合は+側、遅れる場合は-側の数値を設定してください。(例)時刻が1年で3分遅れる場合は、-15秒/月に設定する。(1年で3分=1か月で15秒)

ネットワーク日時に同期する

手順

- ① リモコンと無線LANルーターを接続しておく(P21)
- ②【メニュー】→【音・その他】→【日時設定】をタッチする
- ③「ネットワーク日時に同期」の【▶】をタッチする
- ④ 設定したい内容をタッチする



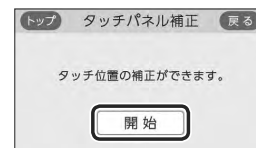
【有効】 1日1回、自動的に日時情報を取得する
【無効】 日時情報の取得を自動ではしない

- 【無効】に設定していた場合に【有効】をタッチすると、すぐに日時情報を取得して日時を合わせます。

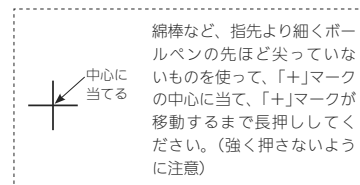
タッチ位置のずれを直す

手順

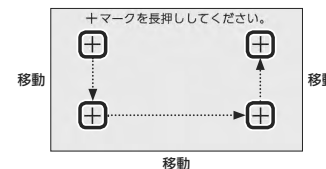
- ①【メニュー】→【音・その他】→【タッチパネル補正】をタッチする
- ②【開始】をタッチする



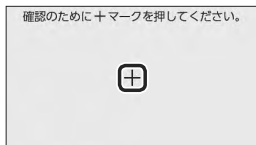
- ③「+」を長押しする



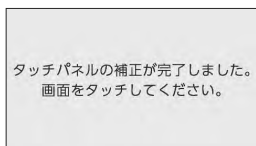
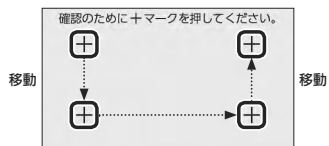
- ④ 移動する「+」を順番にすべて長押しする



⑤ 「+」を押す



⑥ 移動する「+」を順番にすべて押す

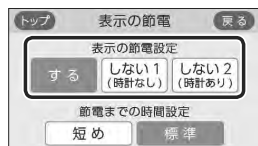


- 画面をタッチすると、タッチパネル補正画面に戻ります。
- 完了の画面にならない場合は、「+」の認識範囲以外の部分に、手が先に触れている可能性があります。

表示の節電をしない(する)
リモコン操作がない間は日時を大きく表示させる

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【画面設定】をタッチする
- ②「表示の節電」の【▶】をタッチする
- ③「表示の節電設定」の設定したい内容をタッチする

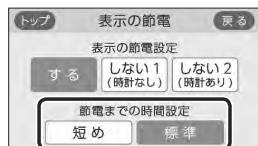


- 【する】
表示の節電をする
- 【しない1(時計なし)】
表示の節電をしない
- 【しない2(時計あり)】
ON/OFFスイッチを押ししたり画面をタッチしたりしないまま約10分※たつと、リモコンに日時を大きく表示させる(表示の節電はしません)
※時間を短くすることができます。(P37「表示の節電をするまでの時間を短くする」)

表示の節電をするまでの時間を短くする

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【画面設定】をタッチする
- ②「表示の節電」の【▶】をタッチする
- ③「節電までの時間設定」の設定したい内容をタッチする



(つづく)

メニューからの運転・設定(ユーザー設定)

画面の明るさを変更する

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【画面設定】をタッチする
- ②「画面の明るさ」の【▶】をタッチする
- ③【-】【+】で変更する



設定範囲
1段(暗い)~5段(明るい)

- 【標準】
約10分で表示の節電をする
- 【短め】
約1分で表示の節電をする

- P37「表示の節電設定」を「しない2(時計あり)」に設定している場合は、日時を大きく表示するまでの時間が変わります。

トップ画面のモードを変更する

- P9「トップ画面のモードを切り替える」で説明しています。

無線LAN機能をOFFにする

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする
- ②「無線LAN」の設定したい内容をタッチする



リモコンと無線LANルーターを接続する

- P21「リモコンと無線LANルーターを接続する」で説明しています。


リモコンとスマートフォンを接続する

- P25「リモコンとスマートフォンを接続する」で説明しています。

すべてのスマートフォンとの接続を解除する

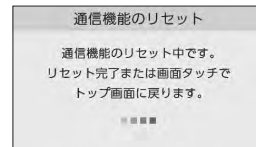
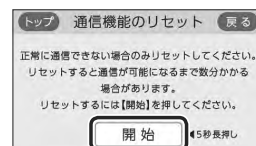
- P28「すべてのスマートフォンとの接続を解除する」で説明しています。

通信機能をリセットする

- トップ画面に無線LAN状態表示が表示されているにも関わらず、通信ができない場合や、考えられる処置を試してみてもどうしても通信ができない場合に、下記の手順で通信機能のリセットをおこなってください。

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする
- ②「無線LAN設定」の【▶】をタッチする
- ③ 右下の▼でページを送り、「通信機能のリセット」の【▶】をタッチする
- ④【開始】を約5秒長押しする



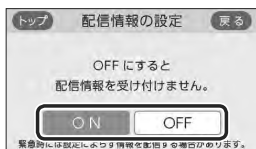
- 通信機能のリセットをおこなうと、数分間は無線通信できません。そのため、エネファーム用アプリに表示されるエネルギーのデータが実際の使用状況とずれることがあります。

- ⑥ 通信機能のリセット後、通信に関する不具合が解消できたかどうか確認する
それでも通信できない場合は、大阪ガスグッドライフコールに連絡してください

配信情報を受け付けないようにする

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする
- ②「無線LAN設定」の【▶】をタッチする
- ③ 右下の▼でページを送り、「配信情報の設定」の【▶】をタッチする
- ④ 設定したい内容をタッチする



【ON】
配信情報を受け付ける

【OFF】
配信情報を受け付けない
(緊急時には情報を配信する場合があります)

無線LANに関する設定情報を確認する

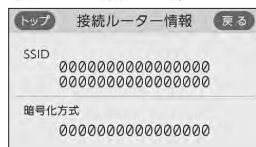
- 接続に失敗したときや、お問い合わせの際などに必要な設定情報を確認できます。
- リモコンと接続した無線LANルーターのSSIDを確認するには「接続ルーター情報」、リモコンと接続したスマートフォンの数を確認するには「接続UUIDリスト」をご覧ください。
- P21「電波法に関する注意」の「技術マーク」は、「設定情報」の最終項目「認証」の【次へ】をタッチすると、認証の画面(電子銘板)で表示されます。

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【無線LAN】をタッチする
- ②「設定情報」の【▶】をタッチする
- ③ 確認したい内容の【▶】をタッチする
※確認したい内容が表示されていない場合は、右下の▼でページを送る

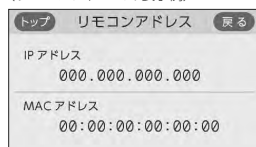


(接続ルーター情報の表示例)



- 「0」には英数字が表示されます。また、表示例と桁数が異なる場合があります。

(リモコンアドレスの表示例)



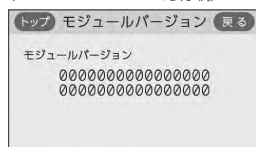
- 「0」には英数字が表示されます。また、表示例と桁数が異なる場合があります。

(接続UUIDリストの表示例)



- UUIDとは、スマートフォンを識別するIDです。リモコンとスマートフォンが接続されている場合、接続されている数だけ表示されます。リモコンとスマートフォンが接続されていない場合は①～⑩の「0」は空白になります。
- 「0」には英数字が表示されます。また、表示例と桁数が異なる場合があります。

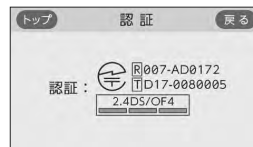
(モジュールバージョンの表示例)



- 「0」には英数字が表示されます。また、表示例と桁数が異なる場合があります。

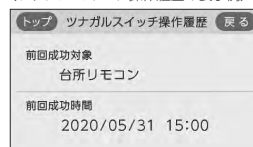
(つづく)

(認証(電子銘板)の表示例)



- 参照：P20「無線LAN通信についての注意」
P21「電波法に関する注意」

(ツナガルスイッチ操作履歴の表示例)

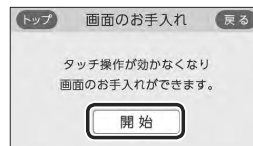


- 最後に受け付けられた「ツナガルスイッチ」の操作がいつ受け付けられたかを表示します。
※この画面での「台所リモコン」は、後付構成用発電係リモコンのことを表します。

タッチパネルのお手入れをする

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【画面のお手入れ】をタッチする
- ②【開始】をタッチする

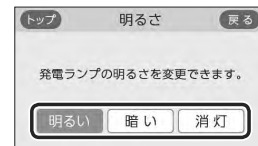


- ON/OFFスイッチを押すか、操作後約10分経過すると、お手入れモードは解除されます。

発電ランプの明るさを変更する

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【発電ランプ】をタッチする
- ②「明るさ」の【▶】をタッチする
- ③ 設定したい内容をタッチする

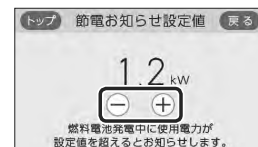


発電ランプの節電お知らせ設定値を変更する

- 日常的に使用電力が多く、発電ランプが頻繁にオレンジ色(節電お知らせ)になる場合などに、設定値を多めに設定してください。
- 逆潮流の場合は項目を表示しません。

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【発電ランプ】をタッチする
- ②「節電お知らせ設定値」の【▶】をタッチする
- ③【-】【+】で変更する



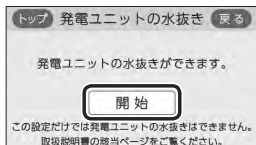
設定範囲(kW)
1.0~6.0

発電ユニットの水抜きをする

- この設定だけでは発電ユニットの水抜きはできません。必ず「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の該当ページをご覧ください。

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【発電ユニットの水抜き】をタッチする
- ②【開始】をタッチする

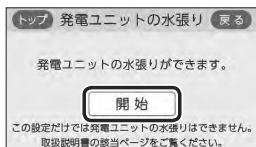


発電ユニットの水張りをする

- この設定だけでは発電ユニットの水張りはできません。必ず「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の該当ページをご覧ください。

手順

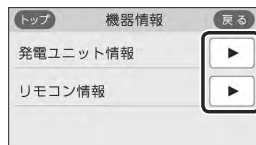
- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【発電ユニットの水張り】をタッチする
- ②【開始】をタッチする



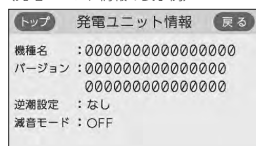
アフターサービスなどで機器情報が必要なとき

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【機器情報】をタッチする
- ②確認したい内容の【▶】をタッチする

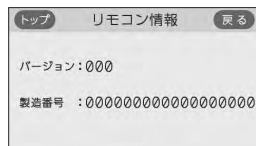


(発電ユニット情報の表示例)



- 「0」には英数字が表示されます。

(リモコン情報の表示例)



- 「0」には英数字が表示されます。

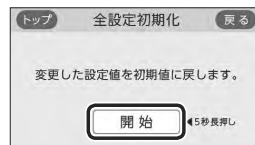
メニューからの運転・設定(ユーザー設定)

ユーザー設定を初期値に戻す

- P33の表中の「初期化」欄に★のある項目が初期化されます。

手順

- ①【メニュー】→【音・その他】→右下の▼でページを送り、【全設定初期化】をタッチする
- ②【開始】を約5秒長押し(ビピッと鳴るまで)



- ユーザー設定以外に、配信情報スイッチをタッチしたあとに表示される配信情報(P27)も初期化されます。

リモコンのお手入れ

- リモコンの表面が汚れたときは、湿った布で軽くふいてください。
- ON/OFFスイッチが「切」でも、画面をタッチすると反応するしくみになっています。画面のお手入れ時にリモコンの誤操作を防ぐためには、【メニュー】→【音・その他】→【画面のお手入れ】(P40)の設定をしてください。

お願い

リモコンの掃除には、塩素系・酸性・アルカリ性の洗剤や研磨剤入りの洗剤、ベンジン・シンナーなどの有機溶剤、メラミンスポンジを使用しない
変色・変形・傷・割れなどの原因になります。

故障・異常かな?と思ったら

- 「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の内容も併せてご覧ください。

絵表示の説明

- ① こんなときは(状況)
 - こんなことが考えられます(原因)
- こうしてください(処置)

リモコンの表示や画面など

? ON/OFFランプが点灯しない

- 停電している。
→復旧を待つ。
- 発電ユニットの電源が切れている。
→電源プラグや電源ブレーカーを確認する。

? 日時表示や時計表示がリセットされている

- 停電のあとや電源を切ったあとは、再通電したときに日時や時計がリセットされている場合があります。
→日時を合わせ直す。(P10)

? 画面表示がいつのまにか消えている

- リモコンの節電のため、「表示の節電」機能を備えています。ON/OFFスイッチを押ししたり画面をタッチしたりしないまま約10分たつと画面表示が消えます。
→異常ではありません。

? 表示の節電の状態にならない

- 表示の節電をしない設定になっている。
→表示の節電を「する」に設定する。(P37)
- 発電ユニットが起動するときの約10分間は表示の節電はしません。
→異常ではありません。
- (自立運転機能付の場合)
自立運転中は表示の節電はしません。
→異常ではありません。

? 凍結予防運転マーク❄️が点灯している

- 発電ユニットの凍結予防のため、ヒーターが作動しているときに点灯します。
→異常ではありません。

? タッチしたところと違うところが反応する

- 片方の指で画面を触りながらもう片方の指で操作するなど、2点同時にタッチすると、正常に動作しません。
→1か所だけタッチする。
- 使用していくうちに、タッチの位置にずれが生じることがあります。
→タッチ位置のずれを直す。(P36)

❓ 画面をタッチしても反応しない

- 画面に市販の保護シートなどを貼り付けると、正常に動作しないことがあります。
→市販の保護シートは貼り付けない。

❓ 画面に黒い点や常に点灯している点がある

- 画面の液晶は高度な技術で作られています。一部に点灯しない点、または常時点灯する点が存在する場合があります。
→異常ではありません。

❓ リモコンに↓の表示が出て発電が止まっている

- 電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止しています。
→P34「発電が停止しているときに、発電を再開する」の方法で、発電を再開できます。

❓ リモコンにMの表示が出ている

- この表示は4時間から9時間出ます。その間、発電ユニットは停止し、ガスマイコンメーターがガスものの有無を確認します※。発電ユニットは、4時間から9時間停止後、自動で運転を再開します。
※詳細は、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書「ご使用方法 運転・停止について」をご参照ください。
→すべてのガス機器(暖房を含む)を最低70分停止してください。

❓ 「出力抑制」の表示が出ている

- 外気温が高いときや、熱が滞留するような設置環境にあるときは、運転を継続させるために、発電ユニットの出力を抑えます。これらの条件が解消されると、この機能は自動的に解除されます。
→「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」をご参照ください。

❓ (逆潮流の場合)「電圧抑制」の表示が出ている

- 自宅につながっている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が法律で定められた上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。(このとき「電圧抑制」を表示します)系統の電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。
→「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」をご参照ください。

❓ リモコンの操作中に、いきなり画面が消えた

- 発電ユニットのソフトウェアの更新が始まると、リモコンの画面が消えて、しばらく操作できなくなります。
→異常ではありません。

❓ 配信情報が消えた

- リモコンの「全設定初期化」をすると、配信情報が削除されます。
→異常ではありません。
■停電のあとや電源を切ったあとは、再通電したときに配信情報が削除されます。
→異常ではありません。

❓ 表面のビニールが破れてきた、はがれてきた、浮き上がって空気が入っている

- 表面のビニールは保護シートです。はがさずに使用してもはがして使用してもかまいません。はがさずに使用した場合は、よく触れる部分などが破れてきたりはがれてきたりします。
→気になる場合は保護シートをはがす。

❓ 見る角度によっては画面が見えにくくなる

- 画面は正面からは見やすく、一定の角度を超えて画面を見ると見えにくい場合があります。
→異常ではありません。

❓ (蓄電池を使用している場合) 使用電力量の表示が、実際に使っている電力量より多い(または少ない)

- 蓄電池が充電または放電しているときは、家庭内で使用している電力量より多く表示されたり少なく表示されたりすることがあります。
→異常ではありません。

リモコンにメッセージを表示したとき

❓ 「セルフチェックを実施しています。〰完了後、発電を自動的に再開します。」(交互に表示)

- 発電ユニットの異常を検出してセルフチェックをしています。この表示が出ている間は発電が停止しています。
→この表示が消えると発電を再開します。

❓ 「メニューの【お知らせ】から、暗証番号を入力してください。」

- 長時間停電したあとや、長時間電源を切っていたあとなどに、再通電してON/OFFスイッチを「入」にすると、この画面になる場合があります。
→暗証番号を入力してください。(P46)

❓ 「ただいま表示をOFFにすることはできません。」

- 自立運転中や、故障表示中など、表示を消かしてはいけない状況のときにON/OFFスイッチを「切」にすると、この表示が出ます。
→操作可能な状態になると、この表示は出なくなります。

❓ 「機器に空気が混入しているため、発電ユニットの水張りをしてください。」

- 「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書にしたがって、「発電ユニットの水張り」をしてください。

❓ 「発電ユニットの点検時期が近づいています。」

- 「発電ユニットの点検が必要です。」
「発電ユニットの点検時期を過ぎています。」
→販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。(つづく)

リモコンにメッセージを表示したとき(つづく)

❓ 「発電ユニット停止までお待ちください。」

- 発電ユニットが停止し、「⊙」スイッチを押してエラーが解除されない場合は、メンテナンスを依頼してください。のメッセージが表示されるまでお待ちください。(時間がかかります)
その後、下記「⊙」スイッチを押してエラーが解除されない場合は、メンテナンスを依頼してください。」の表示が出る」の内容にしたがって、処置をしてください。

❓ 「⊙」スイッチを押してエラーが解除されない場合は、メンテナンスを依頼してください。」(発電は停止しています)

- ON/OFFスイッチを押して、表示が消えれば問題ありません。表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

❓ 「処理中です。しばらく待ってから再度操作してください。」

- 「データの取得に失敗しました。取扱説明書をご確認の上もう一度やり直してください。」
■無線通信に必要なソフトウェアを自動的に更新しているときなどで通信が混雑していると、一時的に通信できない場合があります。
→10分程度時間をおいて、再度操作する。
再度操作しても同じ場合は、通信機能をリセットしてください。(P38)
※それでも同じ現象であれば、故障の可能性があるため、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

無線LAN機能

リモコンと無線LANルーターとの接続時

❓ 無線LANルーターとの接続に失敗した

- 無線LANルーターの電源が切れている。
→無線LANルーターの電源を入れる。
- 無線LANルーターが正常に動作していない。
→同じ無線LANルーターを使っている機器がインターネットに接続できているか確認する。
接続できていない場合は、無線LANルーターに異常がないか確認する。
- 無線LANルーターやリモコンの近くで、電子レンジを使用している。
→電子レンジを使用していないときに操作をする。
- 無線LANルーターがリモコンと離れすぎている。
または、壁・ドア・家具・金属などの障害物がある。
→無線LANルーターがつながる場所に無線LANルーターを移動させる。
- 無線LANルーターのDHCP機能を「無効」にしている。
→DHCP機能を「有効」にする。
- 無線LANルーターの暗号化方式がWEP方式である、または暗号化されていない。
→暗号化方式を「WPA/WPA2」「WPA2」「WPA」のいずれかに設定する。

❓ 無線LANルーターの検索接続で、検索した無線LANルーターのSSIDの表示に空白がある

- SSIDを日本語に設定している無線LANルーターは、表示に空白がある場合があります。
→異常ではありません。
SSIDの表示に空白がある場合でも、暗号化キーを入力すれば接続できます。

❓ 無線LANルーターの検索接続で、無線LANルーターのSSIDが表示されない

- 無線LANルーターがステルス設定になっている。
→無線LANルーターの取扱説明書やホームページなどを参考に、ステルス設定を解除する。

リモコンの無線LAN状態表示

❓ 無線LAN状態表示が表示されない

- リモコンと無線LANルーターが接続設定されていないと、無線LAN状態表示は表示されません。
→無線LANルーターと接続する。(P21)
- 無線LANルーターと接続していても、「無線LAN」の設定が【OFF】になっていると無線LAN状態表示は表示されません。
→P38の方法で、「無線LAN」の設定を【ON】にする。

❓ 無線LAN状態表示が📶になっているのに、通信ができない

- 考えられる処置をしてみたが通信ができない
■外部の原因も考えられますが、念のためリモコン側のリセットを試みてください。
→「通信機能のリセット」をする。(P38)
- リモコンのソフトウェアを自動的にダウンロードしているときに一時的に通信ができない場合があります。
→少し時間をおいて再度確認する。

❓ 無線LAN状態表示が「圏外」になっている

- 無線LANルーターがリモコンと離れすぎている。
または、壁・ドア・家具・金属などの障害物がある。
→無線LANルーターがつながる場所に無線LANルーターを移動させる。
- 電子レンジなどの強い電波を発するものを使用していると、通信が切れる場合があります。
→異常ではありません。
電子レンジなどを使用していないときに、再度確認する。
- 無線LANルーターを交換した。(新しい無線LANルーターとリモコンとの接続設定をしていないと「圏外」表示が出ます)
→新しい無線LANルーターと接続する。(P21)
- 無線LANルーターの異常の可能性もあります。
→無線LANルーターに異常がないか確認する。
- 無線通信に必要なソフトウェアを自動的に更新しているときなどで一時的に通信ができない場合があります。
→少し時間をおいて再度確認する。
- 無線LANルーターをリセットすることで復帰する場合があります。
→無線LANルーターの電源を「切」→「入」して、再度確認する。

メニューからの運転・設定ユーザー設定


こんなとき困ったとき

無線LAN状態表示がになっている

- 日時が設定されていない。
→日時あわせをする。(P10)
- 無線LANルーターのLANケーブルが外れている。
→LANケーブルが外れていれば接続する。
- 無線LANルーターが正常に動作していない。
→同じ無線LANルーターを使っている機器がインターネットに接続できているか確認する。
接続できていない場合は、無線LANルーターに異常がないか確認する。
- 契約されているインターネットに障害が発生している。
→ご使用の無線LANルーターに接続されている他の機器が正常に無線LAN通信できていない場合は、プロバイダーに問い合わせる。
- 無線通信に必要なソフトウェアを自動的に更新しているときなどで一時的に通信ができない場合があります。
→少し時間を置いて再度確認する。
- 無線LANルーターをリセットすることで復帰する場合があります。
→無線LANルーターの電源を「切」→「入」して、再度確認する。

リモコンとスマートフォンとの接続時

リモコンとスマートフォンとの接続に失敗した

- リモコンとスマートフォンが、同じ無線LANルーターに接続されていない。
→同じ無線LANルーターに接続する。
※同じ無線LANルーターに接続していても失敗する場合は、同じSSIDに接続する。
- 対象ではないエネファーム用アプリを使用している。
→対象のエネファーム用アプリを使用する。(P19)
- 無線LAN状態表示がや「圏外」になっている。
→P44「リモコンの無線LAN状態表示」の項目を確認する。

(自立運転機能付の場合)

自立運転

停電中

電気機器の電源が入らない

- 電気機器を通常のコンセントに接続している。
→電気機器を「自立運転専用コンセント」に接続する。
- 電気機器の使用電力が発電量を超えている。
→使用する電気機器の数をすぐに減らし(P29「停電に備え、使用できる電気機器を確認しておいてください」)、自立運転専用コンセントが使えるようになるまで待つ。
「自立用コンセントの出力が準備できました。使用する電気を減らし【再開】を押してください。」とメッセージが出ているときは、メッセージに従って操作をする。
- P29「以下の場合自立運転できません」の理由により、自立運転が停止している。
→停電が復旧するまで発電できません。

リモコンのON/OFFスイッチが「入」にならない

- P29「以下の場合自立運転できません」の理由により、自立運転が停止している。
→停電が復旧するまで発電できません。

画面表示がいつのまにか消えている

- 発電ユニットに不具合が生じた可能性があります。
→停電復旧後、故障表示が出ている場合は、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書を確認し、処置をする。

リモコンでお知らせ音(ビピッ)が鳴り、「発電継続のために、お湯を使ってください。」の表示が出ている

- 貯湯タンクが満タンになって発電が停止するのを予防するため、貯湯タンクが満タンに近づくと表示と音でお知らせします。
→お風呂のお湯はりをするなどして、お知らせ音と表示が消えるまでお湯を使う。

停電復旧後

電気機器の電源が入らない

- 電気機器を「自立運転専用コンセント」に接続している。
→電気機器を通常のコンセントに接続する。
停電が復旧すると、自立運転専用コンセントへの電気の供給が停止します。

困ったとき

リモコンに「暗証番号を入力してください」と表示したとき

- 長時間停電したあとや、長時間電源を切っていたあとなどに、再通電して日時あわせをすると、リモコンに下のような画面を表示する場合があります。以下の手順で暗証番号を入力してください。

手順

<メッセージと「発電×」が交互に出るとき>

発電× 10:15

約5秒ごと

メニューの【お知らせ】から、暗証番号を入力してください。

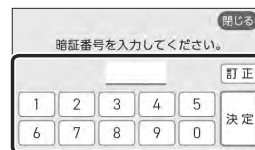
→下記の手順1・2をおこなう

<暗証番号入力画面を表示したとき>

→下記の手順2をおこなう

1. 【メニュー】→【お知らせ】→【暗証番号に関するお知らせ】→【再入力】をタッチする

2. 数字をタッチして2桁の暗証番号を入力
→【決定】をタッチして確定する




- 暗証番号がまちがっていると、再入力画面になるので、再度やり直してください。
- 操作をせずに約10分放置すると、トップ画面に戻ります。その場合は、手順1から再度操作してください。

お知らせ

- はじめてお使いになるときに暗証番号を登録します。お忘れにならないよう、覚えやすい数字(例：電話番号の下2桁など)を登録してください。
- 暗証番号を正しく入力しないと、発電ユニットが機能しません。
- 暗証番号がわからなくなったときは、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

故障・異常かな?と思ったら/リモコンに故障表示が出ているとき/リモコンにアップデートに関するお知らせを表示したとき/転居されるとき/アフターサービスについて

リモコンに故障表示が出ているとき

- 不具合が生じたとき、と5桁の英数字が交互に表示します。表示の内容と処置方法については、「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書をご覧ください。

リモコンにアップデートに関するお知らせを表示したとき

- 画面に従って操作してください。

ご注意ください

- アップデート中は、数分間、画面が消灯してリモコンを操作できません。アップデートが完了すると、操作できるようになります。
- エネルギーの当日分のデータが削除されたり正しい値を表示しなかったりします。

転居されるとき

- 転居される際は、リモコンの「全設定初期化」をおこなない、お客さまの無線LANルーターやスマートフォンの情報をリモコンから削除してください。(P42「ユーザー設定を初期化に戻す」)

アフターサービスについて

サービスを依頼されるとき

- この取扱説明書の「故障・異常かな?と思ったら」と「エネファームtypeS燃料電池発電ユニット」の取扱説明書を調べていただき、なお異常のあるときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

移設される場合

- 移設作業はお客さま自身でおこなわず、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。エネファーム用アプリは、大阪ガスのエネファームのフルメンテナンスサポート対象エリア内でのみ、使用可能です。